

一般社団法人

日本保育学会 第76回大会

JAPAN SOCIETY of RESEARCH on EARLY CHILDHOOD CARE and EDUCATION

テーマ

保育を創る、未来を拓く
～保育学の創造をめざして～

【プログラム】

主催：一般社団法人 日本保育学会 第76回大会実行委員会

目 次

■ご挨拶	3
■お祝い（韓国幼児教育学会より）	4

1. 大会参加者の方へ

■大会開催前・大会当日などについて	6
■大会日程	9
■会場と発表区分	11

2. 研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ

■自主シンポジウム・口頭発表・ポスター発表について	18
■大会研究発表に関する規定	21
■一般社団法人日本保育学会 研究奨励賞規程	23
■一般社団法人日本保育学会 第76回大会発表におけるガイドライン	25
■一般社団法人日本保育学会 オンライン参加に関するガイドライン	26

3. 講演・シンポジウム

■基調講演	大会1日目	10:00 ～	28
■各種シンポジウム・企画	大会1日目	13:00 ～	32
	大会2日目	9:30 ～	38

4. 自主シンポジウム

■自主シンポジウム	53
-----------------	----

5. 研究発表

■口頭発表	74
■ポスター発表	94

6. 人名索引

■人名索引	139
-------------	-----

7. 大会実行委員会について

■大会実行委員会規程	154
■大会開催細則	155
■協賛企業・団体・後援	156
■実行委員会	157

日本保育学会第76回大会を開催するにあたってのご挨拶

日本保育学会第76回大会のプログラムをお届けいたします。

近年、人口減少や高齢化、デジタルトランスフォーメーション、グローバル化、多極化、地球環境問題などがこれまで以上に進行することが予想されるとともに、変動性や不確実性、複雑性、曖昧性の時代と称されるようになり、先行きが不透明で、将来の予測が困難な未来を迎えようとしていることが指摘されています。こうした状況の中で、これからの教育の在り方について、社会の変化に対応するために獲得すべき能力として、知識・技能やそれらを踏まえた思考力・判断力・表現力、学びに向かう力や人間性、それらを総合して新たな価値を創造していく力を育成していくことの大切さが唱えられています。

子育て、保育、幼児教育の領域にあっては、例えば、幼児の発育に関して、社会状況の変化等による幼児の生活体験の不足等から、基本的な技能等が十分に身に付いていないという課題や世帯構造や地域社会の変化に伴い、子育てについての悩みや不安を多くの家庭が抱えながらも、身近に相談できる相手がいないといった家庭教育を行う上での課題が指摘される中で、全ての子どもが心身ともに健やかに育成され、及びその教育の機会が保障され、子ども1人ひとりが夢や希望をもつことができる社会、また、安心して子どもを生み、育てることのできる地域社会の形成が課題として提起されています。

今大会は、「保育を創る、未来を拓く～保育学の創造をめざして～」をテーマに、現代における保育の理論と実践に求められているものは何かについて改めて検討していきたいと考えています。子ども・保護者・保育者の権利という視点から、新時代の保育をデザインし、創造していくことをめざしたいものです。そこでは、「学としての保育」のこれまでの振り返り、実証的な知見や成果に基づいた保育の理論的・実践的研究の発展と深化にとって不可欠な道標を模索していくことが大切になります。保育に携わる様々な人たちが集まり、大いに語り合うことで、養護と教育の一体性という学際的かつ総合的な性格を有する保育の世界をさらに探究していきたいと思いをします。

さて、この3年に及ぶ新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の影響を受けて、今大会は昨年度に引き続きオンラインでの開催となります。本来であれば、2016年4月に発生した熊本地震からの復旧・復興の過程にある熊本県にお越しいただいて、各地で豊かな自然風土に触れながらいろいろな交流や情報交換をしていただければと願っておりましたが、それが叶わない形となり、大変残念に思っております。しかしながら、およそ自主シンポジウム60件、ポスター発表490件、口頭発表180件というように、多くの会員等の皆様のご参加を得ることができていますことはこの上なく嬉しい限りです。また、熊本からの情報発信となる記念講演をはじめ、3つのシンポジウム、特別パネルディスカッション、九州の保育実践など豊富な企画が用意されております。

今大会が保育をめぐる理論と実践の創造にとりまして、有意義な場となりますことを祈念いたしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2023年4月

日本保育学会第76回大会実行委員長
伊藤 良高

お 祝 い

日本保育学会第 76 回大会の開催を祝って

初めまして。

5月の美しい季節に際し、九州の熊本学園大学にて日本保育学会第76回大会が開催されることを心からお祝い申し上げます。

これまで3年間、国内外における学会や学術交流はオンラインが中心となりました。対面で実施される活発さが薄れてきてしまったことがとても残念に思えます。しかしながら、今大会の開催のため、日本保育学会の会長を始め役員の先生方及び会員の皆様のご尽力により、オンライン会議を活用した素晴らしい学会が開催されることがとても嬉しく思えます。

近年COVID-19により、デジタルトランスフォーメーションの時代はさらに進み、ポストコロナ時代における幼児教育・保育のパラダイムの構築へ積極的な関心が向けられるようになりました。また、日本保育学会と韓国幼児教育学会は協定を結び、交流を続けながら両国で開催される学会に様々な形で参加してきました。昨年の11月には、韓国幼児教育学会の会長と役員が東京を訪問したことにより、日本保育学会の会長先生や役員の先生方と会談し協定期間の延長及び親睦を図ることができました。貴重な機会をいただき、両学会の交流をさらに深めることができたと思います。そのような交流の場を設けて下さった日本保育学会会長の秋田喜代美先生に深く感謝申し上げます。

これからの両学会の学術交流を通し、日本と韓国が幼児教育・保育に多くの学術的・実践的視点を相互に学び合う有意義な時間となることと確信します。

韓国は、近年、社会現象として深刻な少子化問題を抱えており、幼稚園や保育所に入園する子どもの数が激減しています。これらの情勢を受け韓国政府は、延ばしてきた幼保統合の実現に向け2025年には教育部（日本における文科省にあたる）の管轄の下、幼稚園と保育所を統合することを発表しました。最終的には、幼保小の移行問題だけでなく、幼児教育制度の確立を通し中等教育まで連動した義務教育への統合、公教育及び完全無償教育の実現を目指しています。

デジタル時代が進む未来の保育に向け、「保育を創る、未来を拓く～保育学の創造をめざして～」をテーマに開催される今大会が実りの多いものとなることを祈ると共に、日本保育学会のさらなる発展をお祈り申し上げます。

2023年2月

韓国幼児教育学会 会長 鄭晶姫

（翻訳：聖徳大学短期大学部保育科 金玟志）



1. 大会参加者の方へ

1. 大会に参加される皆様へ

- (1) 今年度の大会は熊本学園大学が担当校となり、オンラインで開催することになりました。自主シンポジウム・口頭発表・ポスター発表のいずれについても、大会当日は質疑応答や討議のみとなります。話題提供や発表は動画もしくはポスターの形で、大会前に公開されます。大会に参加される方は、必ず事前に原稿や動画、ポスターに目を通した上で、当日の質疑応答や討議にご参加ください。なお、基調講演や学会企画、実行委員会企画については事前に動画を公開することはせず、当日に Zoom にて講演者やシンポジストからの話題提供等を配信します。
- (2) 事前に参加登録をされていない方で、大会への参加をお考えの方は、直前登録をしていただきますようお願いいたします。直前登録方法や参加費の支払い方法については、大会ホームページをご確認ください。
(<https://confit.atlas.jp/guide/event/hoiku76/top>)
◎直前登録期間：2023 年 4 月 1 日（土）～ 5 月 14 日（日）15 時まで
- (3) 早期参加登録・直前参加登録ともに、領収書は登録画面よりログインしていただきご自身でダウンロードしてください。なお、今大会においては大会参加証（ネームカード）の発行はありません。

■大会開催前について

- (1) 参加登録をされた方には、事前投稿動画の視聴ページにログインするための案内をメールにてお送りします。なお、ログインの際には、オンライン視聴に関する倫理規定について、必ずご確認くださいの上でご視聴ください。
- (2) 自主シンポジウムと口頭発表については、4 月 14 日（金）～ 5 月 14 日（日）の期間中に事前投稿動画を閲覧する事ができます。なお、5 月 13 日（土）と 14 日（日）大会当日は、Zoom での質疑応答・討論のみとなりますので、予め各事前投稿動画をご覧の上、大会にご参加ください。
- (3) ポスター発表については、事前投稿ポスターを 4 月 14 日（金）～ 5 月 14 日（日）の期間中に閲覧する事ができます。事前投稿ポスターには、大会前に各ポスターの下に設定されているコメント投稿欄から質問や意見などを事前に入力・送信することができます。なお、5 月 13 日（土）と 14 日（日）の大会当日は、各ポスターの下に設置されているコメント投稿欄から、事前に投稿された質問や意見に対してポスター発表者が回答を行います。当日の質問や意見の投稿も可能ですが、ポスター発表者がより多くの質問・意見を得たり、閲覧者との議論を深めたりする点から、予め各事前投稿ポスターをご覧の上、事前の質問・意見投稿へのご協力をお願いいたします。
- (4) 自主シンポジウムと口頭発表の事前投稿動画の再生には動画配信サービス Vimeo を使用します。Vimeo のサポートするブラウザは以下のとおりです。
Chrome 60+、Firefox 60+、Microsoft Edge 79+、Safari 11+

■大会当日について

- (1) オンライン会場へのアクセス
大会ホームページの、オンライン開催ページよりログインをしてください。視聴されたいセッションをタイムテーブルから選択していただくと視聴（参加）ができます。
後日、オンライン開催ページへのアクセス方法等を記載したマニュアルを大会ホームページに掲載いたします。
(<https://confit.atlas.jp/guide/event/hoiku76/top>)

(2) 注意事項

事前投稿動画、事前投稿ポスター、基調講演、学会企画、実行委員会企画シンポジウム、国際シンポジウムなど大会の講演やシンポジウム等の内容の写真撮影・動画撮影・音声録音・スクリーンショットは、原則禁止いたします。

(3) 接続環境・設備

◆ブロードバンド有線またはワイヤレスのインターネット回線が必要です。

※安定的な接続のため、インターネットは有線のご利用を強く推奨いたします。

◆Wi-Fi でのご利用の場合、通信環境が不安定となりセッション中に中断する危険性がございます。

◆お持ちのパソコンにカメラ、スピーカー、マイクが付属されているかご確認ください、可能な限り、マイク付きイヤホンやヘッドセットマイクなどをご使用ください。内臓のカメラ、スピーカー、マイクも利用できますが、内臓マイクは雑音や環境音を拾いやすく、ハウリングを起こしやすいため、ヘッドセットの使用を推奨します。

◆マイクやカメラを使用するアプリケーション(Skype 等)が、裏で動いている場合があります。セッション中は、セッションに不要なアプリケーションは全て閉じてください。

(4) Zoom アプリのインストールと接続テスト

【インストール】

◆予め、Zoom アプリ(無料のもの)をダウンロードしてください。Zoom アプリは無料のもので問題なく大会に参加できます。

◆サイト (<https://zoom.us/download>) にアクセスし、ミーティング用 Zoom クライアントを「ダウンロード」を開始します(アプリは Windows・Mac・iPad・iPhone・Android で利用できます)。

◆以下の公式サイトより、サポートされているオペレーションシステムとインターネットブラウザをご確認ください。(<https://support.zoom.us/hc/ja>)

【接続テスト】

◆当日セッションに実際にご利用いただく場所・回線・パソコン等の端末を用いて、以下の URL よりあらかじめ接続テストを行ってください。(<https://zoom.us/test>)

◆接続テストの際、ご利用のインターネットの通信環境が安定しているかをご確認ください。通信環境は時間帯により変動します。通信環境に問題がないか接続テストを行ってください。

◆接続テストにて、必ずマイク・カメラの接続テストを行ってください。

◆「施設内 LAN」や「施設内 PC」をお使いの場合、各種制限により Zoom を使って通信ができない場合がございます。必ず事前に Zoom の接続テストを行ってください。

(5) 表示名の設定

◆運営スタッフが認識しやすいよう、名前の表示設定を必ず行ってください。

◆参加者(発表をせず参加のみ)の方は、氏名+所属の表示をお願いします。ニックネーム等の表示はご遠慮ください。表示名は、下記手順より変更できます。

Zoom 下部にある「参加者」ボタンをクリック→自分の名前のところにカーソルを移動→「詳細」ボタンをクリック→「名前の変更」をクリックし変更。

(6) 討論・質疑応答への参加

【自主シンポジウム】

◆各会場には企画趣旨・話題提供などを行う登壇者が入室しております。司会者等企画者の進行に従って質疑応答や討議に参加してください。質疑応答は下記手順にて行います。質問がある場合は、Zoom の「手を挙げる」ボタンを押してください。

司会者等企画者に指名されたら、ご自身でミュートを解除し、発言をしてください。

手を挙げるボタンは、Zoom 画面の下部にある「リアクションボタン」または、「反応ボタン」を押していただくと、「手を挙げる」ボタンが表示されます。

◆当日の技術的なトラブル等については Zoom のチャット機能でご質問ください。ただし、自主シンポジウムの議論に関することなど、登壇者への質問は、原則チャットではお受けいたしませんので、上記の「手を挙げる」ボタンをご利用ください。

◆質問者が複数いる場合は順番となりますので、司会者等企画者の指示に従ってください。

◆各会場の収容人数を超えた場合は、入室できませんので予めご了承ください。

【口頭発表】

◆各会場には、座長と筆頭発表者が入室しております。座長の進行に従って質疑応答や討議に参加してください。質疑応答は下記手順にて行います。

質問がある場合は、Zoom の「手を挙げる」ボタンを押してください。

座長に指名されたら、ご自身でミュートを解除し、発言をしてください。

手を挙げるボタンは、Zoom 画面の下部にある「リアクションボタン」または、「反応ボタン」を押していただくと、「手を挙げる」ボタンが表示されます。

◆当日の技術的なトラブル等については Zoom のチャット機能でご質問ください。ただし、口頭発表に対する質疑や討論に関することなど、発表への質問は、原則チャットではお受けいたしませんので、上記の「手を挙げる」ボタンをご利用ください。

◆質問者が複数いる場合は順番となりますので、座長の指示に従ってください。

◆各会場の収容人数を超えた場合は、入室できませんので予めご了承ください。

【ポスター発表】

◆在籍責任時間中に、筆頭者がコメント投稿欄で質問や意見等への回答をしたり、参加者との議論をコメント投稿欄で行ったりします。

◆オンライン視聴サイト内のコメント投稿欄にご質問等をご入力いただき「投稿」ボタンを押してください。

◆コメントは、発表資料掲載期間中いつでも投稿ができます。

大会日程

5月13日(土)		
9:30～9:50	開会式	第1会場
10:00～11:30	基調講演	第1会場
11:30～12:10	社員総会	第1会場
12:10～12:50	ランチタイムセッションA	第1会場
13:00～16:00	国際シンポジウム	第1会場
13:00～14:00	自主シンポジウムA 討論	第3～11会場
13:30～15:30	実行委員会企画シンポジウムA	第2会場
14:00～14:30	ポスター発表A 在籍責任時間	ポスター会場
14:30～15:15	口頭発表K-A-1 討論	第3会場
14:30～15:15	口頭発表K-A-2 討論	第4会場
14:30～15:15	口頭発表K-A-3 討論	第5会場
14:30～15:15	口頭発表K-A-4 討論	第6会場
14:30～15:15	口頭発表K-A-5 討論	第7会場
14:30～15:15	口頭発表K-A-6 討論	第8会場
14:30～15:15	口頭発表K-A-7 討論	第9会場
14:30～15:15	口頭発表K-A-8 討論	第10会場
14:30～15:15	口頭発表K-A-9 討論	第11会場
15:30～16:00	ポスター発表B 在籍責任時間	ポスター会場
16:00～17:00	自主シンポジウムB 討論	第3～11会場
17:15～18:00	口頭発表K-B-1 討論	第3会場
17:15～18:00	口頭発表K-B-2 討論	第4会場
17:15～18:00	口頭発表K-B-3 討論	第5会場
17:15～18:00	口頭発表K-B-4 討論	第6会場
17:15～18:00	口頭発表K-B-5 討論	第7会場
17:15～18:00	口頭発表K-B-6 討論	第8会場
17:15～18:00	口頭発表K-B-7 討論	第9会場
17:15～18:00	口頭発表K-B-8 討論	第10会場
17:15～18:00	口頭発表K-B-9 討論	第11会場

※実行委員会企画<九州の保育実践>を大会HP上で終日公開しております。

5月14日(日)		
9:30～11:30	実行委員会企画シンポジウムB	第2会場
9:30～10:30	自主シンポジウムC 討論	第3～12会場
10:00～12:00	学会企画 編集常任委員会シンポジウム	第1会場
10:30～11:00	ポスター発表C 在籍責任時間	ポスター会場
11:00～11:45	口頭発表K-C-1 討論	第3会場
11:00～11:45	口頭発表K-C-2 討論	第4会場
11:00～11:45	口頭発表K-C-3 討論	第5会場
11:00～11:45	口頭発表K-C-4 討論	第6会場
11:00～11:45	口頭発表K-C-5 討論	第7会場
11:00～11:45	口頭発表K-C-6 討論	第8会場
11:00～11:45	口頭発表K-C-7 討論	第9会場
11:00～11:45	口頭発表K-C-8 討論	第10会場
12:10～12:50	ランチタイムセッションB	第1会場
13:00～15:00	学会企画 課題研究委員会シンポジウム	第1会場
13:00～15:00	実行委員会企画シンポジウムC	第2会場
13:00～14:00	自主シンポジウムD 討論	第3～12会場
14:00～14:30	ポスター発表D 在籍責任時間	ポスター会場
14:30～15:15	口頭発表K-D-1 討論	第3会場
14:30～15:15	口頭発表K-D-2 討論	第4会場
14:30～15:15	口頭発表K-D-3 討論	第5会場
14:30～15:15	口頭発表K-D-4 討論	第6会場
14:30～15:15	口頭発表K-D-5 討論	第7会場
14:30～15:15	口頭発表K-D-6 討論	第8会場
14:30～15:15	口頭発表K-D-7 討論	第9会場
14:30～15:15	口頭発表K-D-8 討論	第10会場
15:30～16:30	自主シンポジウムE 討論	第3～12会場
16:00～18:00	実行委員会企画シンポジウムD	第2会場
17:00～18:00	自主シンポジウムF 討論	第3～11会場

※実行委員会企画<九州の保育実践>を大会HP上で終日公開しております。

会場と発表区分

【口頭発表 討論】

5月13日(土)

会場名	A	B
第3会場	K-A-1 14:30～15:15 保育思想・保育理論・保育史などⅠ	K-B-1 17:15～18:00 保育思想・保育理論・保育史などⅡ
第4会場	K-A-2 14:30～15:15 保育内容(健康・人間関係・環境・言葉・表現)などⅠ	K-B-2 17:15～18:00 保育制度・保育行財政など
第5会場	K-A-3 14:30～15:15 保育内容(健康・人間関係・環境・言葉・表現)などⅤ	K-B-3 17:15～18:00 保育内容(健康・人間関係・環境・言葉・表現)などⅡ
第6会場	K-A-4 14:30～15:15 保育方法(保育方法論・保育形態・幼児理解)などⅡ	K-B-4 17:15～18:00 保育環境
第7会場	K-A-5 14:30～15:15 乳児保育(0.1.2歳児の保育)などⅠ	K-B-5 17:15～18:00 乳児保育(0.1.2歳児の保育)などⅡ
第8会場	K-A-6 14:30～15:15 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅰ	K-B-6 17:15～18:00 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅱ
第9会場	K-A-7 14:30～15:15 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅴ	K-B-7 17:15～18:00 保育専門職の養成などⅠ
第10会場	K-A-8 14:30～15:15 児童文化・児童文化財Ⅰ	K-B-8 17:15～18:00 子ども家庭支援Ⅰ
第11会場	K-A-9 14:30～15:15 子ども家庭支援Ⅳ	K-B-9 17:15～18:00 多文化保育・異文化理解・ジェンダーなど

5月14日（日）

会場名	C	D
第3会場	K-C-1 11:00～11:45 保育思想・保育理論・保育史などⅢ	K-D-1 14:30～15:15 保育思想・保育理論・保育史などⅣ
第4会場	K-C-2 11:00～11:45 発達論・心身の発達・保育計画など	K-D-2 14:30～15:15 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）などⅣ
第5会場	K-C-3 11:00～11:45 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）などⅢ	K-D-3 14:30～15:15 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）などⅥ
第6会場	K-C-4 11:00～11:45 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅲ	K-D-4 14:30～15:15 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）などⅠ
第7会場	K-C-5 11:00～11:45 保育専門職の養成などⅡ	K-D-5 14:30～15:15 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅳ
第8会場	K-C-6 11:00～11:45 子ども家庭支援Ⅱ	K-D-6 14:30～15:15 保育専門職の養成などⅢ
第9会場	K-C-7 11:00～11:45 保幼小連携・接続・保育マネジメント	K-D-7 14:30～15:15 児童文化・児童文化財Ⅱ
第10会場	K-C-8 11:00～11:45 保育運営・保育条件	K-D-8 14:30～15:15 子ども家庭支援Ⅲ

【ポスター発表 在籍責任時間】

5月13日（土）

A	B
14:00 ～ 14:30	15:30 ～ 16:00
P-A-1 発達論・心身の発達	P-B-1 保育思想・保育理論・保育史Ⅰ
P-A-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）Ⅰ	P-B-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）Ⅱ
P-A-3 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）Ⅴ	P-B-3 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）Ⅵ
P-A-4 保育方法Ⅰ	P-B-4 保育環境・保育教材Ⅱ
P-A-5 保育環境・保育教材Ⅰ	P-B-5 障害児保育などⅠ
P-A-6 児童文化・児童文化財Ⅰ	P-B-6 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅱ
P-A-7 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅰ	P-B-7 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅴ
P-A-8 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅳ	P-B-8 保育専門職の養成Ⅱ
P-A-9 保育専門職の養成Ⅰ	P-B-9 保育専門職の養成Ⅴ
P-A-10 保育専門職の養成Ⅵ	P-B-10 子ども家庭支援などⅡ
P-A-11 子ども家庭支援などⅠ	P-B-11 家庭保育・子どもの権利

5月14日（日）

C	D
10:30 ～ 11:00	14:00 ～ 14:30
P-C-1 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）などⅢ	P-D-1 保育思想・保育理論・保育史Ⅱ
P-C-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）などⅦ	P-D-2 保育制度・多文化共生・異文化理解
P-C-3 保育方法Ⅱ	P-D-3 教育計画・保育計画・指導計画・評価
P-C-4 保育環境・保育教材Ⅲ	P-D-4 保育内容（総論・遊び）
P-C-5 障害児保育などⅡ	P-D-5 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）Ⅳ
P-C-6 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅲ	P-D-6 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）Ⅷ
P-C-7 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅵ	P-D-7 乳児保育（0.1.2歳児）
P-C-8 保育専門職の養成Ⅲ	P-D-8 障害児保育などⅢ
P-C-9 保育専門職の養成Ⅳ	P-D-9 児童文化・児童文化財Ⅱ
P-C-10 子ども家庭支援などⅢ	P-D-10 子ども家庭支援などⅣ
P-C-11 保育マネジメントなど	P-D-11 幼保小連携・接続

【自主シンポジウム 討論】

5月13日（土） 13:00～14:00

会場名	セッション番号	テーマ
第3会場	J-A-1	社会的子育ての実現：多様な家族としての外国人家族を支えるために
第4会場	J-A-2	子どもの主体的なあそび、学び、育ちを支える園庭・校庭・まちの環境について考える6～乳児期から学童期の子どもたちの屋外環境とのかかわりの機会の重要性・可能性を再考する～
第5会場	J-A-3	発達にもとづく評価基準と対話的保育実践 ー保幼小接続期カリキュラムにおける基礎的理論構築にむけてー
第6会場	J-A-4	指導が行き届きにくい保育実習生の実態 ー対人関係に困難さがみられる実習生に関する全国調査からー
第7会場	J-A-5	DV 家庭への保育所での支援と保育士の思い
第8会場	J-A-6	園内研修や会議を変える保育ファシリテーション ー職員の主体的参加を促し保育の質を向上するー
第9会場	J-A-7	子育て支援における多職種連携協働
第10会場	J-A-8	保育での ICT 活用第一歩 ～ここから始めた ICT 活用～
第11会場	J-A-9	子どもの手指の発達を促す遊びと玩具

5月13日（土） 16:00～17:00

会場名	セッション番号	テーマ
第3会場	J-B-1	保育における「多様性」をどのように理解することができるのか ー国内外のナショナルカリキュラムの検討からー
第4会場	J-B-2	幼児教育・保育における環境構成と散歩
第5会場	J-B-3	接続期の教育 ー模索・実践・課題ー
第6会場	J-B-4	保育所実習の DX 化を目指した電子版実習記録の開発と可能性
第7会場	J-B-5	生きた保育のことばに向けて：生成のナラティブ
第8会場	J-B-6	幼保連携型認定こども園の特性を生かした子育て支援について考える ーポピュレーションアプローチを中心にー
第9会場	J-B-7	「能力」というトラウマから抜け出す ー“よさ”の未定義性のさらなる展開ー
第10会場	J-B-8	乳幼児への語りかけについて考える ー男性保育者の視点からー
第11会場	J-B-9	保育環境・家庭環境の質と子どもの発達について考える：実証研究の知見から

5月14日（日） 9:30 ～ 10:30

会場名	セッション番号	テーマ
第3会場	J-C-1	知育玩具の与え方 ～保育における人的環境の充実～
第4会場	J-C-2	保育環境に関する学習方法の提案 ～保育者養成教育における活動理論の活用～
第5会場	J-C-3	幼小接続をみすえた多文化保育 ～越前市の取り組みから考える～
第6会場	J-C-4	保育者養成校と保育現場をつなぐ“こども理解プロジェクト MIYAGAKU” II ～つながりから生まれてきたもの～
第7会場	J-C-5	子ども主体の保育と安全-子どもの自由な遊びの価値と危険について考える
第8会場	J-C-6	トライアル・アンド・エラーから学ぶ質の向上を目指す保育マネジメント（2） ～実践者・ミドルリーダー・管理職の視点の重なりから考える～
第9会場	J-C-7	「アートと創造性」の可能性：レッジョ・エミリアのアトリエリスタの語りから
第10会場	J-C-8	持続可能な社会と保育のあり方 ～人間中心主義の保育を問い直す～
第11会場	J-C-9	保育における動画の活用
第12会場	J-C-10	ミドルリーダーの経験の径路を探る：リーダーシップの発揮・葛藤・逡巡のプロセス

5月14日（日） 13:00 ～ 14:00

会場名	セッション番号	テーマ
第3会場	J-D-1	子どもと保育者が共につくりあげる保育環境
第4会場	J-D-2	就学前保育者と小学校教師の合同研修会を通して考える幼小接続・連携の在り方とは
第5会場	J-D-3	保育の質の向上に資する実習指導の新展開
第6会場	J-D-4	「保育事故」をなくすために（7） ～いま保育関係者が取り組むべき課題は何か～
第7会場	J-D-5	乳幼児精神保健の知見を援用した現任研修プログラムの可能性
第8会場	J-D-6	保育の中の「参画」 ～「参画」から考える「子どもの権利」～
第9会場	J-D-7	国の職員配置基準で、子どもを尊重する保育は可能か
第10会場	J-D-8	子どもを真ん中に保育を考える II ～遊び心を手がかりにして～
第11会場	J-D-9	コミュニティ再生における遊び心の持つ意味
第12会場	J-D-10	地域子育て支援拠点事業としての外国籍幼児・児童への絵本の読み聞かせの取り組みと課題に関する研究

5月14日（日） 15:30 ～ 16:30

会場名	セッション番号	テーマ
第3会場	J-E-1	日本における多文化保育の現状と課題 ～国内保育施設・養成校調査の結果から～
第4会場	J-E-2	保育現場における実習の意義を見つめて ～共同体として育ち合うために～
第5会場	J-E-3	子どもの権利条約と保育実践とのつながりを考える ー子どもが社会の一員として在るということー
第6会場	J-E-4	モンテッソーリ教育学と子ども教育における現代的視点を探る
第7会場	J-E-5	多胎児の親の育児における困難感とその支援：支援拡大に向けて
第8会場	J-E-6	戦争、差別とキリスト教保育
第9会場	J-E-7	子どもを真ん中に保育を考える III ～ぐちゃぐちゃと過ごす中で思うこと、4歳児と保健室～
第10会場	J-E-8	「保育」の境界の不可視性 ー傍らにいる者の保育への関与からー
第11会場	J-E-9	幼児教育の推進に向けた体制のあり方を考える ー幼児教育センターとの連携を軸にー
第12会場	J-E-10	保育実践に根差した評価の探求：エピソード研修から考える

5月14日（日） 17:00 ～ 18:00

会場名	セッション番号	テーマ
第3会場	J-F-1	「部屋の響き」は保育実践にどのような影響を及ぼすのか ー障がいのある子どもたちのための音環境づくりからー
第4会場	J-F-2	幼・小移行期の書き言葉と保育 ー子どもは何のために書くか、どのように支えるかー
第5会場	J-F-3	保育者養成における SDGs ～これからのカリキュラムを考える
第6会場	J-F-4	保育者養成課程における絵本の学びから広がる可能性 ～認定絵本士養成講座を通して～
第7会場	J-F-5	支え・繋ぎ・育む：日本のインクルーシブな保育への展望（2） ー子どもの自己発揮を支える園内環境整備の視座からー
第8会場	J-F-6	異年齢保育の実践を学ぶ ーインクルーシブ保育における子ども同士の関りについてー
第9会場	J-F-7	地域への親しみを育む保育実践 ーこども園における現状と課題についてー
第10会場	J-F-8	就学前期における「学習」の意味を問う：学習とドキュメンテーション (pedagogical documentation)
第11会場	J-F-9	おむつなし保育を楽しむ保育士たち ーはつの・あそびの森こども園の排泄ケア

2. 研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ

2. 研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ

- (1) 日本保育学会第76回大会は熊本学園大学が担当校となり、大会はオンラインによって行われます。
皆様が事前に作成された動画やポスターは4月14日（金）から大会参加者が視聴することができるようになっています。なお、大会当日は発表をせず、開始直後から質疑応答に入ります。
- (2) 予め「大会に参加される皆様へ」をご確認ください。また、Zoomの操作方法については、大会ホームページ（<https://confit.atlas.jp/guide/event/hoiku76/top>）でもご案内いたします。
- (3) 各発表者は、次ページ以降の「大会研究発表に関する規程」を熟読の上、運営にご協力ください。

■自主シンポジウム

- ◆自主シンポジウムの時間は60分です。
- ◆自主シンポジウムはビデオ会議システムZoom（Zoom ミーティング）で行います。
- ◆登壇者は、担当セッションの10分前までにオンライン開催ページのタイムテーブルから、担当会場へアクセスし、スタンバイをしてください。直前のプログラムの都合上、10分前までのスタンバイが難しい登壇者は、他の登壇者にその旨を予めお伝えください。
- ◆座長・演者の方は運営スタッフが認識しやすいよう、名前の表示設定を必ず行ってください。
○表示名称例：【企画者】 保育太郎（熊本学園大学）、【講演番号】 保育花子（熊本学園大学）
・ニックネーム等の表示はご遠慮ください。表示名は、下記手順より変更できます。
・Zoom 下部にある「参加者」ボタンをクリック→自分の名前のところカーソルを移動→「詳細」ボタンをクリック→「名前の変更」をクリックし変更
- ◆お知らせしている通り、自主シンポジウム企画者には、企画趣旨や話題提供等の動画を事前にオンライン上にアップロードしていただきます。参加者は事前にその動画を視聴した上で当日の自主シンポジウムに参加します。各自主シンポジウムの60分間に、指定討論者の指定討論、話題提供者からの回答、参加者との議論等を行っていただきます。自主シンポジウムの開始時間になりましたら、企画者進行のもと、自主シンポジウムをスタートしてください。
- ◆事前の打ち合わせのための時間がないため、指定討論と参加者との議論等のための時間配分については大会前日までに企画者の責任のもと、全登壇者と済ませておいてください。

■口頭発表

(1) 口頭発表の座長・副座長の方へ

- ◆口頭発表セッションの時間は、最大45分間です。
- ◆口頭発表セッションはビデオ会議システムZoom（Zoom ミーティング）で行います。
- ◆担当セッションの時間になりましたら、オンライン開催ページのタイムテーブルから、担当会場へアクセスしてください。
- ◆スタッフが認識しやすいよう、名前の表示設定を必ず行ってください。
○表示名称例：【座長】 保育太郎（熊本学園大学）
・ニックネーム等の表示はご遠慮ください。表示名は、下記手順より変更できます。
・Zoom 下部にある「参加者」ボタンをクリック→自分の名前のところカーソルを移動→「詳細」ボタンをクリック→「名前の変更」をクリックし変更
- ◆座長・副座長の簡単な打ち合わせが終わり次第、進行をスタートしてください。
- ◆本大会は筆頭発表者が事前に投稿した研究発表動画を、参加者が事前に視聴した上で行います。そのため当日は、研究発表に対する質疑応答と討議のみを行います。

- ◆各研究発表に対する質疑応答が4分、全体討議が20分となります。詳細は下のセッションの流れのイメージをご覧ください。
- ◆オンライン開催につき、ベルの用意はありませんので、時間の管理は座長の方々にお願いいたします。
- ◆本大会においても、例年通り座長2名（座長1名・副座長1名）をお願いしております。セッション開始時刻から5分程度、進行の打ち合わせを行ってください。原則としてどちらかの座長の方に質疑応答の進行をご担当いただき、もうおひとりの座長の方に討議の進行をお願いいたします。打ち合わせの際に、座長のお二人のどちらがどの部分を担当されるかを決めてください。
- ◆各研究発表の筆頭発表者は、必ずZoomにて質疑応答と討議に参加することになっています。Zoom参加時には、筆頭発表者全員が自身の氏名と所属を漢字で表示しておりますので、座長の打ち合わせが終わり次第（開始から5分経った頃）、筆頭発表者の出席確認をお願いします。
- ◆出席確認時に、万が一、不在の筆頭発表者がいた場合は、質疑応答の順番を入れ替えるなどして対応してください。遅れて参加した筆頭発表者が、Zoomのチャット機能で入室を知らせる場合があります。適宜チャットの確認をお願いします。筆頭発表者は質疑応答と全体討議の両方への参加が必要です。質疑応答の順番を入れ替える等の対応をしても、筆頭発表者の参加がなかった場合は、運営事務局 (hoiku76@mwt.co.jp) までセッション終了後にご連絡ください。
- ◆なお、座長・副座長の方は、担当セッションの筆頭発表者が事前に投稿した研究発表動画を、大会当日までにご視聴ください。その上で当日の進行をお願いいたします。

【口頭発表セッションの流れのイメージ】※セッション時間は最大45分です。

- ① 座長・副座長入室／簡単な打ち合わせ：5分
- ② 筆頭者出席確認／座長挨拶：2分

※筆頭者の出席確認後

「座長を務める〇〇〇〇です。」

「このセッション名は〇〇〇〇です。」

「このあとの質疑と討議の際は、挙手ツールをお使いいただくとともに、ご発言時にはご所属とお名前をおっしゃってからお願いいたします。」

「なお、オンラインでのご発表ということで、ベルなどのご用意はございません。時間の管理は座長のほうで声をかけるなどして行います」

「大会規定にもありますように、本セッションの撮影やスクリーンショットなどは行わないでください」

- ③ 質疑応答（各発表につき4分）

「1つ目のご発表である〇〇先生の「タイトル」について質問等はございますか。」

「2つ目のご発表である〇〇先生の「タイトル」について質問等はございますか。」

「3つ目のご発表である〇〇先生の「タイトル」について質問等はございますか。」……

- ④ 討議：20分

「それでは、全体討議に入ります」

※20分の討議終了後、各セッションを終了してください。討議が長引いた場合も45分で区切りをつけ、セッションを終了していただきますよう、お願いいたします。

(2) 口頭発表の発表者の方へ

- ◆口頭発表セッションの時間は、最大45分間です。質疑応答と討議の両方に必ず参加してください。
- ◆口頭発表セッションはビデオ会議システムZoom（Zoom ミーティング）で行います。
- ◆担当セッションの開始時間になりましたら、オンライン開催ページのタイムテーブルから、担当会場へアクセス

スしてください。

- ◆発表者の方は運営スタッフが認識しやすいよう、名前の表示設定を必ず行ってください。

○表示名称例：【講演番号】 保育花子（熊本学園大学）

・ニックネーム等の表示はご遠慮ください。表示名は、下記手順より変更できます。

・Zoom 下部にある「参加者」ボタンをクリック→自分の名前のところにカーソルを移動→「詳細」ボタンをクリック→「名前の変更」をクリックし変更

- ◆セッション開始時間から数分後、座長が出席確認を行います。直前のプログラムの都合により、5分を超えて入室が遅れた場合、入室後すぐにZoomのチャット機能を用いて、座長・副座長に入室をお知らせください。ただし、質疑応答と討議の両方に参加していないなど、参加時間が短い場合、発表が認められないことがありますのでご注意ください。

■ポスター発表

(1) ポスター発表の座長・副座長の方へ

- ◆ポスター発表セッションの在籍責任時間（＝発表説明責任時間）は30分です。
- ◆ポスター発表の座長の方は、在籍責任時間開始～終了までに、担当セッションの全発表者に対して、オンライン上のコメント機能を用いて質問を一つ以上投稿してください。ただし、座長以外の人からの質問が投稿され、在籍責任時間内に筆頭発表者が回答を行っている場合は、座長からの質問投稿は不要です。
※セッション時間より前に、コメント上で大会参加者及び発表者による質問・回答のやり取りがあっている場合も、セッション時間中に質問が記入されていない場合は、座長の方から質問の記入をお願いいたします。
- ◆ポスター発表の副座長の方は、該当のセッションの質問・回答状況を見回ってください。しかし、副座長の方で発表者への質問等がある場合は、記入いただいて構いません。
- ◆コメント上に投稿された質問に対し、在籍責任時間内に筆頭発表者から回答が行われていることをもって、筆頭発表者の在籍とみなします。万が一、在籍責任時間開始から20分を超えても筆頭発表者からの回答が無かった場合は、大会事務局（hoiku76@mwt.co.jp）までセッション終了後にご連絡ください。
- ◆在籍責任時間は30分と限られております。座長・副座長の方は、担当セッションの発表者が事前に投稿したスライドの内容を、大会当日までにご確認ください。また、セッション当日、質問がなされていない発表に対して、質問をすぐに投稿できるよう、各発表者への質問を事前に準備しておいてください。

(2) ポスター発表の発表者の方へ

- ◆ポスター発表の在籍責任時間（＝発表者説明責任時間）は30分です。
- ◆オンライン上の発表会場に筆頭者が入室次第、コメント機能を用いて「氏名+入室しました」を入力ください。
また、退室時にも「氏名+退室します」を入力ください。
- ◆オンライン上の発表会場に、各セッションの座長もしくは他の参加者から質問が投稿されます。その質問に対し、在籍責任時間内にできる限り筆頭発表者がオンライン上のコメント機能を使用して回答してください。共同研究発表者が回答してもかまいませんが、筆頭発表者の回答が発表への出席・在籍証明となります。
- ◆在籍責任時間内に質問への回答を行わないなど、出席の確認ができない場合、発表が認められないことがありますのでご注意ください。なお、直前のプログラムの都合により、回答の入力が間に合わない状況が生じた際は、運営事務局（hoiku76@mwt.co.jp）までご連絡ください。

大会研究発表に関する規程

(本規程の目的)

第1条 本規程は、日本保育学会の大会において会員が研究発表を適正に行い、正式発表と認定されるための条件および規則を定める。

(発表申し込みとその受理)

第2条 大会での発表を申し込む者は、正会員であり、かつ発表前年度の9月末日までにその年度の年会費を納入済でなければならない。ただし、本学会との学術交流協定に基づき発表する者はその限りではない。

2 大会で発表する者は、以下の条件を満たさなければならない。

- (1) 大会で発表する者は、筆頭・連名を問わず、大会実行委員会が指定する期日までに発表申し込みをしなければならない。
- (2) 大会で発表する者は、筆頭・連名を問わず、大会参加費を大会実行委員会が指定する期日までに納入しなければならない。ただし、特別配慮すべき事情がある場合は、事前に大会実行委員会に申し出て、その許可を得ることにより、期日後に納入することができる。
- (3) 筆頭発表者は大会実行委員会が指定する期日までに論文集の原稿を提出しなければならない。
- (4) 上記の条件が満たされない場合は、発表申し込みは受理されない。また、受理が取り消される。

(発表研究の条件)

第3条 発表研究は、大会での発表時において未発表であるものに限る。すでに印刷製本して公表された研究（単行本、学会誌、紀要〔大学、研究会、園等〕、雑誌等に発表されたもの）は、大会において発表することはできない。

2 発表研究は、本学会倫理綱領に基づいていなければならない。発表者はこれを踏まえて、発表者自身の責任において発表する。

(発表に関する制約)

第4条 発表は、1人1回に限る。ただし、連名発表者となる場合は、筆頭発表を含めて3発表まで認められる。同一研究グループ内で発表者を分散させるなどして、複数の発表をする場合も、実質上同一研究グループによる研究である限り、3発表を超える発表はできない。1発表は筆頭発表者を含め、10名を上限とする。

2 同一のテーマについては、2発表まで認められる。タイトルの一部を変えても、実質上連続した発表である場合は、2発表を超える発表はできない。

(発表の成立条件)

第5条 ポスター発表は、「ポスターでの発表」「質疑応答への参加」「論文集への発表論文掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められる。また、発表者は「発表説明責任時間」の間、自分のポスター掲示場所に在席していなければならない。かつ、ポスターは所定の時間掲示されなければならない。

2 口頭発表は、「口頭での発表」「討論への参加」「論文集への発表論文掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められる。また、発表者は分科会終了前に退席することはできない。

3 発表者は、分科会開始前に分科会会場での受付を済ませ、その会場にて待機しなければならない。

4 研究発表の際、筆頭発表者は必ず分科会に出席しなければならない。

5 筆頭発表者がやむをえない理由で発表ができなくなった場合、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者（他の発表で筆頭発表者となっていない者）が筆頭発表者となることができる（筆頭発表者の交代）。座長への届け出での取り下げおよび交代は無効である。

(日本語以外で発表を希望する者の発表)

- 第6条 正会員で、日本語以外で発表を希望する発表者は、本人の責任で日本語への通訳者を付ける。通訳者は非会員でも良いが、発表者の責任で実行委員会へ通訳者を届け出る。
- なお、英語の発表はポスターのみ可とする。
- 2 正会員で、日本語以外で発表を希望する発表者が通訳者を付ける場合も、発表時間は通常通りとする。
- 3 学術交流協定に基づく発表者が通訳者を付ける場合には、口頭発表における発表時間を通常の2倍以内とする。
- 4 通訳者は分科会終了まで、発表者と同席し、通訳の任に当たらなければならない。また、通訳者を必要とする発表者は、このことについて事前に通訳者に了解を取らなければならない。

(研究発表の認定と取り消し)

- 第7条 すべての研究発表の終了後、研究奨励賞推薦委員会がすべての発表について本規程を遵守しているか否かを審査する。審査の結果、本規程を遵守していると認められた発表のみ、理事会の議を経て正式発表と認定する。本規程に反することが確認された発表は「発表取り消し」とされる。
- 2 筆頭発表者が無断で欠席した場合は「発表取り消し」とされる。事前に欠席を届け出た場合は「発表取り下げ」となる。

(改廃)

- 第8条 本規程の改廃は理事会が行う。

附則 本規程は、平成22年4月1日から施行する。

- 一部 平成27年9月26日改正
- 一部 平成30年9月1日改正
- 一部 平成31年2月2日改正
- 一部 平成31年4月13日改正

一般社団法人 日本保育学会研究奨励賞 規程

（目的）

第1条 一般社団法人日本保育学会研究奨励賞（以下、研究奨励賞）は、「将来を嘱望される研究者を育てること」および「独創的な研究を育てること」を目的とする。

（賞の構成）

第2条 研究奨励賞は、「大会」において発表された研究（口頭発表・ポスター発表）を対象とする「大会発表部門」と『保育学研究』において発表された研究を対象とする「論文部門」の2部門からなる。

（授賞対象）

第3条 研究奨励賞は、本学会会員が「大会」において発表した研究および当該年度の『保育学研究』において発表した研究の中から、保育学の発展および保育実践の向上にとって非常に有意義であると思われ、今後の発展が期待できる優れた研究に対して授与する。

（授賞対象外の研究業績）

- 第4条 本学会役員（会長、副会長、理事、評議員、監事、推薦委員）の研究および役員の参加した研究は、選考対象外とする。
2. 教育研究機関等において教授職または、それに相当する職（理事長、施設長、園長等）にある者、あるいはかつてその職にあった者の研究およびその者が参加した研究は、選考対象外とする。
 3. 過去において研究奨励賞（大会発表部門）を受賞した事がある会員およびその会員を含むグループの研究は、研究奨励賞（大会発表部門）の選考対象外とする。また、過去において研究奨励賞（論文部門）を受賞したことのある会員およびその会員を含むグループの研究は、研究奨励賞（論文部門）の選考対象外とする。
 4. 「大会発表部門」においては、第6条に規定される推薦委員会により推薦されながら受賞できなかった研究で、引き続き研究が継続されている場合は、次年度以降も選考対象となりうる。

（賞の授与）

- 第5条 「大会発表部門」に関しては、大会ごとに研究3件までに対して授与する。但し、適当な研究がない場合はそのかぎりではない。
2. 「論文部門」に関しては、同一年度の『保育学研究』に発表された研究の中から、年度ごとに研究2件までに対して授与する。但し、適当な研究がない場合はそのかぎりではない。
 3. 研究奨励賞の授与に当たっては、賞状および副賞を授与する。
 4. 授賞は、授賞研究が発表された年度の次年度の大会での授賞式において行う。

（大会発表部門の選考）

- 第6条 「大会発表部門」の選考においては、「研究奨励賞推薦委員会」（以下、推薦委員会）が授賞対象と考えられる研究を推薦し、推薦された研究の中から、「研究奨励賞選考委員会（大会発表部門）」（以下、選考委員会）が授賞候補とする研究を選定し、理事会において決定する。
2. 推薦委員会は、大会ごとに組織し、会長が委員長となり、副会長、理事、大会実行委員長および理事会で指名された本学会の役員と会員をもって構成する。
 3. 選考委員会は、大会ごとに組織し、委員は5名とし、理事および評議員をもって構成する。但し、必要のある場合は、理事会で選定された本学会の会員も委員とすることができる。
 4. 選考方法（推薦方法および選定方法）については別に定める。

(論文部門の選考)

- 第7条 「論文部門」の選考においては、当該年度の『保育学研究』に発表された研究（論文）の中から、「研究奨励賞選考委員会（論文部門）」（以下、選考委員会）が授賞候補とする研究を選定し、理事会において決定する。
2. 選考委員会は、年度ごとに組織し、委員は5名とし、理事および評議員をもって構成する。
但し、必要のある場合は、理事会で選定された本学会の会員も委員とすることができる。また、編集常任委員は当委員を兼ねることはできない。
 3. 選考方法（選考方法）については別に定める。

(賞の基金)

- 第8条 研究奨励賞の基金については、別に内規を定める。

(庶務)

- 第9条 委員会の庶務は、学会事務局員の協力を得て行う。

(改廃)

- 第10条 本規程の改廃は、理事会が行う。

- 附則 本規程は、平成18年4月1日から施行する。
但し、本規程に基づく選考は平成19年度より実施する。
一部 平成22年10月2日改正
一部 平成25年4月13日改正
一部 平成30年2月10日改正

一般社団法人日本保育学会 第76回大会発表におけるガイドライン

コロナ禍の影響で一般社団法人日本保育学会第76回大会（以下「本大会」といいます。）をオンライン開催する運びとなりました。オンラインによる発表は著作権法上の「公衆送信」（著作権法第23条）に抵触すると考えられることをふまえ、当法人は、オンラインにて発表する際のガイドライン（以下「本ガイドライン」といいます。）を公表することとしました。発表者におかれましては、本ガイドラインを指針とし発表資料（以下「コンテンツ」といいます。）をご準備ください。

なお、本ガイドラインは、著作権に関する一切の問題が生じないことを保障するものではありません。コンテンツの著作権は、発表者に帰属しますので、当コンテンツが第三者の権利や利益を侵害した場合、発表者が一切の責任を負うことになりますので、ご注意ください。

1 引用する場合は、次の要件を遵守すること

- ① 引用物がすでに公表された著作物であること
- ② 引用部分と他の部分を明確に区分すること
- ③ 自らの著作部分が「主」で引用部分は「従」であること
- ④ 慣行に従い出典の明示をすること

2 写真の掲載を原則禁止すること※

写真を掲載する場合は本人や保護者の掲載許可をとること
発表者自身が撮影した写真を使用すること

3 音楽は権利者の承諾なく無断で使用しないこと※

音楽を使用する場合には、関係する著作権及び著作隣接権の権利者から必要な許諾をすべて得ておくこと

4 図表を引用する場合は、以下の点に留意すること

出版社が図表の著作権を有している場合があるため、著作者だけでなく出版社の許諾が必要になるかどうか事前に確認すること

5 出版物の表紙や絵を使用する場合、出版社の指定する条件に従い使用すること

※インターネット上で「著作権フリー」として公開されている場合であっても、著作権、著作隣接権の許諾が不明な場合が散見されるため、使用しないこと

一般社団法人日本保育学会 オンライン参加に関するガイドライン

コロナ禍の影響で一般社団法人日本保育学会第76回大会（以下「本大会」といいます。）をオンライン開催する運びとなりました。

参加される皆様（以下「参加者」といいます。）におかれましては、本ガイドラインを遵守いただきますようお願いいたします。

なお、本ガイドラインの不遵守によって発生したいかなるトラブルについても、当法人は責任を負いかねますのでご了承ください。

1 閲覧方法

参加者は、閲覧期間内（2023年4月14日（金）10時～同年5月14日（日））に、本大会特設サイトに掲載される各発表者の発表資料を閲覧することができます。

発表者への質問がある場合には、本大会特設サイトにコメントを投稿することができます。

※ 時間等の制約のため、すべてのコメントに発表者から回答されるわけではありませんので、ご了承ください。また、人権侵害等の問題のあるコメントは本大会実行委員会の判断で削除される場合がありますので、ご注意ください。

2 発表内容を無断で複製・録音しないこと

本大会における各発表者の発表内容（発表者作成の発表資料を含む。）に関する著作権については、原則として当該発表者に帰属します。

したがって、参加者は、本大会特設ページに公開された各発表者の発表内容その他一切の資料（画面キャプチャを含む）を、無断で録画、録音、保存、再配布することを禁止いたします。自己使用目的であっても同様です。

3 その他禁止事項

- ・当法人から付与された本大会特設サイトへのアクセスパスワード・IDを他人と共有・他人へ譲渡すること
- ・本大会の運営を妨げる行為
- ・公序良俗に反する行為、またはそのおそれのある行為
- ・その他法律、法令に反する行為、またはそのおそれのある行為
- ・その当法人が不適当・不適切と判断した行為

3. 講演・シンポジウム

なぜ産んだ我が子を殺し捨てるのか？ ～この非日常、非常識な世界を紐解く～

講演者 蓮田 健（慈恵病院 理事長兼院長）

講演要旨

慈恵病院では2007年から「こうのとりのゆりかご」（俗に言う「赤ちゃんポスト」、以下「ゆりかご」）を運営している。これは自ら育てることのできない赤ちゃんを匿名で病院に預け入れるシステムである。ここには過去15年間で161人の赤ちゃんが預け入れられた。

また2021年には内密出産の初事例を経験した。内密出産は女性が身元情報を伏せたまま病院で出産するものだが、内密出産で先行するドイツでは子が16歳になった時点で母親の情報を得る可能性が残されている。

「ゆりかご」には開設当初から、「安易な育児放棄を助長する」、「子の出自を知る権利を損なう」という批判が寄せられてきた。しかし、「ゆりかご」の現場で預け入れる女性達に接すると、「安易」ではなく「必死」という言葉が当てはまるような実情が見えてくる。また、子の出自を知る権利が損なわれることへの懸念はあるものの、母親の匿名性を保証しなければ、孤立した母子を保護するどころか接触することすら叶わないのが現実である。この状況は、子の出自情報開示について可能性を残してはいるものの、保証レベルには至っていない内密出産においても同様である。

ある精神科医から、『ゆりかご』は精神医学の世界」と指摘されたことがきっかけで、その視点で見直したところ、預け入れた母親の大部分に愛着障害、ボーダーラインの発達障害、境界知能のいずれかが存在することに気付いた。つまり彼女たちは、上手くできない能力や環境下にあって苦しんでいる人たちである。

2014年に「ゆりかご」へ乳児の遺体が預け入れられた事件以来、私を始め当院職員は乳児遺棄事件の裁判傍聴を行うようになった。これらの事件は赤ちゃんの遺棄や殺人を防止するためにスタートしたはずの「ゆりかご」が機能しなかったケースとも考えられ、その理由や背景を知り、分析することで再発防止への手がかりをつかめないと模索している。

2021年からはさらに踏み込んで、被告女性への面会や保釈後の保護、裁判所への意見書提出、法廷での証言を行うようになった。そのことで事件の背景をより深く知ることができた。

「産んだ我が子を殺す、棄てる」という行為は現代の日本社会においてあまりにも非日常、非常識な世界で理解に苦しむ事象である。「ゆりかご」や内密出産に対しても同様の感情を持つ人は少なくない。どうしてそこまでして妊娠を隠し通さなければならないのか？彼女たちの多くが、「親に縁を切られる、捨てられる、見放される」「親にこれ以上迷惑をかけられないと」と言う。これらのコメントを精神医学的な観点から紐解くと、愛着障害、ボーダーラインの発達障害、境界知能に行き着く。彼女たちの行動は決して突発的に生じたものではなく、予期しない妊娠以前から抱えていた困り事、生きづらさの発露であった。

「遺棄や死亡に見舞われた赤ちゃんが助かるにはどうすれば良かったのか？」

私は裁判事例に接する度にこのことを考える。まずは、彼女たちが求める妊娠の秘匿性を尊重することである。その上で、彼女たちを叱らず、説教をせず、慰めと敬意をもって接し、助ければ、多くの場合、匿名性は撤回される。残る僅かなケースについて母親の匿名性を許容し、一方、残された子どもの幸せのために支援する。そして、このセーフティネットを女性達に周知する。これら一連の活動によって赤ちゃんの遺棄・殺人を日本の社会から減らすことができると信じている。

遺棄や殺人を犯してしまった女性が幼少時から愛着形成を得て、仮に発達や知的な部分で特性を持っていたとし

ても周囲の理解と支援があれば、このような悲惨な事件は生じなかったのではないだろうか。その意味では根本的な解決法は「ゆりかご」や内密出産にあるのではなく、幼少時からの生育環境に委ねられる。乳幼児の育児を支援なさる貴学会の皆様には、後進の方々にこれらの実情をお伝えいただきたい。

プロフィール

蓮田 健 （はすだ たけし）



<略歴>

1966 年 6 月 18 日 生まれ

1995 年 九州大学医学部卒業 同年より九州大学産科婦人科医局入局

九州大学医学部附属病院、国立病院九州医療センター、下関市立中央病院、福岡市民病院、県立宮崎病院を経て 2002 年より慈恵病院勤務

2021 年より慈恵病院 理事長兼院長

<所属学会>

日本産婦人科学会、日本婦人科内視鏡学会、日本産科麻酔学会、

日本女性骨盤底医学会、子ども虐待防止学会、日本骨盤臓器脱手術学会、

日本司法精神医学会

<資格>

産婦人科専門医

保育学研究倫理ガイドブック 2023

－子どもの幸せを願う すべての保育者と研究者のために－

企 画	: 倫理ガイドブック改訂委員会
趣旨説明	: 大方 美香 (大阪総合保育大学・倫理ガイドブック改訂委員会委員長)
解 説	: 秋田 喜代美 (学習院大学・東京大学名誉教授) 汐見 稔幸 (東京大学名誉教授・白梅学園大学名誉学長) 榎沢 良彦 (東京家政大学・倫理ガイドブック改訂委員会) 大豆生田 啓友 (玉川大学・倫理ガイドブック改訂委員会) 遠藤 利彦 (東京大学・倫理ガイドブック改訂委員会) 福元 真由美 (青山学院大学・倫理ガイドブック改訂委員会)

1 企画趣旨

大方 美香

一般社団法人日本保育学会は、12年ぶりに「一般社団法人日本保育学会 保育学研究倫理ガイドブック 2023－子どもの幸せを願う すべての保育者と研究者のために－」の改訂、刊行をいたしました。時代と共に倫理に関わる問題も複雑かつ内容の質等も変わっている中、改訂倫理ガイドブックの普及は、保育界全体にとって大切な社会的使命であると考え、理事・評議会・専門委員が執筆する体制を取りました。ランチタイムセッションでは、その一端を皆様にご紹介させていただきます。是非、冊子を手に取りながらお聞きください。

2 保育学研究における倫理とは何か

秋田 喜代美

保育学に関わる研究を行う際の特徴は、「人間」を研究の対象とすることが多いことです。自らの意志を言語で表現できない子どもであっても、一人の人間であることを忘れてはなりません。「人間」には「人権」があります。誰でも「人権」を脅かすことはできないという基本理念を胸に深く刻むことが、保育学研究における倫理を守ることにつながります。相手が人権のある人間であることを忘れないように配慮することが、倫理を守る「はじめの一歩」です。

3 子どもの人権と倫理

汐見 稔幸

現代のわが国の法制度に表されている子ども観では、子どもには自己に関わる事柄について自己の見解 view を述べる権利があり、関係する大人は、その見解を考慮して子どもを扱うこと、また常に「子どもの最善の利益」を追究して子どもと接することが義務づけられるようになったと理解すべきでしょう。新たな子ども観、子どもの権利観は保育学上も必然性と価値を認められていますので、こうした子ども観、子どもの権利観を前提に研究対象の評価を行うことが求められます。また、子ども観、子どもの権利観そのものの吟味を学問的に引き受け、歴史的な共有知としていくことも課題となっているといえます。

4 条文解説

大方 美香

保育学における「質の高い研究」及び「適切で効果的な成果発表」が必要です。社会的貢献度の高い、価値あるエビデンスを得ることは重要ですが、子どもの人権への配慮、「子どもの最善の利益を保証する」という研究者の倫理的配慮を忘れてはなりません。第1部 保育学研究における倫理では、「一般社団法人 日本保育学会倫理綱領」条文解説「(1) 前文 (2) 第1条 基本原則 (3) 第2条 研究実施のための配慮 (4) 第3条 情報管理の厳守 (5) 第4条 研究成果の公表にともなう責任 (6) 第5条 研鑽の義務 (7) 第6条 倫理の遵守および抵触疑義への対応」を記載しています。また、新しく、「利益相反の問題」を取り上げています。

5 研究の実施および成果の発表と倫理【総論】

遠藤 利彦

質の高い保育実践に寄与する価値あるエビデンスを得るためには、保育の様々な側面に関する確かな方法や手続きに基づく研究の実施およびその適切で効果的な成果発表が必須不可欠となります。今回のガイドブックにおいて、研究の実施に関しては、研究データ・資料の取り扱いの問題（盗用、改竄、捏造、クッキングとトリミング、ローデータの保存と保管）について重要な点をまとめました。研究成果の論文化やその公表に関しては、引用上の問題、オーサーシップに関わる問題、論文執筆上の問題等に関して概括しました。また、大会時の発表に際して留意すべきこととして、学会発表時の問題等について解説を行いました。セッションでは、総論として、特に研究を実施し発表する上で、保育研究に携わる誰もが心しておかななくてはならない研究倫理の最も基本的かつ大切な点について確認させていただければと思います。

6 研究の実施および成果の発表と倫理【各論】

福元 真由美

各論では、研究の実施と成果の発表の際に、研究倫理への配慮が必要な事項について、何をどのように行う必要があるかを具体的に示しています。近年の研究を取り巻く状況をみると、情報通信技術の急速な発展、COVID-19の流行により、インターネットは研究の実施、発表で不可欠の社会基盤になり、一方で研究倫理に対する社会的な関心、認識は高まっています。こうした状況をふまえ、今回の改訂では、インターネット活用に関する記述（例えば、オンラインによる発表・参加等）や『「抵触疑義の事態」の申立て』の項目を追加しました。また、情報を提供する研究協力者への配慮や、データの適正な利用の徹底を図るため、「公開されていない資料の取り扱い」、「データの二次利用」の項目を新しく加えています。セッションでは、新しい項目や従来の記述を見直した部分を中心に解説します。

7 実践研究の実施における倫理の枠組み

大豆生田 啓友

ガイドブック第3部は、保育実践研究の倫理について、具体的な事例から考える個所となっています。近年、実践の現場を研究のフィールドとした研究や質的研究などが盛んに行われており、以前よりもさらに重要性があると考えられます。ここで取り上げた内容は以下の7つです。①保育者が実践をしつつ研究を行う場合、②実践者と外部からの実践者が共同実践・研究を行う場合、③共同研究者としての研究、④研究者が保育現場で研究を行う場合、⑤保育現場が研究依頼を受け入れる場合、⑥自分のデータを再度利用する場合、⑦他の研究機関等が提供するデータを二次利用する場合、となります。セッションではすべてを取り上げることはできませんが、新たに追加した項目やポイントとなる内容について紹介します。

8 実践研究における倫理の事例

榎沢 良彦

研究者が実践者と共同で研究をする場合には以下の点に配慮することが必要です。

まず、共同する実践者が研究活動においてどのような役割を演ずるかにより、「共同研究者」か「研究協力者」かに分かれます。両者の役割の違いについては事前に話し合い、同意しておく必要があります。そして、研究活動が終了した段階でも、再度、両者の役割を確認することが肝要です。

また、実践現場で研究者が何らかの方法で研究する場合（例えば、観察やビデオ撮影など）、研究者の存在自体が実践活動に何らかの影響を与える可能性があります。実践現場は子どもの幸せを追求する場ですから、子どもの最善の利益を損なうような影響は避けなければなりません。そのためには、研究協力者ではない、他の実践者たちにも研究について十分に説明し、理解をしてもらうことが肝要です。

※このランチタイムセッションは、2日間に分けての動画配信となります。また、後日、学会ホームページでもご覧いただけます。

保育理念としての子どもと遊び ー韓国と日本における保育学の研究を根拠とした実践の創造ー

企 画	: 国際交流委員会・OMEP日本委員会
話題提供	: 金 慶喆(김경철: Kim Kyung-chul)(韓国教員大学校) 嚴 正愛(엄정애: Ohm Jung-ae)(梨花女子大学校) 河崎 道夫(高田短期大学育児文化研究センター研究員・三重大学名誉教授)
指定討論	: 勅使 千鶴(日本福祉大学名誉教授・OMEP日本委員会・国際交流委員会)
通 訳	: 韓 在熙(한재희: Han Jae-hee)(四天王寺大学短期大学部) 金 珉呈(김민정: Kim Min-jeong)(活水女子大学)
司 会	: 岩立 京子(東京家政大学・国際交流委員会) 清水 陽子(九州産業大学・国際交流委員会)

1 企画趣旨

今日、保育界では、子ども主体の遊びを通して豊かな学びを生み出す保育の「プロセスの質」の重要性が、世界的に認識されてきている。日本では、「幼保小架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」が2022年3月に出版され、2022年度から3年程度を目処に、全国的にモデル地域における架け橋プログラムの実践を始めている。プログラムの中のカリキュラムでは、遊びと学びとの関係の実践が掲載されている。

韓国では、2019年7月に「2019改訂ヌリ課程」が告示された。ここでは、「幼児の全人的な発達と幸福を追求するための教育課程」として、「幼児の日常生活と遊びを統合的に実現する教育課程」がめざされており、特に、「幼児・遊び中心」がキーワードとなっている。

国際シンポジウムでは、(1)韓国の「幼児・遊び中心」を基調とした「2019改訂ヌリ課程」の保育理念と、日本の子どもの遊びの実践から構築された子どもと遊びの理論に学び、(2)これらを交叉させ、(3)参加者とともに、今後の韓国と日本の子どもと遊びの理論と実践の創造に寄与する学術交流の場にしたい。

2 話題提供

(1)「幼児と教師が共に創っていく遊び中心の教育課程」

金 慶喆

韓国の幼児教育課程は、これまで社会的変化と教育現場の要求によって数回改訂されてきている。その中でも主要な改革といえるヌリ課程は、2012年、国家の責務性の強化と幼児の平等な教育機会の保障という趣旨のもと、制定された。

「3-5歳年齢別ヌリ課程」は、その趣旨には到達しているが、幼児の年齢に合わせた教育内容の膨大さと硬直性、計画と評価の画一性等の限界点があることが運営過程において分かった。よって、ヌリ課程の限界点を改善し、小・中等教育と同一の国家水準の教育課程としての内容が明示されるという改訂を通して、現在国内の幼児教育は、更なる革新の瞬間を経験している。

「2019改訂ヌリ課程」は、幼児中心・遊び中心の教育課程として、幼児個々人の興味と要求及び発達水準を基盤にして運営されている。そして、幼児の遊びを通して、または、遊びによって発現される無限の学びを支援する教育課程としての価値を持っており、形式性・統一性ではなく、自律性・多様性の性格が強調されている。改訂ヌリ課程を通して、私たちは、幼児自身の関心から始まった経験の、意味のある学びとして繋げていき、ともに創っていく教育共同体の構成員として成長することを期待している。

教育現場において、ヌリ課程の真の価値が実現できるようにするためには、ある時よりも教師の力量と専門性が強調される。幼稚園やオリニジップの教師は、幼児より前に進み、学びを伝達しようとするような能力ではなく、幼児の経験や学びを尊重する態度とともに、幼児の興味や関心を引き出し、成長を促す努力が要求される。私たちの教育共同体も同じく、これからも幼児の発達と成長を支援するために絶えない発見や悩み、そして新しい試みが必要である。

●プロフィール

中央大学校大学院博士後期課程修了（幼児教育理論及び教授法専攻）、現在韓国教員大学校幼児教育科教授。研究分野は、幼児教育研究方法論 / 観察と評価を通しての幼児教育評価法案模索研究、著書としては『幼児教育概論』『比較幼児教育論』ほか多数。韓国子どもメディア学会会長、韓国幼児教育学会会長などを歴任。

（２）「遊び、学び、教えの統合のための韓国幼児教育の実践」

嚴 正愛

学びと教えが主要論題である教育と連携される遊びの位置は非常に曖昧でジレンマが生じる。教育的な目的を満たし、幼児の学習方法として非常に重要視されてきた目的遊び（purposeful play）の教育的な観点は、遊びを構造化し過ぎ、幼児の純粋な遊びを邪魔することにもなり、幼児の要求と興味を自由に表現する自由遊び（free play）という理想的な観点は、幼児の遊びを教育的に昇華させることができない場合もある。遊びと教育の関係を研究する学者らにより、遊びの意味に対する二分化した談論がされているなか、韓国では2019年に改訂され、2020年から施行された乳幼児期の国家水準の教育課程（ヌリ課程）の改編は、幼児教育・保育の現場に多少の混乱を与えている。遊びと教育の関係は非常に扱いにくい問題で、現場の教師らは、幼児が遊びを通して何かを必ずしも学んでいるとは思っていない、教師として何かを教えているのであれば、幼児は遊んでいるとは言えないことから、遊びと教育を統合することの難しさを感じ、混乱している。このような混乱は、考えてみると大きな挑戦になる可能性もある。幼児教育・保育現場をまじめに守っている教師らは、このような状況を可能性のチャンスにしなければならない。

本シンポジウムでは梨花女子大学校師範大学附属梨花幼稚園（2021）で行われた現場研究のなかで「自由遊びと大小集団活動との調和の実践」の一部を紹介し、遊び、学び、教えの統合のための韓国幼児教育・保育の挑戦的な実践事例を共有しようと思う。

●プロフィール

梨花女子大学校の幼児教育科教授、2011年8月～2015年8月までと2018年7月～2022年6月までの8年間、梨花女子大学校師範大学附属梨花幼稚園の園長を務めた。梨花女子大学校で博士学位を取得し、幼児の遊びと幼児社会教育などの研究を進めている。主要な著書は、『嬰幼兒—あそびと教育』『幼児教育概論』『幼児社会教育の統合的な運営』などがある。韓国幼児教育学会副会長、韓国育児支援学会会長などを歴任。

（３）「遊び中心・子ども主体の保育に向けて一三つの問題」

河崎 道夫

一つ目は、乳幼児期における遊びの「発達の様相」の問題がある。認知発達などにもとづく「遊びの発達段階」的理解ではなく、「遊びの交差分化的発達」の視点を、たとえば「マテマテ遊び」、「探険遊び」などを例に、提起する。様々な面白さと喜びをもつ遊びは交錯し合って分化し多様に生まれていくもので、発達の段階で交替、卒業するものではない。

二つ目。子どもの遊びの原動力を「好奇心と憧れ」ととらえる。人間の子が生き物としてもつ本性的活力であり、子どもの主体が成立、発揮される源だと考えられる。この二つが保育の場で発揮され、育っていくためには、そこに自然環境があること、周辺で働き遊び活動する人々の姿が子どもに見えること、したがって保育者がそのような世界に子どもをいざなうことが重要であろう。

三つ目。遊びの過程を「様式化と脱様式」の相互転化ととらえる。失敗や逸脱も含む「脱様式」が許容、共感されるという前提があって自由な遊びとなる。「遊びは学び」の一面的強調は「様式化」の偏重になり、遊びを壊しかねない。遊びを「教育の手段」とするのではなく、遊びが豊かに繰り広げられることがめざされなければならないだろう。

●プロフィール

東京教育大学博士課程教育学研究科単位取得退学（1977 年）、北海道教育大学釧路校、三重大学教育学部、高田短期大学で教員として勤務。 三重大学教育学部附属幼稚園園長、社会福祉法人ひよこ福祉会理事長など歴任。保育現場で保育者と子どもと遊びながら「子どもの遊び」をテーマに研究活動が続けている。『あそびが語る保育と発達』（2022 年かもがわ出版）ほか『保育と遊び』に関する著書多数。

新時代の保育とソーシャルワークを展望する ー保護者、子ども、保育者が輝く保育を目指してー

企 画 : 第76回大会実行委員会
話題提供 : 雪野 啓子 (九州ルーテル学院大学附属黒髪乳児保育園長)
桐原 誠 (児童養護施設 湯出光明童園 児童指導員)
竹下 徹 (周南公立大学 准教授)
司会・趣旨説明: 永野 典詞 (九州ルーテル学院大学 教授)

1 企画趣旨

本シンポジウムでは、保育現場(社会的養護の施設等も含む)におけるソーシャルワークの知識と技術を用いた保育実践(子どもの保育と保護者支援・地域子育て支援)の可能性と役割について議論する。そして、保育におけるソーシャルワーク実践の有用性や必要性について考える場としたい。

近年の保育現場では、子どもの保育、保護者の支援、地域子育て支援など、保育所やこども園など(以下、「保育施設」という)の役割は多様化、複雑化している。実際に対応する保育士は、保育の知識と技術だけでなく、相談援助、カウンセリングマインド、ソーシャルスキルなど幅広い知識と技術を求められている。

それらを受けて保育現場では、子どもと保護者、地域の子育て家庭に対して多くの支援が求められ、その対応に尽力している。また、保育の専門性に加え、ソーシャルワークやカウンセリングなど多くの専門性に関する研修なども積極的に実施しているところである。

本シンポジウムでは、子ども、保護者、保育者(施設保育士を含む)の相互作用により、子どもが今を楽しく生き、将来に夢が持てること、保護者が笑顔で子育てや日常生活を送ることができること、そして、保育者が主体的に子どもや保護者、地域社会と関わりながら保育実践に取り組むことができる環境を作っていきたい。シンポジストそれぞれの立場から保育現場における保育とソーシャルワークのあり方も含めて議論していきたい。

2 話題提供

(1) 保育現場におけるソーシャルワーク実践の試み

雪野 啓子

保育所保育指針の改定から5年が経ち、保育所における子育て支援の役割も具体化し、本園の子育て支援も「保護者に寄り添った支援体制」が確立しつつある。現代の保護者はあらゆる電子機器による情報に囲まれ、子育てに情報は有意義である。情報に人とのつながりが加わることによって子育てを後押しする自信を得ることができる。

これらの背景を踏まえ、保育とソーシャルワークの視点から本園で取り組んでいる「保護者が気軽に話ができる信頼関係の構築」「相談室の設置と対応」「保育者の専門性向上を目指した研修」の取り組みについて発表する。

さらに、日々の実践から保育者が改めて気づく支援のあり方や役割なども見えてきた。子ども、保護者の幸せを願い、保育・地域の子育て支援(保護者支援)において保育所が試行錯誤しながらソーシャルワークの役割を担う過程とこれから必要とされる役割について発表する。

(2) 児童養護施設に求められる支援について

桐原 誠

近年、児童養護施設(以下、施設と略)では、虐待を受けた子どもや何らかの障害を持つ子どもの入所が増えており、

深刻さを増す子どもに関わる困難なケースへの処遇対応の必要性から質の高い専門性と豊富な経験に支えられた実践力が求められている。

こうした子どもの十全な育ちを保障するために、保育所の保育士とは異なる固有の専門性が必要となる。例えば、①日常生活支援（インケア）、②自立支援、③相談援助業務（子ども・保護者）、④学習支援・余暇支援、⑤健康観察、⑥環境整備・安全管理、⑦社会生活準備支援（リービングケア）、⑧退所後の支援（アフターケア）、⑨関係機関連絡調整、などである。

このように、日常生活支援や自立支援中心のケアワーク、家庭支援や機関調整、心理的支援などのソーシャルワークが中心となる。シンポジウムでは、具体的な事例を提示しながらソーシャルワークを踏まえた支援について紹介させていただく。

（３）保育現場で活用されるソーシャルワークに対する期待

竹下 徹

保育現場で活用されるソーシャルワークは保育者と保護者がともに子どもの成長を支え、それを促していくために活用する体系化された支援方法のひとつとみることができる。

子どもの育つ力を促すにあたり保育現場の保育と家庭の子育てが有機的につながる必要がある。家庭生活でみせる子どもの多彩な姿を保育者が手に取ることによって保育現場の保育はより充実するであろうし、また保護者が、園でみせる子どもの育ちに係る情報を保育者から受け取ることで、家庭における子育てはより豊かになると考えられる。

保育現場では日々保護者との関係性を築きながら、子どもの情報が相互に行き交う手段としてソーシャルワークの知識やスキルが随所で活用されている。もちろん保護者がわが子の子育てに悩んだ時にも保育者の子育て支援という形態の中でソーシャルワークの視点が活用されている。

当日は保育現場を対象とした保護者支援に関する継続的研究の一部を紹介しながら、とりわけソーシャルワークにおける「リアルニーズ」の把握に関わる「保護者との関係形成」や「相談のしやすさ」に焦点をあてる予定である。とくに保育者が子育て支援の中で実際に活用している「ソーシャルワーク」の視点やスキルに意識を向け、これから期待される保育現場のソーシャルワークを援用した子育て支援の課題と展望についてともに考える機会を得たい。

教育学とのつながりから創造する保育学の未来 『子ども Agency』という概念を通して

企画・司会 : 門田 理世 (西南学院大学)
話題提供 : 中村 好郎 (熊本市 第二さくら体育幼稚園 園長)
山崎 敬太郎 (熊本市 認定こども園やまなみ 園長)
指定討論 : 遠藤 洋路 (熊本市教育長)
田熊 美保 (OECD 教育スキル局 シニア政策アナリスト)

I 企画趣旨

門田 理世

昨今、教育の向かう方向性の一つに、個々人が Agency を有することが提唱されている (OECD、2019) が、Agency とは単なる『主体』ではないらしい。世界的な定義づけがない中で、OECD Learning Compass 2030 では Agency を「変化を起こすために、自らで目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」(OECD、2018) ととらえており、そこには更に、自らが行動し、自らが考え、他者が決定したことを受け入れるのではなく自らが責任ある決断と選択をすることを含めている (OECD、2019)。義務教育以降の学校教育では、Student Agency という概念を、既にカリキュラムの中に取り込み、児童や学生本位の教育実践が世界的に展開されているという。では、この新たな概念として注目されている Agency は保育学の領域ではどのように捉えることができるのか。乳幼児期の子ども達の遊びには、子ども達のどのような思いや意思や考えが込められているのか。我々、保育学に携わる者は、この新たな『子ども Agency』という概念の中で子ども達の育ちを保育学にどのように位置づけることができるのか。本シンポジウムでは、保育学と教育学の接点を「保幼小連携がうたわれる義務教育への接続期」に焦点化し、この期を生きる子ども達の姿から『子ども Agency』について考えてみたい。

今回、大会開催地であり、生涯の学びの根底に『命ある人』すべてを念頭に置いている熊本市から、中村氏と山崎氏に話題提供いただき、接続期の子ども達の姿に含まれる『子ども Agency』を生涯の学びの始点として位置付ける試みを、指定討論者である遠藤氏と田熊氏と共に協議してみたい。

おりしも『こどもまんなか』をうたった子ども家庭庁の創設を迎える本年、『子ども Agency』の観点から保育学を捉えなおしてみることは意義あることと考えた。

田熊氏が常々「OECD の Education2030 の発想は乳幼児教育(ECEC)を起点としている」と発するその保育学の視座が、熊本市の教育改革の枠組みにおいてどのように位置づけられるのか。教育行政、保育実践、国際的観点を交えて保育学の位置づけについて考えてみたい。

2 話題提供

幼児期の発育・発達とインクルーシブ教育

中村 好郎 (第2さくら体育幼稚園 園長)

幼稚園は教育課程に基づき、担任は月案、週案、日案を立て保育に従事します。また、園独自の活動を交え、日々の活動が進みます。幼稚園に勤務するようになり6年、私は幼児期の子ども達の成長の著しさを実感しています。学習や活動の環境(場)を整え、方向性を示し選択する力を育てることで子ども達は大きな力を発揮します。本園は肥後コマ遊びを奨励しており、子ども達は様々な工夫をして難しい肥後コマを回せるようになりました。本園独自の太鼓活動も、子ども達が進んで練習に励む姿がありました。

インクルーシブ教育の視点からも、活動を勧める中で担任や周りの子ども達の支えで要支援の子ども達が成長を見せる姿を目の当たりにしてきました。30名近い学級集団の中で、担任の指示がなくても進んで関わる子ども、手

をさしのべる子どもの姿がありました。担任の教育的愛情や周りの子ども達の自然な関わりで、要支援の子どもが少しずつ成長する姿は周りの子ども達の成長にもつながっていくのです。

私は次の2点から幼児教育の可能性を示したいと思います。

1. 幼児期の発育・発達
2. インクルーシブ教育への架け橋

●プロフィール

第2 さくら体育幼稚園長

熊本大学卒業。熊本県内公立小学校に教諭、教頭、校長として勤務。小学校教諭時代は担任、体育主任を長年経験し、小学校体育連盟、小学校体育研究会に所属。定年退職後は私立幼稚園である第2 さくら体育幼稚園に勤務。

3 話題提供

就学前から見る架け橋期の子どもの姿

山崎 敬太郎（認定こども園やまなみ 園長）

3 要領・指針の整合性が確保される中、教育及び保育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的な「10 の姿」として整理することで、より具体的に教育・保育を計画するように示されている。当園においても、それらに沿った形で日々の保育や行事の見直しを行っているが、子どもたちの自発的な遊びを通してという部分が、人、環境、時間等の多くの制約を受ける中でどこまで実現できるのだろうかと非常に難しく感じている。乳幼児期を過ごすことになる園で養護と教育を一体的にとらえた「保育」とはいったいどのようなものであるか、人口の減少傾向がみられる熊本市にあって東区という比較的人口減少が緩やかに進んでいる地域にある当園の取り組みを通して見えてきた子どもの姿や架け橋期へ向けた課題を一緒に考えたい。

●プロフィール

幼保連携型認定こども園やまなみ園長

佛教大学卒業。1992 年特別養護老人ホーム就職。2002 年やまなみ保育園就職。2013 年熊本県立大学大学院総合管理学部アドミニストレーション研究科修士課程修了。2014 年筑紫女学園大学短期大学部講師。2015 年より現役職。2017 年尚絅大学短期大学部講師。

< 指定討論者 >

遠藤 洋路

●プロフィール

熊本市教育長

1997 年文部省（現 文部科学省）入省。2002 年ハーバード大学ケネディ行政大学院修了（公共政策学）。熊本県教育庁社会教育課長、内閣官房知的財産戦略推進事務局総括補佐などを経て、2010 年文部科学省退職。同年に青山社中株式会社を起業し、共同代表に就任。2017 年から現職。2022 年から兵庫教育大学客員教授を兼任。著書に『みんなの「今」を幸せにする学校』（時事通信社）。

田熊 美保

●プロフィール

OECD 教育スキル局シニア政策アナリスト

上智大学卒業。ボストン大学大学院修了。フランス国立東洋言語文化大学大学院修了。国際連合教育科学文化機関（UNESCO）教育セクターを経て、経済協力開発機構（OECD）へ。OECD 教育局教育研究革新センターにおける外務省派遣アソシエートエキスパートを経て現職。現在はパリ在住で、OECD 本部で勤務。OECD 東北スクールの立ち上げや、移民の教育政策レビュー、ノンフォーマル教育評価政策、幼児教育保育政策分析、e ラーニング事例研究などに関わる。現在、OECD 未来の教育スキル 2030 プロジェクトマネージャー。

実践研究へのいざないⅤ

－実践研究における“問い”の立て方について考える－

企画	：編集常任委員会
話題提供	：井内 聖（リズム学園 恵庭幼稚園） 二宮 祐子（和洋女子大学） 上村 晶（桜花学園大学）
指定討論	：川田 学（北海道大学大学院）
司会・趣旨説明	：瀧川 光治（大阪総合保育大学・編集常任委員会） 磯部 裕子（宮城学院女子大学・編集常任委員会）

Ⅰ 企画趣旨

編集常任委員会シンポジウムでは、近年「実践研究へのいざない」として質的研究の研究方法について主に議論を重ねてきた。その結果、保育実践についての質的な研究の意義や背景となる理論、さらに具体的な方法等についての論点等が整理されてきた。その中で見えてきたことは、「実践研究における“問い”をどのように持つか」が重要であるということである。ここでの“問い”は、研究におけるリサーチクエストを想定したものであるが、そもそも、多様な実践についての実践研究を行うにあたり、最初から明確な“問い”を持って研究を進める場合もあれば、実践の場（フィールド）に継続的に関与する中で、徐々に立ち上がってくる“問い”もある。そのため、多様な実践についての実践研究の一連の流れにおいて、どのような研究方法や分析方法においても、そのすべてに通底するのが、「実践研究における“問い”をどのように持つか」が重要であるということである。

本シンポジウムでは、すでに2016年度及び17年度に「論文作成のための“問い”」をテーマに行なっているが、今回はとくに実践研究の中で浮かび上がる“問い”に焦点を当てて、「実践研究における“問い”の立て方について考える」をサブテーマとして、以下の3点について議論を深めていきたい。

- 1) 多様な実践を研究するにあたってどのように“問い”（リサーチクエスト）を練り上げていくのか
- 2) その際に先行研究や関連研究の知見や課題等をどのように検討して考えを深めていくのか
- 3) それらの先行研究等を踏まえて学術論文にまとめる中で、どのように“問い”（リサーチクエスト）につながるように論じていくのか

このような点を踏まえることにより、実践研究の基本に立ち返って、「実践研究の意義」について考えていきたい。

Ⅱ 話題提供

（Ⅰ）新米実践研究者が向き合う“問い”という的

井内 聖

「実践は研究の宝庫である」。日常的に保育実践の場に身を置いていると理解したいと思う現象をいくつも目にする。しかし、実践者であるが故、その現象への探究は日々の実践に流されてしまう。足を止め、そこで感じた問題意識を実践研究としてまとめようとするも、そこにも実践者故の直感性が、問題意識から“問い”へとつながる論立てに壁として立ちちはだかる。この直感性は当事者性ともつながる。実践は何か一部分により成立するものではなく全体性を帯びているため当事者性が強いと現象を理解する焦点が絞られ問いが曖昧になる。また当事者性が視野と視点を狭め部分でしか現象を見られないこともある。先行研究等の知見や課題は、当事者性を有した問題意識を“問い”へとつなげるために、その現象の理解を深め、豊かにし、実践者の直感性を先行研究者の言葉を借り

て言語化していくプロセスである。それは現象を適切な視点と焦点から捉える作業とも言えよう。ただし、先行研究は既存の理論と方法で現象を理解しようとするもので、それだけでは“問い”にはつながらない。現象を異なる要因、条件、理論的視角で捉え直し、より深い理解に迫ることから“問い”が立てられていく。

自身の研究では、この“問い”を立てる作業がとても困難で、その妥当性について多くの批判と指摘を受けた。しかし、“問い”という的さえた確につくられれば、当て方としての研究方法や分析方法は的をつくる作業に比して理論構築の困難さは高くない。実践者の直感性を先行研究の知見を踏まえ、現象の言語化と理解というプロセスを通して新たな枠組みで現象を捉え直す。その問い立てに研究の醍醐味があるように感じる。

(2) “問い”の生成にまつわる実践研究特有の困難をめぐって

二宮 祐子

保育実践研究の調査対象となる「園」のフィールド特性は、保育実践の専門性が埋め込まれた「環境」に依るところが大きい。このようなフィールド固有の特徴を十分に踏まえないかぎり、適切な“問い”を立てることは難しいのではないかとと思われる。実際、拙著『保育実践へのナラティブ・アプローチ』に収めた4つの調査にあたり、文化人類学や社会学の質的研究論文から“問い”の立て方を学ぼうとしたりしたもの、リサーチクエスションに至るまでのプロセスは見えてこなかった。また、質的研究の技法書からハウツーを学ぼうとしたが、確固たる手応えは感じられなかった。

今となって思うに、1番目の敗因は、論文原稿のなかに、フィールドで“問い”を練り上げていくまでの紆余曲折を書き込むことはできない、という一般的事情によるものである。2番目の敗因には、フィールドワークの技法論を、そのまま、保育実践研究に適用することは難しいという特殊事情が挙げられるだろう。

そこで、シンポジウムにおいては、話題提供者自身がフィールドワークに従事する際、こうした困難を乗り越えるために心がけてきたことを述べたい。

まず、フィールドとして「質の高い実践」からのデータ収集が可能な「園」を確保することに努めてきた。そのうえで、「どのようにすれば、そのような質の高い実践は成り立つのか」という問題意識から逸れてしまわないよう注意しながら、フィールドワークを続けた。あくまでも私見にすぎないが、このような取り組みを丁寧に積み重ねることが、よりよい“問い”の生成につながっていくものと思われる。

(3) 実践者と研究者の狭間で生成された保育者の子ども理解に関する問いとは

上村 晶

「子どものことがわかる保育者になりたい」と願い、大学院で幼児心理学研究室に所属した私は、当時「保育者の子ども理解＝保育の根幹として重要」と漠然と認識していた。その後、保育者として子どもと共に日々の保育を営む中で、「子どもはただ理解される対象ではないのでは」「子どもには私はどう映っているのか」など、子どもを保育者と共に“わかる”を創り出す主体として問い直すようになった。また、転職後に研究者としてフィールドに入ると、実践者の私には見えなかった景観もあり、「保育者と子どもの双方向的なやりとりの中でどのようにわかり合いを紡ぎ出すか」という問いが立ち上がった。

このように、実践者と研究者の狭間で保育現場に根差した子ども理解を再考し、博論では関係構築プロセスの視座から「保育者は子どもとどのようにわかり合おうとするのか」という問いを立てるに至った。今振り返ると、実践者としての経験は、私にとって大きな気づきを与えてくれた貴重な機会であり、当時の子どもの眩みやその時に感じた些細な違和感が、より実践現場に根差した問いに注視する契機になったと言える。

また、RQを練り上げて論文化する際、①先行研究を踏まえた課題の所在の明確化、②問いを解明する相応しい研究手法、は特に苦勞した。しかし、学会等で多様な先生方からご意見をいただいたこと、複線径路等至性モデリング（TEM）に出逢えたことが、研究遂行上の転機となった。本シンポジウムでは、現場における些細な違和感やひらめきが、RQ生成や論文化に影響した詳細を紹介したい。

コロナ下における保育と子どもの育ちを考えるⅡ ー我々はコロナから何を学ぶのか？ー

企画	：課題研究委員会
話題提供	：新井 美保子（岡崎女子大学・課題研究委員会） 三宅 茂夫（神戸女子大学・課題研究委員会） 花輪 充（東京家政大学・課題研究委員会）
指定討論	：川上 一恵（東京都医師会理事・かずえキッズクリニック院長） 敷村 一元（えひめこどもの城園長）
司会・趣旨説明	：佐々木 晃（鳴門教育大学・課題研究委員会委員長） 西山 修（岡山大学・課題研究委員会）

Ⅰ 企画趣旨

西山 修

新型コロナウイルス感染症の拡大から、すでに3年が経過した。先の見通しが立ちにくい不確かな時代を歩む私達に、新型コロナウイルス感染症は新たな不確定要因を加えた。本学会は、保育の実践者と研究者が共に手を携え、子どもたちの健やかな発達と幸福を目指し、考え、行動する学会といえる。コロナ下における保育の在り方と子どもの育ちの保障は、今も先の見えない中であって、私達の中核的な課題であり続けている。

課題研究委員会では、第74回大会にて、コロナ下における保育実践の工夫と課題についての質的研究の成果を発表した。そこでの議論を踏まえ本委員会では、「コロナ下における保育と子どもの育ちに関する調査」を実施し、第75回大会では、その結果を報告した。参加者の関心は高く、未曾有の状況に立ち向かい力強く保育実践を進めている様子や、保育現場が不安や課題に直面していることが伝えられ議論を深めた。

今回、上記の副題を掲げ、コロナ下における保育と子どもの育ちを改めて問い直す。まず、先の調査から、コロナ下での子どもの体験、保護者対応、地域との関わり等に焦点を当て結果を提示する。次に、最前線でご活躍の2氏をお迎えし、指定討論をいただく。さらに、本年度予定の次期調査の内容も取り上げる。これからの「with感染症」時代を生きる子ども達と保育に資する調査となるよう、議論の展開を期待している。

両氏の略歴は次の通り（敬称略）。

- 川上一恵：東京都子供・子育て会議委員。東京都医師会では疾病対策、学校保健担当。乳幼児保健、感染症対策等に従事されながら、コロナ禍での子育て支援、安心安全なワクチン接種の実施等に尽力。著書に「園・学校でみられる子どもの病気百科」他。
- 敷村一元：PTAや公民館、子ども会などでコミュニケーションワークショップ、劇団「夢邪気」の公演、表現遊びワークショップなどを実施。地域と子どもをつなぐ活動に尽力。著書に「遊びからはじまる学び」「遊びの宝物」他。

2 話題提供

（Ⅰ）コロナ下により見えてきた、本当に大切にしたい子どもの育ちとは何か

新井 美保子

昨年の第75回大会では予備調査の結果を報告した。その中で明らかになった子どもの育ちと保育に関わる課題から、改めて今後の保育の在り方について考察したい。調査からは第1の課題として「園外のひと・もの・ことを中心に、直接体験が不足していること」が明らかになった。具体的には、自然体験や社会体験、高齢者や小学校との関わり、様々

な行事等が減少し、社会性や公共性の発達、小学校生活への適応等を不安視する意見や、直接体験の減少で感性や確かな知識、感覚等の獲得が不足することへの懸念が出された。乳幼児期は五感を通して見方・考え方を育み、興味・関心や好奇心・探究心などを深め、様々な対象等を総合的に理解していく時期だからこそ、直接体験は欠かせない。デジタル機器で補うとしても限界があるだろう。改めて乳幼児期の育ちにおける園内外の直接体験の重要性を認識し、この時期を逃すことなく、目的に沿った実施方法を工夫していきたいと考える。

第2に「子ども同士が夢中になって関わることや、自己表現、相手の感情の理解などが不足している。マスクで表情がわからない」、第3に「情緒の不安定さ、集団に入ることの不安感・緊張感、感染に対する警戒感が見られること」が課題として挙げた。具体的には、密集や身体接触を避ける中で、友達や保育者とのつながりをもちにくく、情緒や感情の発達、コミュニケーション能力の発達、言葉のニュアンスなどの言語感覚の発達等への不安が出されている。また、マスク着用に伴い、乳児の発音・発声の発達に対する不安も指摘されている。もし、家庭でもデジタル機器の使用拡大により家族間での会話やふれあいも減少しているとすれば、人への関心やコミュニケーションへの意欲さえも削がれてしまうかもしれない。なぜ、人と人は関わる必要があるのか、なぜ信頼関係を構築する必要があるのか、言葉を交わすとはどういうことか等、人としての根源的な問いに保護者も交えて向き合う必要があるのかもしれない。そして、多くの子どもが集い育ち合う貴重な場として、園の存在価値を再認識していきたい。

(2) 保護者・地域・園相互の関わりおよび関係性からみえてくるもの

三宅 茂夫

昨年度のシンポで発表した「保護者や地域との関わり」「行事の実施状況」等についての調査結果の概要は、次の通りであった。園と保護者との関わりは、時間的には対面では短く、内容的には量的・質的に減少・低下したとの意見が多く、なかでも量的減少は顕著であった。各園では、それを質的に高めて補おうと工夫がなされた。家庭訪問は、中止・無期延期の割合が高く、限定的ではあるが時期や方法を変え直接訪問以外で実施されるケースもあった。保護者会・PTA活動は、従来のやり方でなく、時期や方法を変えて実施されるケースが多かった。保護者との連携では、保護者間の関係づくりや詳細な情報共有の困難さなどが顕著となった。園と地域との関わりは、大幅に減少したものの登園時間や方法、人数などの配慮や園の感染対策・状況に関する積極的な情報発信、徹底した感染対策をした上での地域との関わりの継続などにより関係性は維持されたとのことであった。行事等の実施については、内容や方法、時期の変更、カリキュラムレベルでの行事の見直し・精選により、可能な限り中止は避け実施された。以上の結果からもわかるように、コロナ下において、各園での職員の可能な限りの知恵と不断の努力、工夫、協力、保護者や地域、行政、関係団体等との協力・連携により子どもの育ちが守られてきた。

一方で、これらの調査結果を保護者や地域などの側から捉え直してみると何がみえてくるのであろうか？保護者からすれば、園との対面や家庭訪問等での直接的な接点の減少や、制限下での保護者会・PTA活動の実施、他の園児の保護者との関わりの機会の減少などにより大きな不安感や孤独感を抱えることとなったであろう。行事等の実施についても、制限下での実施や精選により、子どもにとって従来のような十分な経験を得ることが難しい状況となり、保護者の不安感もいかに多かったであろうか。子どもにいろいろな経験をさせたいという保護者の思いから、子どもの経験の場を地域の社会資源に求められたことも考えられる。行事の実施に向けては、園と保護者、地域がセットとなり、相互の関係性が鍵となる。それまでの関係性は当然ながら、園生活や行事等における感染の状況、防止策などに関する情報提供ができるかにある。保護者や地域を納得させる園からの情報提供の如何によって、コロナ下における園生活や行事等の展開が大きく左右されたことは想像に難くない。保護者・地域・園との関係性に焦点をあて、保育と子どもの育ちについて考察を深めていきたい。

(3) 本調査の実施に向けて

花輪 充

2021年、2022年に行った予備調査から見えてきたことは、新型コロナウイルス感染予防に立ち向う保育現場の

弛まぬ努力と機転、そして、コロナ下においても健全な子どもの育ちを守り抜こうとする保育者らの情熱と工夫であった。一方、新型コロナウイルス感染症拡大の常態化に伴って、「かからない」「クラスターを出さない」を根強く打ち出し続けるところから、反対に積極的な展開を見せ始めている保育現場も多くなってきた。果たして、withコロナ時代を保育現場はいかに逞しくくぐりぬけていけばよいのか。本委員会では、2023年夏季より本調査を開始し、「with感染症」時代の到来と長期化を見据え、保育の未来に資する取り組みや具体的な事例の収集と分析等を行いwithコロナ下の「保育の今」を記録する計画である。

【目的】with感染症時代の到来と長期化を見据え、withコロナ下の「保育の今」を物語る記録や事例、データをもとに、今後保育現場で参考とされる保育支援のデータベースづくりに取り組む。

【方法】1. アンケート依頼／選出した地域の公立・私立（民間）の幼稚園、こども園、保育所。2. アンケート依頼規模／3,000件程度（検討中）。3. 調査実施時期／2023年7月～。4. 公表時期／2024年5月日本保育学会第77回大会。5. 調査内容／（1）①幼児期に特に育てたい資質・能力（心情・意欲・態度等）、②①の「ねらい」達成のために、保育において特に取り入れたい活動、③既に工夫して実施している活動、④保護者との連携、⑤職員間の取り組みをはじめ、⑥保護者への調査として、子育てに関する考え方やコロナ禍、デジタル化に伴う子育ての仕方の変化などについて、保育の未来に資する取り組みや具体的な事例を得る。（2）ウィズ・コロナが進み、社会のコロナへの意識が変わる中で、①保育において、コロナ以前に戻すべきことは何か、②保育において、コロナ下での取り組みとして残すべきことは何か、③保育において、これからさらに変えていくべきこととは何かについて、コメントを得る。（3）ウィズ・コロナ時代において問われる、①行政が大切にすべきことは何か、②子どもの育ちを保障するために保育で大切にしなければならぬことは何か、③子どもの育ちを保障するために保育者ができることは何か、についてコメントを得る。6. 分析方法／SCTを援用。KHCoder等による分析。

保育の多様性をめぐって －園における外国籍幼児の保護者支援の在り方－

企 画	： 田中 敏明（豊岡短期大学通信教育部）
司 会	： 清水 陽子（九州産業大学人間科学部）
話題提供	： 内田 千春（東洋大学ライフデザイン学部） 岡花 祈一郎（琉球大学教育学部） 宮崎 寛子（熊本市立碩台幼稚園）
指定討論	： 田中 敏明（豊岡短期大学通信教育部）

I 企画趣旨

2019年4月に、農業、漁業、産業機械製造業、外食産業など12の職種で「特定技能」を有する外国人の在留資格を認め、「特定技能2号」として認められると家族の帯同ができる出入国管理及び難民認定法が改正された。コロナ禍の中で人気の入国者が減少し、外国籍幼児数も減少しているが、2019年の時点では10万人強の外国籍乳幼児が幼稚園、保育所、認定こども園に在籍している。

こうした中で、外国籍幼児に対する支援に困難を感じる保育者は少ない一方で、保護者の日本語能力や文化、習慣、価値観の違いから保護者とのコミュニケーションや保護者対応で困難を感じる園が多く、積極的に外国籍幼児を受け入れようとする園は少数にとどまっている。園とのコミュニケーションや園の規則、保育時間、保育内容、保育方法に不安や不満を抱える外国籍幼児の保護者も少なくない。

外国籍幼児は今後急激に増加することが予想されることから、園と外国籍保護者の相互理解と効果的な支援のありかたを考えていきたい。

本シンポジウムでは、保育研究者と実践現場から、幼稚園・保育所等に在籍する外国籍幼児の受け入れと保護者対応の状況及び課題及び米軍基地を抱えることから多くの外国籍幼児が在園する沖縄の実情を提起する。内田千春氏には、日本および諸外国の外国籍幼児の保護者支援の実情について、岡花祈一郎氏には、沖縄の外国籍保護者の実態と課題について、熊本市立碩台幼稚園園長宮崎寛子氏から、長年にわたり多数の外国籍幼児の保護者支援を行ってきた経験に基づく支援の具体例と課題について話題提供をいただく。これをもとに、園と外国籍保護者の相互理解と効果的な支援について協議していく。

2 話題提供

（1）日本および諸外国における外国籍幼児の保護者支援

内田 千春

多くのOECD諸国では、多言語化・多文化化への配慮を必ず保育者養成教育に含めると共に、保育のあり方や内容に関するガイドラインに公平性と多様性に関する事項が示されている。複数の言語背景を持つ家族の支援においては、これまでの保育のあたりまえは通じないことがあり、常にアップデートを求められる。アメリカの日系幼稚園で保育者として体験した事例や、国内の調査で得られた事例を提供しながら、保護者支援の根幹となる保護者との関係づくりについて考える。また、母語や母文化を尊重しながら、幼児の育ちを保護者と共に支える上でのポイントを考察し、地域や園による認識や対応の差が生まれる要因について分析した結果を示しながら、わが国における外国籍幼児の保護者支援の方向性を明らかにして行きたい。

(2) 沖縄の外国籍幼児とその保護者をめぐる実態と課題

岡花 祈一郎

沖縄では、アメリカ人とアジア人の間で生まれたアメラジアンスクールが設立されたり、30年以上前から小学校のなかに日本語教室が設置されていたりと就学以降の教育的支援については比較的充実している。

しかしながら、沖縄の保育所・幼稚園・認定こども園では、外国につながる乳幼児に対して、十分な支援や配慮が先進的に行われているかといえそうとも言い切れない実状がある。2020年度に沖縄県内の保育所等を対象に実施したアンケート調査では、外国につながる子どもへの保育・教育について特に独自の取組みを行っていないという回答が8割を超えた。他方で、県内に在住している外国につながる保護者へのインタビューでは、様々な課題や葛藤を抱えつつも、日本の保育施設の保育内容等については概ね不満は無いという。ただ園側からは、自治体行政の支援はほぼなく、園任せだという声も根強くある。その内実として、制度的な支援からこぼれ落ちる保護者や子どもへのインフォーマルなかたちでの支援（柔軟な支援）の実態が浮かび上がってくる。

このように沖縄では、限られたリソースのなか、園では外国につながる子どもと保護者への支援を様々に工夫しながら対応している状況である。国籍やルーツに関係なく必要な時に必要な保育を受けることができる公正な保育・教育の実現のために、沖縄の事例を手がかりに、地域として、園として保育者として何ができるのかを考えてみたい。

(3) 熊本市の保育現場から

宮崎 寛子

本園では、コロナ禍の影響でここ1～2年は外国籍幼児の入園数が少ないものの、それ以前は園児の3分の1は外国籍の幼児が占めていた。国籍としては、東南アジア、中東、アフリカ諸国が多い。幼児は比較的簡単に園生活に適応するものの、コミュニケーションの難しさ、母国と日本の制度の違い、背景となる文化や価値観の違いなどから、保護者の理解を得ること、適切な保護者支援を行うことには困難を感じる状況があった。このため、本園では、次のような取り組みを行ってきた。①保護者の戸惑いが多い入園当初の手続等についての英語版の手引きを作成する。②持ち物や服装等について実物を用いて説明する。③タブレット端末を活用し、子どもの様子を見せることで安心感を与える。これらによって、保護者理解をかなり深めることができたが、残された課題も少なくない。いくつかの課題を提起し、具体的、効果的な支援の在り方を探っていきたい。

保育学・日本保育学会のこれまでとこれから

企 画	: 門田 理世 (西南学院大学)
司 会	: 脇 信明 (長崎大学)
	野口 隆子 (東京家政大学)
シンポジスト	: 無藤 隆 (白梅学園大学名誉教授)
	秋田 喜代美 (学習院大学・日本保育学会会長)
質 問 者	: 濱名 潔 (認定こども園 武庫愛の園幼稚園)
	池田 竜介 (九州産業大学)
	中ノ子 寿子 (西南学院大学大学院生)

I 企画趣旨

門田 理世

日本保育学会という名に従えば、保育学という学問領域は昭和23年には存在をしていたことになる。そして、この保育学は保育を研究するものだけが集う場ではなく、保育を実践し、保育を運営し、保育を監督し、保育を利用する、多様な人々によって形作られることで成り立っている。この間、教育学・心理学・福祉学・医学・看護学・情報工学・経営学等、様々な学際交流を重ねながら保育学はその立ち位置を模索し、また、日本保育学会はその基幹学会としての役割を請け負ってきた。

このことは何を意味してきたのか。そして、保育学という学問領域および保育学研究の推進と理解を担ってきた日本保育学会には、今後、どのような可能性が潜んでいるのか。

今大会の大会テーマ『保育を創る、未来を拓く～保育学の創造をめざして～』を念頭に置いた本実行委員会企画シンポジウムでは、保育学研究に携わるきっかけは違えども、近年の保育学研究の礎となり、長年にわたり、日本保育学会や保育学研究に近接する諸学会や行政機関でその意義を投げかけてこられた、無藤隆氏と秋田喜代美氏にご登壇頂き、保育学や日本保育学会の存在が意味してきたこと、そして、その行く末について忌憚のない話題提供を頂く。上記、両氏からのご発表を踏まえて、これからの保育学を担う若手保育者・若手研究者・大学院生らにご登壇頂き、保育学研究や日本保育学会に対する率直な疑問や関心、保育学研究を志すにあたっての視座、日本保育学会員として見据える当学会の方向性(未来)等々、若手会員ならではの視点で両氏に質問をして頂き、議論を展開したいと考えている。

近年の保育学研究・日本保育学会の転換期を支えてこられた両氏からの直言を若手会員や参加者の皆様とも共有しながら、充実した放談(質問・疑問・協議等)の時間を持ちたい。

2 話題提供

(1) 保育学の可能性を求めて：私の旅の現在として

無藤 隆

(日本において) 保育学とは何より実践の100年以上の積み重ねが我々の財産としてある。それは先人の知恵としての書籍として出ているが、同時に各園の実践での環境の作り方や保育の仕方に暗黙の内に伝承されている。そしてそれは近年(例えばこの20年)、多くの実践者が積極的に発信し、そこでの実践のあり方を可視化し、言語化し、さらに著作・論文として表している。この半世紀ほどの研究者(としての役割を担う人)がその実践のいわば外か

ら検討する場合と、また実践に立ち入って検討する場合とがあり、特に後者について論文として出ることとともに書籍や助言活動として表現されていることが多い。

保育学として広く含まれる分野は、実践知の可視化を中心とする部分が柱となりつつ、より基礎的な心理学・神経科学・社会学・経済学等の内外の基礎研究知やエビデンスがある。同時に歴史的経緯が重要であり、またそれを導く子ども観・保育観等の思想の歴史的知見であり、我々はその枠をどう意識しようと生きてしまっている。そして日本で無視できないのは要領・指針により公的方針、時に施策また制度として定式化されるところに集約されることである。その統合を行政知と呼んでおこう。それらの相互作用の中に保育学の多様性と統合性が流動的に成り立ち、その活発化がこの数十年の学会としての模索である。

私自身はその状況の中でいくつか試みてきたが、今考えることを挙げたい。第一、子どもの権利とエイジェンシーとして言われることを思想的にとらえ直したい。子ども中心主義としてのあり方を大事にしつつ、多くのエイジェンシーのあり方の相互的關係と捉える。第二、多くの実証研究の成果を受け止めそれと整合的にしつつ、その先を実践が歩むところを仕組み化していきたい。第三、そのために実践者と研究者（その役割を担う人）の具体的な研修・園での協働活動をどう知のパフォーマンスとして位置づけるか。第四、子どもの志向性を主体的自律的共感的な関わりとしてとらえると共に、子どもを囲む環境を通してその背後に成り立ついくつもの「世界」への探究として幼児教育の活動をとらえたい。それは保育内容の見直しである。第五に、子どもを知的で感情的で社会文化的なあり方として絶えず動き変容するものとしてとらえるために、私の言い方では、諸世界への「関わり」の「愛と知の循環過程」を豊かにするにはどうしたらよいかを考えたい。

●プロフィール

白梅学園大学名誉教授。専門は、保育・幼児教育、小学校教育。東京大学教育学部卒業、東京大学教育学研究科博士課程中退。東京大学新聞研究所助手、聖心女子大学助教授、お茶の水女子大学教授、白梅学園大学学長・教授などを経て現在。日本質的心理学会理事長、日本発達心理学会理事長、文部科学省中央教育審議会教育課程部会長、内閣府子ども・子育て会議会長などを経て、現在、国立教育政策研究所上級フェロー、日本乳幼児教育・保育養成学会理事長など。

(2) 保育学会と保育学研究のこれからを考える

秋田 喜代美

日本保育学会は、保育学に関する知の伝承と生成、共有の国内最大のプラットフォームであり、保育学研究に携わる探究実践コミュニティである。第6代小川博久会長は学会大会を普及啓発の場ではなく会員相互の研究交流の場にと願われた。第7代着任以来当方もその理念を受け継いできているが、大会と学会誌以外の場でもオンライン化普及の中で、保育学会はこの数年地域ブロック企画シンポや保育政策検討委員会シンポを始め、よりネットワークを強め、新たな局面を迎えていると考えられる。

現在日本の保育は、少子化という長期的難題と新型コロナ禍による急激な社会変化の中での急を要する多様な課題を抱えている。また地球規模での温暖化や戦争・紛争から平和へ、格差から公正へ等の課題にも直面している。これらを子どもの日々の暮らしや保育実践とつなげて各自が自分事として考えていくことが、子どもたちの今と未来を考えるためには必要である。家庭や子どもの変化、保育者不足や園数減少や多機能化、子ども家庭庁など自治体や国の行政制度の変化等もこれら課題と連動している。難題は数々あるが、一元的解はない。だからこそ日々の保育をめぐる課題から長期的課題までを会員各々がその人独自の専門性や卓越性を活かし、探究し対話を続けていくことが求められよう。その時に向かうべきビジョンや理念の共有がこれからの保育学を創造する駆動力や触媒になるであろうし、学会はそのグラインドデザインを示し実装化する働きが求められる。それが子どもや園、そして社会のWELLBEINGへとつながる道の一つになると考える。

あらゆる学問は保育につながる。またその一方で保育学はあらゆる学問にも開かれた最先端学問領域でもあらねばならない。保育学研究のイノベーションやブレイクスルーは、学際的な知の対話や異質な社会文化的背景

を持つ探究者同士が包摂性や多様性を活かした研究対話の中でこれまでも生まれ、またこれからも生まれていくであろう。またそこにはICTの発展と共に新たなツールや分析手法も支えとなるだろう。子どもや保育に関わる人々の声をどのように聴き取り、時に代弁し共に考え新たな保育と保育学を生み出していくかが問われている。子どもたちの有能さ、遊びのワクワク感、園が創出する魅力的実践、ネットワークが編みだす学び合いの連鎖が創発させる実践知が、保育学の希望を生む駆動力である。保育者や園、園間。園小、地域ネットワーク等に埋め込まれた暗黙の実践知を可視化し探究していくこと、その環境をデザインしていくことがこれからの保育学に問われると考える。当日は、筆者が取り組んでいる研究プロジェクトの具体を通しこの点を話題提供してみたいと考える。

●プロフィール

日本保育学会第7代および第9代（現）会長。学習院大学教授、東京大学名誉教授。博士（教育学）。現在、内閣府こども子育て会議会長、こども政策の推進に関する有識者会議委員、「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に関する有識者懇談会座長、全世代型社会保障構築会議委員、文部科学省初等中等教育分科会委員等。

自然災害と保育 ～被災から復興、保育所に求められるもの～

企 画	: 第76回大会実行委員会
趣旨説明	: 伊藤 良高（大会実行委員長・熊本学園大学）
解 説	: 吉津 晶子（熊本学園大学） 上原 真幸（熊本学園大学）

1 企画趣旨

伊藤 良高

保育における「自然」とは、子どもを育む環境であり、子どもを取り巻く環境の中から「自然物」という重要な教材を与えてくれる大切なものである。しかし自然から享受するものは計り知れないほど豊かである一方、「災害」という厳しい現実もわれわれに突きつけてくる。それは自然の見せる厳しい姿とも言えるだろう。

熊本県では、2016年熊本地震、2020年球磨川流域豪雨災害という2つの大きな災害が続いた。このような災害下において保育所はどのように機能し、また機能しなかったのか。子どもの安心安全、そして保育をどのように守ったのか。被災から復興に向けた足跡を「保育実践」として公開することを通し、多発する自然災害に対する保育の今後のあり方について3本の動画を通して考えたい。「災害」という過去からの学びを未来に生かしていく機会となることを願っている。

2 解説

（1）2016年熊本地震：さくらんぼ保育園の実践から

吉津 晶子

2016年4月14日午後9時26分、後に前震と呼ばれるマグニチュード6.5の地震が熊本を襲った。この時、益城町では震度7を記録し、隣接する熊本市でも震度6弱の揺れに見舞われた。続く4月16日午前1時25分、前震とは比較にならない程の大きな揺れ（マグニチュード7.3、震度7）が再度熊本を襲った。この時、前震の後辛うじて生き残っていたライフラインはほぼ全てダウンし、水道・電気・ガス・通信のない状況下に多くの人が置かれることとなった。

さくらんぼ保育園（園長 建川美徳）は、熊本市東区の広木地区に位置し、益城町の最も被害の大きかった場所から直線距離にして約6キロという近さで、近隣の住宅に多くの被害が出た地域に立地している。4月16日の本震直後から地域住民に園の駐車場、乳児室と園のホールを私設避難所として開放し、安心安全な場所の提供と1日3食の食事提供を通して地域住民と園児・保護者を支えた。

参考：富田久枝・名須川知子他『保育に活かすSDGs／ESD 一乳幼児の権利と参画のために』、かもがわ出版、2023

（2）2020年熊本豪雨：保育団体の連携による被災職員支援活動

上原 真幸

2020年7月3日夜から4日朝にかけて、熊本県南部を中心に豪雨が襲った。24時間に400ミリを超える雨量が観測された。一級河川の球磨川流域など、熊本県人吉市・球磨村・八代市坂本町・芦北町・津奈木町等の各地域で

河川氾濫による浸水や土砂崩れが生じた。浸水の深さは人吉市街地で5メートルにも及び、地域の方々の生活が奪われた。

豪雨による被害は保育施設にも及んだ。床上浸水被害が生じた保育施設が8園。内、被災後も自園の2階で保育を懸命に継続させた園が4園。園舎の被害が大きく地域の別の園や施設の一部屋や、廃校になった小学校等を代替園舎として保育を継続させた園が4園あった。また、園舎の被害はなかったものの、園周辺地域の道が寸断され、園児が通園することさえできず、地域住民の避難所の役割を終えた後、保育施設の継続が難しくなった園もあった。

熊本豪雨が生じた2020年は、新型コロナウイルス感染の影響が国内にも広がった年である。避難者が集まる中で、避難所の感染対策などの問題も生じた。特に、県外移動の自粛等が求められ、ボランティアの呼びかけも容易にできず、人員不足による復旧の遅れが懸念された。そのような中、熊本県保育協議会及び熊本県保育協会青年部が連携し、県内の保育関係者に、被災保育職員宅の復旧ボランティアが呼びかけられた。土曜保育の終了後や日曜日に県内の多くの保育者・保育関係者が、スコップや土嚢袋を持参し集まった。グループに分かれ、各住宅の土砂撤去作業、床板・壁板はがし、洗浄等の活動が複数日行われた。今回、その時に記録として残されていた写真を基に動画を作成した。熊本県内保育団体の連携による災害復興の姿をみていただきたい。

4. 自主シンポジウム

自主シンポジウム A

5月13日(土) 13:00～14:00

J-A-1 社会的子育ての実現：
多様な家族としての外国人家族を支えるために

第3会場

企 画 ・ 司 会	藤 後 悦 子	東京未来大学
話 題 提 供	野 田 敦 史	高崎健康福祉大学
	白 石 雅 紀	東京未来大学
	野 澤 純 子	國學院大學
指 定 討 論	野 澤 義 隆	東京未来大学
	柳 瀬 洋 美	東京家政学院大学

J-A-2 子どもの主体的なあそび、学び、育ちを支える園庭・校庭・まちの環境について考える6
～乳児期から学童期の子どもたちの屋外環境とのかかわりの機会の重要性・可能性を再考する～

第4会場

企 画 ・ 司 会	仙 田 考	田園調布学園大学大学院・ 国際校庭園庭連合日本支部
話 題 提 供	渡 辺 英 則	ゆうゆうのもり幼保園・港北幼稚園
	藤 原 みつ子	ゆうゆうのもり幼保園
	笹 山 雅 司	札幌市立かつこう幼稚園
指 定 討 論	鈴 木 暁 範	横浜市こども青少年局
	松 山 洋 平	和泉短期大学

J-A-3 発達にもとづく評価基準と対話的保育実践
ー保幼小接続期カリキュラムにおける基礎的理論構築にむけてー

第5会場

企 画 ・ 司 会	塩 崎 美 穂	東洋英和女学院大学
話 題 提 供	赤 木 和 重	神戸大学
	岡 花 祈 一 郎	琉球大学
指 定 討 論	加 藤 繁 美	山梨大学
	大 宮 勇 雄	福島大学

J-A-4 指導が行き届きにくい保育実習生の実態
－対人関係に困難さがみられる実習生に関する全国調査から－

第6会場

企画・話題提供	服部 伸一	関西福祉大学
司 会	半 田 結	兵庫大学
話 題 提 供	井 上 寿 美	大阪大谷大学
	廣 陽 子	関西福祉大学

J-A-5 DV 家庭への保育所での支援と保育士の思い

第7会場

企 画 ・ 司 会	岡本 エミ子	認定こども園中央しおり保育園
話 題 提 供	信 國 千 紗	認定こども園中央しおり保育園
	西山 かおり	認定こども園春の町保育園
	草場 美穂子	わかくさ
指 定 討 論	窪 田 由 紀	福岡ジェンダー研究所

J-A-6 園内研修や会議を変える保育ファシリテーション
－職員の主体的参加を促し保育の質を向上する－

第8会場

企 画 ・ 司 会	鈴木 健 史	東京立正短期大学
話 題 提 供	大 西 祐 輔	かみこまつ保育園
	磯 山 真 子	かさまの杜保育園
	粕 谷 幸 代	かさまの杜保育園
	前 田 武 司	額小鳩保育園

J-A-7 子育て支援における多職種連携協働

第9会場

企 画 提 供	井 上 清 美	東京家政学院大学
話 題 提 供	堀 聡 子	東京福祉大学短期大学部
	勝 山 幸	東京家政学院大学
	中 谷 桃 子	東京工業大学

J-A-8 保育での ICT 活用第一歩
～ここから始めた ICT 活用～

第 10 会場

企 画 ・ 司 会 話 題 提 供	堀 田	博 史	園田学園女子大学
	飯 田	良 太	レイモンド田無保育園
	澁 谷	倫 子	芦屋市立宮川幼稚園
	伊 藤	浩 一	芦屋市こども・健康部
	薮 田	朝 美	宝塚市立仁川幼稚園

J-A-9 子どもの手指の発達を促す遊びと玩具

第 11 会場

企 画 ・ 司 会 話 題 提 供	善 本	眞 弓	東京成徳大学
	谷 村	寛 子	福岡女学院幼稚園
	服 部	雪 絵	菊川保育園
	山 岡	千 秋	子育て支援センター「グラン・マ」
	石 井	今 日 子	芸術と遊び創造協会
指 定 討 論			

自主シンポジウム B

5月13日(土) 16:00～17:00

J-B-1 保育における「多様性」をどのように理解することができるのか
ー国内外のナショナルカリキュラムの検討からー

第3会場

企画・話題提供	大庭 三枝	福山市立大学
司 会	中川 智之	川崎医療福祉大学
話題提供	橋本 勇人	川崎医療福祉大学
	林 恵	帝京平成大学
	木戸 啓子	倉敷市立短期大学
	平野 知見	京都文教大学
指定討論	門田 理世	西南学院大学
	ト田 真一郎	常磐会短期大学

J-B-2 幼児教育・保育における環境構成と散歩

第4会場

企画・司会・話題提供	田 中 謙	日本大学
話題提供・指定討論	池田 幸代	道灌山学園保育福祉専門学校
話題提供	亀田 華世子	私立保育所保育士
	下地 香里	私立保育所保育士

J-B-3 接続期の教育
～模索・実践・課題～

第5会場

企画	多田 琴子	神戸常盤大学
話題提供・司会	大野 沙絵子	姫路市立城北小学校
話題提供	長谷川 剛	姫路市立別所小学校
	星 川 守	姫路市立白鷺小中学校
	坂根 早織	姫路市立水上幼稚園
指定討論	田中 亨胤	岐阜聖徳学園大学短期大学部

J-B-4 保育所実習のDX化を目指した電子版実習記録の開発と可能性

第6会場

企画・司会・話題提供	尾崎 司	東京家政大学短期大学部保育科
話題提供	平山 祐一郎	東京家政大学家政学部児童学科
	金城 悟	東京家政大学家政学部児童学科
	佐藤 康富	東京家政大学短期大学部保育科
	佐藤 隆弘	東京家政大学家政学部児童学科

J-B-5 生きた保育のことばに向けて：
生成のナラティブ

第7会場

企画・話題提供	横山 草介	東京都市大学
話題提供	久保 健太	大妻女子大学
	水津 幸恵	三重大学
	山本 一成	滋賀大学
指定討論	やまだ ようこ	立命館大学

J-B-6 幼保連携型認定こども園の特性を生かした子育て支援について考える
ーポピュレーションアプローチを中心にー

第8会場

企画・話題提供	矢野 潔子	尚絅大学 短期大学部
司会	那須 信樹	中村学園大学 教育学部
話題提供	榊原 久子	鎌倉女子大学 児童学部
	平山 猛	幼保連携型認定こども園 さざなみ保育園
	坂崎 隆浩	幼保連携型認定こども園 こども園ひがしどおり

J-B-7 「能力」というトラウマから抜け出す
ー“よさ”の未定義性のさらなる展開ー

第9会場

企画・話題提供	林 浩子	国立音楽大学
話題提供	岩田 恵子	玉川大学
	宇田川 久美	相模女子大学
指定討論	佐伯 胖	信濃教育会教育研究所

J-B-8 乳幼児への語りかけについて考える
－男性保育者の視点から－

第 10 会場

企 画 ・ 司 会	児 玉 珠 美	愛知学泉短期大学
話 題 提 供	太 田 美 鈴	愛知学泉短期大学
	永 井 竜 司	大口町立西保育園
	小 林 馨 之	大口町立南保育園
指 定 討 論	内 山 伊 知 郎	同志社大学

J-B-9 保育環境・家庭環境の質と子どもの発達について考える：
実証研究の知見から

第 11 会場

企 画 ・ 話 題 提 供	野 澤 祥 子	東京大学
司 会	香 曾 我 部 琢	宮城教育大学
話 題 提 供	砂 上 史 子	千葉大学
指 定 討 論	遠 藤 利 彦	東京大学
	無 藤 隆	白梅学園大学

自主シンポジウム C

5月14日(日) 9:30～10:30

J-C-1 知育玩具の与え方 ～保育における人的環境の充実～

第3会場

企画・話題提供	藤田 篤	日本知育玩具協会
企画	小川 直茂	静岡文化芸術大学
話題提供	杉本 桂子	トーマスぼーや保育園
	和田 晶子	日本知育玩具協会
	堀之内 信子	日本知育玩具協会

J-C-2 保育環境に関する学習方法の提案 －保育者養成教育における活動理論の活用－

第4会場

企画	倉盛 美穂子	日本女子体育大学
司会	渡邊 真帆	福山市立大学
話題提供	光本 弥生	広島修道大学
	上山 瑠津子	福山市立大学
指定討論	弘田 陽介	大阪公立大学

J-C-3 幼小接続をみすえた多文化保育 －越前市の取り組みから考える－

第5会場

企画	岡本 拓子	高崎健康福祉大学
司会・話題提供	佐々木 由美子	足利短期大学
話題提供	石川 昭義	仁愛大学
	天勝 かおり	越前市立上太田保育園
指定討論	吉永 安里	國學院大學

J-C-4 保育者養成校と保育現場をつなぐ"こども理解プロジェクト MIYAGAKU" II
～つながりから生まれてきたもの～

第6会場

企 司 話 画 題 提 供	画 題 提 供	山下 恵子	宮崎学園短期大学
		小川 美由紀	宮崎学園短期大学
		大坪 祥子	宮崎学園短期大学
		山下 愛実	宮崎国際大学
		難波 れい子	宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園
		佐伯 千穂	宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園

J-C-5 子ども主体の保育と安全
～子どもの自由な遊びの価値と危険について考える～

第7会場

企 司 話 画 題 提 供	司 会 提 供	猪熊 弘子	お茶の水女子大学大学院 博士後期課程
		中村 章啓	野中こども園
		司馬 政一	学校法人 清明学園
		瀬沼 幹太	社会福祉法人 はとの会

J-C-6 トライアル・アンド・エラーから学ぶ質の向上を目指す保育マネジメント (2)
～実践者・ミドルリーダー・管理職の視点の重なりから考える～

第8会場

企 司 話 画 題 提 供	画 題 提 供	田澤 里喜	玉川大学
		井上 真理子	洗足こども短期大学
		田中 健介	綾南幼稚園
		西井 宏之	白梅学園大学付属白梅幼稚園
		亀ヶ谷 元讓	宮前おひさまこども園

J-C-7 「アートと創造性」の可能性：
レッジョ・エミリアのアトリエリスタの語りから

第 9 会場

企画・司会・話題提供	森 眞 理	神戸親和女子大学 教育学部
話 題 提 供	刑 部 育 子	お茶の水女子大学 基幹研究院
	植 村 朋 弘	多摩美術大学 情報デザイン科
	郡 司 明 子	群馬大学 共同教育学部
	藤 田 寿 伸	東京成徳大学 子ども学部
指 定 討 論	津 田 純 佳	みりおらーれ

J-C-8 持続可能な社会と保育のあり方
～人間中心主義の保育を問い直す～

第 10 会場

企 画 提 供	木 戸 啓 絵	東海大学
話 題 提 供	松 本 信 吾	岐阜聖徳学園大学
	葭 田 昭 子	森のECHICA 花の森こども園
	小 西 貴 士	ぐうたら村
指 定 討 論	井 上 美 智 子	大阪大谷大学

J-C-9 保育における動画の活用

第 11 会場

企 画・司 会	高 橋 健 介	東洋大学
話 題 提 供	浅 井 広	愛隣幼稚園
	鈴 木 悠 太	高階幼稚園
	木 村 創	向山こども園

J-C-10 ミドルリーダーの経験の径路を探る：
リーダーシップの発揮・葛藤・逡巡のプロセス

第 12 会場

企 画・話 題 提 供	中 坪 史 典	広島大学大学院
司 会	野 口 隆 子	東京家政大学
話 題 提 供	黒 崎 知 子	私立武蔵野東第一幼稚園
	千 崎 響 子	広島市立中筋幼稚園
	箕 輪 潤 子	武蔵野大学
指 定 討 論	上 田 敏 丈	名古屋市立大学

自主シンポジウム D

5 月 14 日（日） 13:00 ～ 14:00

J-D-1 子どもと保育者が共につくりあげる保育環境

第 3 会場

企 画 ・ 進 行	藤 川 志 っ 子	淑徳大学短期大学部
企画・進行・指定討論	菅 井 洋 子	川村学園女子大学
話 題 提 供	伊 藤 礼 子	川村学園女子大学附属保育園
	野 木 恭 子	川村学園女子大学附属保育園
	浦 野 里 美	川村学園女子大学附属保育園
	秋 庭 直 美	川村学園女子大学附属保育園
指 定 討 論	池 田 純 子	淑徳大学短期大学部

J-D-2 就学前保育者と小学校教師の合同研修会を通して考える幼小接続・連携の在り方とは

第 4 会場

企 画 ・ 進 行	岡 部 祐 輝	幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園
企画・進行・指定討論	田 辺 昌 吾	四天王寺大学
話 題 提 供	森 本 将 行	高松短期大学
	岩 本 哲 也	大阪市立味原小学校
	棕 田 善 之	関西国際大学
指 定 討 論	松 井 剛 太	香川大学

J-D-3 保育の質の向上に資する実習指導の新展開

第 5 会場

企 画 ・ 司 会	増 田 ま ゆ み	湘南ケアアンドエデュケーション研究所
企画・進行・指定討論	石 井 章 仁	大妻女子大学
話 題 提 供	小 櫃 智 子	東京家政大学
	松 井 雄 一 郎	認定こども園さざなみの森
指 定 討 論	大 方 美 香	大阪総合保育大学

J-D-4 「保育事故」をなくすために（7）
 —いま保育関係者が取り組むべき課題は何か—

第6会場

企画・司会	平沼博将	大阪電気通信大学
話題提供	阿部一美	赤ちゃんの急死を考える会
	二宮千賀子	Co-Link
指定討論	服部敬子	京都府立大学
	岩狭匡志	保育の重大事故をなくすネットワーク

J-D-5 乳幼児精神保健の知見を援用した現任研修プログラムの可能性

第7会場

企画・話題提供	Dalrymple 規子	桜花学園大学
司会	藤田一郎	福岡女学院大学
話題提供	隅田望美	高知市立神田みどり保育園
指定討論	高橋睦子	恵泉女学園大学

J-D-6 保育の中の「参画」
 —「参画」から考える「子どもの権利」—

第8会場

企画・司会	爾寛明	桜美林大学
話題提供	藤森平司	新宿せいが子ども園
	前田英範	幼保連携型認定こども園 たのしかこども園
	水田明光	ながた保育園
	森口達也	新宿せいが子ども園
	ベルガー有希子	ミュンヘン公立幼児施設 Haus für Kinder

J-D-7 国の職員配置基準で、子どもを尊重する保育は可能か

第9会場

企画・司会	逆井直紀	保育研究所
話題提供	菅原信子	旭川のびろ保育園
	平松知子	熱田福社会
	村山祐一	保育研究所

J-D-8 子どもを真ん中に保育を考えるⅡ
～遊び心を手がかりにして～

第10会場

企画・司会	佐藤 寛子	お茶の水女子大学附属幼稚園
企画・話題提供	佐々木 麻美	お茶の水女子大学附属幼稚園
話題提供	伊藤 綾子	お茶の水女子大学附属幼稚園
指 定 討 論	村石 理恵子	東京女子体育短期大学

J-D-9 コミュニティ再生における遊び心の持つ意味

第11会場

企 画 提 供	小 松 歩	白梅学園短期大学
話 題 提 供	山 路 千 華	白鷗大学
	瀧 口 優	白梅学園短期大学
	金 田 利 子	フェリシアこども短期大学
指 定 討 論	富 田 昌 平	三重大学
	麻 生 武	奈良女子大学

J-D-10 地域子育て支援拠点事業としての外国籍幼児・児童への
絵本の読み聞かせの取り組みと課題に関する研究

第12会場

企画・話題提供	田 中 卓 也	育英大学
司 会	加 藤 緑	清和大学短期大学部
話 題 提 供	中 島 眞 吾	中部大学
	小 川 知 晶	川崎医療福祉大学
	小 田 桐 早 苗	川崎医療福祉大学
	山 梨 有 子	彰栄保育福祉専門学校
	野見山 直子	彰栄保育福祉専門学校
	小 野 順 子	福山平成大学
指 定 討 論	小 島 千 恵 子	桜花学園大学
	塚 越 亜 希 子	群馬医療福祉大学

自主シンポジウム E

5月14日(日) 15:30～16:30

J-E-1 日本における多文化保育の現状と課題
～国内保育施設・養成校調査の結果から～

第3会場

企画・司会・話題提供	林 悠 子	神戸松蔭女子学院大学
話 題 提 供	韓 在 熙	四天王寺大学短期大学部
	松 山 有 美	日本福祉大学
指 定 討 論	三 井 真 紀	九州ルーテル学院大学

J-E-2 保育現場における実習の意義を見つめて
～共同体として育ち合うために～

第4会場

企 画	高 村 真 希	北陸学院大学
話 題 提 供	大 塚 紫 乃	江戸川大学
	浅 香 聡 彦	大徳学園
	新 保 雄 希	泉の台幼稚園
	境 佑 二	こども園わかば

J-E-3 子どもの権利条約と保育実践とのつながりを考える
ー子どもが社会の一員として在ることー

第5会場

企画・指定討論	矢 野 景 子	十文字学園女子大学
話 題 提 供	中 嶋 一 郎	東京福祉大学
	舟 山 千 佳	むくどりこども園
	山 岸 日 登 美	まちの保育園こども園

J-E-4 モンテッソーリ教育学と子ども教育における現代的視点を探る

第6会場

企画・話題提供・指定討論	保 田 恵 莉	滋賀短期大学
司会・話題提供・指定討論	中 野 一 茂	皇學館大学
話題提供・指定討論	土 谷 長 子	皇學館大学
	尾 崎 剛 志	皇學館大学
	田 村 禎 章	ユマニテク短期大学

J-E-5 多胎児の親の育児における困難感とその支援： 支援拡大に向けて

第7会場

企画・司会・話題提供	村 上 涼	江戸川大学
話 題 提 供	水野 かおり	関東多胎ネット
	中 川 美 織	SwingRing ーふたご応援プロジェクトー
	川 崎 恵 里 菜	地域子育て支援センターかるがも
	濱 田 瑞 穂	地域子育て支援センターかるがも
指 定 討 論	今 村 麻 子	宇都宮共和大学

J-E-6 戦争、差別とキリスト教保育

第8会場

企画・指定討論	渡 邊 哲 也	新島学園短期大学コミュニティ子ども学科
司会・話題提供	熊 田 凡 子	関東学院大学教育学部こども発達学科
話 題 提 供	東 義 也	尚絅学院大学 心理・教育学群 子ども学類

J-E-7 子どもを真ん中に保育を考える Ⅲ ～ぐちゃぐちゃと過ごす中で思うこと、4歳児と保健室～

第9会場

企画・司会・話題提供	杉 浦 真 紀 子	お茶の水女子大学附属幼稚園
話 題 提 供	谷 地 理 沙	お茶の水女子大学附属幼稚園
	渡 辺 満 美	お茶の水女子大学附属幼稚園
指 定 討 論	川 崎 徳 子	山口大学

J-E-8 「保育」の境界の不可視性
ー傍らにいる者の保育への関与からー

第 10 会場

企 画・指 定 討 論	本 山 方 子	白梅学園大学
司 会	水 崎 誠	東京学芸大学
話 題 提 供	松 田 登 紀	奈良女子大学附属幼稚園
	豊 永 麻 美	白梅学園大学大学院
	中 村 恵	畿央大学

J-E-9 幼児教育の推進に向けた体制のあり方を考える
ー幼児教育センターとの連携を軸にー

第 11 会場

企 画・司 会	井 辺 和 杜	山口県立大学
企 画・話 題 提 供	七 木 田 敦	広島大学大学院
話 題 提 供	大 野 歩	山梨大学大学院
	藤 田 久 美	山口県立大学
指 定 討 論	田 坂 嘉 章	広島県北部総務事務所

J-E-10 保育実践に根差した評価の探求：
エピソード研修から考える

第 12 会場

企 画 提 供	佐 川 早 季 子	京都教育大学
話 題 提 供	東 村 知 子	京都教育大学
	古 賀 松 香	京都教育大学
指 定 討 論	川 田 学	北海道大学

自主シンポジウム F

5月14日(日) 17:00～18:00

J-F-1 「部屋の響き」は保育実践にどのような影響を及ぼすのか
ー障がいのある子どもたちのための音環境づくりからー

第3会場

企画・司会・話題提供	野口 紗生	明治大学, こどものための音環境デザイン
話題提供	上野 佳奈子	明治大学
	松本 知子	浜松市根洗学園
	船場 ひさお	横浜国立大学, こどものための音環境デザイン
指定討論	由田 新	千葉明德短期大学
	片川 智子	鶴見大学短期大学部

J-F-2 幼・小移行期の書き言葉と保育
ー子どもは何のために書くか、どのように支えるかー

第4会場

企画・話題提供	松本 博雄	香川大学
司会	吉田 真理子	三重大学
話題提供	石本 啓一郎	名寄市立大学
	川地 亜弥子	神戸大学
指定討論	田中 幸	千葉大学教育学部附属幼稚園

J-F-3 保育者養成における SDGs
～これからのカリキュラムを考える～

第5会場

企画・司会	名須川 知子	桃山学院教育大学
話題提供	山本 弥栄子	桃山学院教育大学
	高木 悠哉	桃山学院教育大学
	亀山 秀郎	認定こども園七松幼稚園
指定討論	富田 久枝	千葉大学

J-F-4 保育者養成課程における絵本の学びから広がる可能性
～認定絵本士養成講座を通して～

第6会場

企画・司会・話題提供	小屋 美香	育英短期大学
話題提供	鈴木 みゆき	國學院大學
	前 徳 明子	埼玉東萌短期大学
指定討論	仲 本 美央	白梅学園大学

J-F-5 支え、繋ぎ、育む：日本のインクルーシブな保育への展望（2）
－子どもの自己発揮を支える園内環境整備の視座から－

第7会場

企画・司会	吉 川 和 幸	国立特別支援教育総合研究所
話題提供	河 原 麻 子	国立特別支援教育総合研究所
	嶋 野 隆 文	国立特別支援教育総合研究所
	柿 沼 平 太 郎	認定こども園こどもむら
	加 藤 篤 彦	武蔵野東第一・第二幼稚園
	箕 輪 恵 美	中央区立有馬幼稚園
指定討論	広 瀬 由 紀	共立女子大学
	堀 越 紀 香	国立教育政策研究所

J-F-6 異年齢保育の実践を学ぶ
－インクルーシブ保育における子ども同士の関りについて－

第8会場

企画・司会	小 山 望	田園調布学園大学大学院心理学専攻
話題提供	加 藤 和 成	葛飾こどもの園幼稚園
	松 岡 佳 子	愛の園ふちのべこども園
	中 鉢 路 子	青山学院大学（愛の園ふちのべこども園）
指定討論	堀 智 晴	インクルーシブ共生教育研究所

J-F-7 地域への親しみを育む保育実践
ーこども園における現状と課題についてー

第 9 会場

企 画 ・ 司 会	及 川 留 美	東海大学
企 画 趣 旨 説 明	金 玫 志	聖徳大学短期大学部
話 題 提 供	山 並 道 枝	やまなみこども園
	仲 村 幸 浩	上田こども園
	粕 谷 亘 正	和光大学
指 定 討 論	岩 崎 淳 子	大東文化大学
	春 日 保 人	聖徳大学短期大学部

J-F-8 就学前期における「学習」の意味を問う：
学習とドキュメンテーション (pedagogical documentation)

第 10 会場

企 画 題 提 供	内 田 祥 子	高崎健康福祉大学
	白 石 淑 江	愛知淑徳大学
	井 上 知 香	愛知淑徳大学
	浅 井 幸 子	東京大学大学院
指 定 討 論	石 黒 広 昭	立教大学

J-F-9 おむつなし保育を楽しむ保育士たち
～はつの・あそびの森こども園の排泄ケア～

第 11 会場

企 画 ・ 司 会	大 石 茜	津田塾大学
話 題 提 供	田 中 健 太 郎	はつの・あそびの森こども園
	永 里 香 織	はつの・あそびの森こども園
	竹 田 祐 子	おむつなし育児研究所
	近 藤 明 枝	子育てサロン和く和く

5. 研究発表

□頭発表 A

K-A-I 保育思想・保育理論・保育史などI

5月13日(土) 14:30~15:15

第3会場

座長：湯川嘉津美・高田文子

- | | | |
|----------|---|--|
| K-A-1-01 | 明治後期の師範学校における保姆養成
ー京都府師範学校保姆講習科の検討を中心にー | 上智大学 ○ 湯川 嘉津美 |
| K-A-1-02 | 対話が可能となる保育の成立条件
ーデューイの教育理論から | 横浜高等教育専門学校 ○ 渡邊 志津子 |
| K-A-1-03 | 高杉自子の「望ましい経験や活動」をめぐる
思索の過程
ー森上史朗との『保育対談』(1984)に焦点をあててー | 東京家政大学 ○ 鳥居 希安
東京家政大学 戸田 雅美 |
| K-A-1-04 | 戦後、昭和の時代を創造したリーダーたちのオーラル
ヒストリーその3
ー日本の幼児教育のパイオニアとしてのリーダーらの語りからー | 秋草学園短期大学 ○ 松永 静子
白梅学園大学 村上 博文
白梅学園短期大学 源 証香
元白梅学園大学 汐見 稔幸 |
| K-A-1-05 | 『保育の手帖』における平井信義らの3歳児保
育に関する記事の検討
ー平井の自由保育論との関連を中心としてー | 弘前大学 ○ 武内 裕明 |

K-A-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）などⅠ

5月13日(土) 14:30~15:15

第4会場

座長：高玉和子・角地佳子

K-A-2-01	幼児が材の大きさを選んでつくる レーシングカーの製作 ー保育者が行う木育ー	宮崎国際大学 ○ 守川 美輪 生目幼稚園 坂本 圭佑 光明保育園 山田 七奈 三名こども園 高田 ミカ
K-A-2-02	年長女兒の素話における人物表現について	大阪国際大学短期大学部 ○ 角地 佳子 幼保連携型認定こども園 高鴨 麻実 大阪国際大和田幼稚園 高市 京佳
K-A-2-03	幼児の人間関係における自然あそびの意義と効果に関する文献研究	学校法人アルウィン学園 ○ 門倉 洋輔 玉成保育専門学校
K-A-2-04	「三びきのこぶた」はどのように記憶されているか	豊岡短期大学 ○ 伊藤 美和子
K-A-2-05	子どもと絵本との関わりに関する研究XⅢ	○ 和田 香誉

K-A-3 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）などⅤ

5月13日(土) 14:30~15:15

第5会場

座長：柊島香代・藤崎亜由子

K-A-3-01	幼児の感性を育む園庭の自然環境	玉成保育専門学校 ○ 廣瀬 団
K-A-3-02	子どもと共に暮らすとは…(2) ～生活の中の「、(点)」～	関東学院六浦こども園 ○ 鈴木 直江 関東学院六浦こども園 千葉 綾子 関東学院六浦こども園 村松 直人
K-A-3-03	造形表現を通した子ども理解 ー幼稚園教諭と小学校教諭の語りの質的分析よりー	中部学院大学短期大学部 ○ 小室 明久
K-A-3-04	好きな遊びにみられる社会情動的スキル ー5歳児の事例からー	文京学院大学ふじみ野幼稚園 ○ 渡辺 陽介 文京学院大学ふじみ野幼稚園 廣沢 仁美 目白大学 西田 希代 文京学院大学 柊島 香代
K-A-3-05	絵の具を使用した描画の表現過程 ー5歳児の描画活動からー	大阪国際大学短期大学部 ○ 渡邊 詩子 幼保連携型認定こども園 高橋 依子 大阪国際大和田幼稚園
K-A-3-06	保育士と調理師が協働する保育実践 ー子どもが”食”から学ぶことの考察ー	ChaCha Children Todoroki ○ 三山 美美子 ChaCha Children & Co 村川 万里子 ChaCha Children & Co 迫田 圭子 ChaCha Children Daikanyama 最上 秀樹

K-A-4 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）などⅡ

5月13日(土) 14:30~15:15

第6会場

座長：金田利子・境愛一郎

- | | | |
|----------|---|--|
| K-A-4-01 | 子どもが「ちょうどよい」を獲得する
プロセスに関する一考察（2）
ー偶然の出会いから創発される遊びに焦点をあててー | 田園調布学園大学子ども
未来学部子ども未来学科
○ 舟 生 直 美 |
| K-A-4-02 | 運動会を再興する
ーアフターコロナの行事のあり方ー | 認定こども園 清心幼稚園
共立女子大学
○ 栗 原 啓 祥
境 愛 一 郎 |
| K-A-4-03 | 子どもの不思議に思う気持ちに保育者は
どのようにかわるか | 玉川大学 大学院
○ 大豆生田 芽吹 |
| K-A-4-04 | ICT を活用した保育実践とその可能性 | 東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎
東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎
東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎
○ 八 木 亜 弥 子
町 田 理 恵
阿 部 か ほ り |
| K-A-4-05 | COVID-19 感染流行禍における幼児の徒歩通園が
幼児の生活習慣とそのリズムに及ぼす影響 | 浦 和 大 学
○ 山 梨 み ほ |

K-A-5 乳児保育（0.1.2 歳児の保育）などⅠ

5月13日(土) 14:30~15:15

第7会場

座長：七木田敦・汐見和恵

- | | | |
|----------|--|---|
| K-A-5-01 | 乳児保育におけるわらべうたをうたい合うことの意味
ー TAE を用いた質的分析からー | 広島都市学園大学
○ 本 岡 美 保 子 |
| K-A-5-02 | 乳児期の排泄支援が子どもの発達を変える | 常 磐 短 期 大 学
○ 村 上 八 千 世 |
| K-A-5-03 | 外国籍児の園生活適応過程における保育者の
近接性と愛着形成の役割
ー 1・2 歳児保育の 1 年間の強縦断観察研究からー | 愛知大学短期大学部
○ 杉 本 貴 代 |
| K-A-5-04 | 幼児期前期における論理的思考を考える
ー 1, 2 歳児の遊び場面の分析を通してー | 東 京 家 政 大 学
東 京 家 政 大 学
○ 大 久 保 麻 彩
堀 科 |
| K-A-5-05 | 2 歳児の遊びの継続と広がりを経験を通して考える | フレーベル西が丘みらい園
フレーベル西が丘みらい園
フレーベル西が丘みらい園
フレーベル西が丘みらい園
フレーベル西が丘みらい園
○ 米 園 美 里
吉 田 清 夏
柴 田 直 美
清 水 す み れ
汐 見 和 恵 |
| K-A-5-06 | 乳児の「姿勢」発達における「飛行機の姿勢」の意味
ーワロンの「姿勢・情動系」の視点から読み解くー | 山 口 県 立 大 学
広 島 大 学 大 学 院
○ 井 辺 和 杜
七 木 田 敦 |

K-A-6 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅰ

5月13日(土) 14:30~15:15

第8会場

座長：浜口順子・井上浩義

K-A-6-01	保育者の保護者支援のプロセスと保育者の学び ー保育者による観察記録をもとにー	九州女子短期大学 ○ 宮嶋 晴子 近畿大学九州短期大学 垂見 直樹
K-A-6-02	子どものふりかえり記録を元にした保護者との “非公式な対話” に関する一考察	お茶の水女子大学附属小学校 ○ 小沼 律子 お茶の水女子大学附属小学校 佐久山 有美 お茶の水女子大学附属小学校 富田 京子 お茶の水女子大学 浜口 順子
K-A-6-03	熟達保育者の「みえ」を疑似体験できる VR映像教材の開発	鳴門教育大学大学院 ○ 湯地 宏樹 鳴門教育大学大学院 佐々木 晃 四国大学 湯地 由美 鳴門教育大学附属幼稚園 杉山 健人
K-A-6-04	保育の質の向上につながる保育者の学びについて	秋草学園短期大学 ○ 小山 玲子
K-A-6-05	保育の質を高める実践② ー模擬保育における保育学生の視線に着目してー	武庫川女子大学 ○ 遠藤 晶 久米 裕紀子

K-A-7 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅱ

5月13日(土) 14:30~15:15

第9会場

座長：神長美津子・龍崎忠

K-A-7-01	「遊び保育」実践における保育者のふるまいの検討 ー複数の幼児への対応を可能にする保育者の構えー	東京都市大学 ○ 岩田 遵子
K-A-7-02	自分自身へのケアとしてのセルフ・コンパッション と保育者の専門性の関連	岐阜聖徳学園大学 ○ 龍崎 忠
K-A-7-03	新任保育者の省察的実践力の形成に関する研究 ービデオ振り返りの M-GTA による分析を通してー	筑波大学人間総合科学学術院 ○ 亀井 以佐久 寺尾 幼稚園
K-A-7-04	保育の研修と保育実践 (2) ーこども理解から創られる保育の計画・実践を考えるー	山口大学 ○ 川崎 徳子
K-A-7-05	保育者の実践力を高めるためのトレーニングのあり方 ーディベート論題の検討 2 ー	静岡県立大学短期大学部 ○ 副島 里美
K-A-7-06	業務ストレスに基づく保育者の分類：潜在 クラス分析を用いた検討	環太平洋大学 ○ 中井 和弥

K-A-8 児童文化・児童文化財I

5月13日(土) 14:30~15:15

第10会場

座長：田 甫 綾 野 ・ 後 藤 紀 子

K-A-8-01	伝統文化継承における保育と教育現場の役割	帝 京 科 学 大 学 ○ 大 海 由 佳
K-A-8-02	1920 年代後半の童話の位相 ー児童劇脚本家・長尾豊の著述からー	川 口 短 期 大 学 ○ 佐 々 木 美 和
K-A-8-03	フレームドラマをスクリーンにした影絵の実践 ーゼミ学生の取り組みー	和 光 大 学 ○ 後 藤 紀 子
K-A-8-04	幼児の鑑賞教育 ーアート・カードの活用ー	名古屋文化学園保育専門学校 ○ 永 井 弘 人

K-A-9 子ども家庭支援IV

5月13日(土) 14:30~15:15

第11会場

座長：富 田 久 枝 ・ 五 十 嵐 元 子

K-A-9-01	親子関係づくりに必要な関わりと支援方法	高 崎 健 康 福 祉 大 学 ○ 千 葉 千 恵 美
K-A-9-02	子ども家庭支援を行う園のリーダーが有する 「地域」観	大 阪 公 立 大 学 大 学 院 ○ 吉 田 直 哉 神 戸 大 学 大 学 院 中 谷 奈 津 子 大 阪 公 立 大 学 大 学 院 木 曾 陽 子
K-A-9-03	保護者と副園長とで語り合うことの意味を探る ー保護者・保育者の変容に着目してー	お茶の水女子大学附属幼稚園 ○ 高 橋 陽 子 灰 谷 知 子
K-A-9-04	園と地域との連携の意義：園庭・地域環境に 関する保育者への質問紙調査から	お 茶 の 水 女 子 大 学 ○ 辻 谷 真 知 子 園 庭 研 究 所 石 田 佳 織 白 梅 学 園 大 学 宮 田 ま り 子 福 井 大 学 宮 本 雄 太
K-A-9-05	子どもの遊び支援に関するレビュー研究	東 京 福 祉 大 学 ○ 石 曉 玲

口頭発表 B

K-B-I 保育思想・保育理論・保育史などⅡ

5月13日(土) 17:15~18:00

第3会場

座長：湯地宏樹・田中謙

- | | | |
|----------|--|-------------------------|
| K-B-1-01 | 戦時期愛育会における「季節保育所」事業の展開
ー『愛育新聞』の記事の検討を中心にー | 淑徳大学短期大学部 ○ 相 楽 真 樹 子 |
| K-B-1-02 | 近世戸籍の中のこども
ー乳幼児死亡、養子、貰い子、寺預けー | 和 光 大 学 ○ 太 田 素 子 |
| K-B-1-03 | 戦後初期のキリスト教主義保育者養成の実際
ー東洋英和女学院保育専攻部の授業の検討からー | 東洋英和女学院大学 ○ 佐 藤 浩 代 |
| K-B-1-04 | レッジョ・エミリアの幼児教育とファンタジー：
ジャンニ・ロダーリとの関わりに着目して | お茶の水女子大学大学院 ○ 小 坂 田 摩 由 |
| K-B-1-05 | 倉橋惣三における母親観1
ー「育ての心」を中心にー | 名古屋芸術大学 ○ 安 部 孝 |

K-B-2 保育制度・保育行財政など

5月13日(土) 17:15~18:00

第4会場

座長：汐見稔幸・白石淑江

K-B-2-01	東広島市の就学前保育施設の保育の質と乳幼児の育ちに関する研究 ー保育者・保護者の評価からー	広島大学大学院 ○ 七木田 敦 山口県立大学 井辺 和杜
K-B-2-02	乳児保育を巡る思想と制度	大阪国際大学短期大学部 ○ 久保田 健一郎
K-B-2-03	カナダにおける保育政策 ー連邦・州政府の新たな関係ー	田園調布学園大学 ○ 犬塚 典子
K-B-2-04	スウェーデンの就学前教育における組織的な質の取り組み(2) ーストックホルム市の自己評価、保護者アンケートの概要ー	愛知淑徳大学 ○ 岡田 泰枝 愛知淑徳大学 白石 淑江
K-B-2-05	スウェーデンの就学前教育における組織的な質の取り組み(1) ー教育計画作成における自治体・校区・就学前学校の関係ー	愛知淑徳大学 ○ 白石 淑江 愛知淑徳大学 岡田 泰枝

K-B-3 保育内容(健康・人間関係・環境・言葉・表現)などⅡ

5月13日(土) 17:15~18:00

第5会場

座長：林牧子・川北典子

K-B-3-01	即興的な「立絵芝居」の制作実演から考える ー領域「言葉」「表現」の相互関連的な活動の可能性ー	大阪城南女子短期大学 ○ 弘田 みな子 大阪城南女子短期大学 日高 由貴 大阪城南女子短期大学 柴田 精一 蓮光学園パドマ幼稚園 齋藤 佳津子
K-B-3-02	領域「表現」の豊かな感性での「豊かな」を 顕在化することは保育に何をもたらすか?	小田原短期大学 ○ 高 間 準
K-B-3-03	五感を使った音遊びにおける子どもの表現の 育ち(2) ー楽器演奏の活動場面から見えることー	宮崎学園短期大学 ○ 後藤 祐子 宮崎学園短期大学 星崎 明里
K-B-3-04	五感を使った音遊びにおける子どもの表現の 育ち(1) ー身体表現の活動場面から見えることー	宮崎学園短期大学 ○ 星崎 明里 宮崎学園短期大学 後藤 祐子
K-B-3-05	領域「表現」に関する保育内容の指導法の 授業について考える(2) ー学生の模擬保育実践の内容からー	十文字学園女子大学 ○ 二宮 紀子 十文字学園女子大学 藪崎 伸一郎
K-B-3-06	5歳児の自発的な絵本とのかかわり ー保育園の自由時間の活用に着目してー	帝京大学 ○ 呂 小 耘

K-B-4 保育環境

5月13日(土) 17:15~18:00

第6会場

座長：砂上史子・野澤祥子

K-B-4-01	保育環境論の内容についての一考察	東海学園大学○横井一之
K-B-4-02	子どもの外国語体験における保育環境の考察	姫路日ノ本短期大学○藤田貴久 姫路日ノ本短期大学 津田由加子 姫路日ノ本短期大学 白井智子
K-B-4-03	保育実践における幼児の撮影行動と Media Awareness の変容	畿央大学○中村恵
K-B-4-04	幼児期におけるテキスタイル教材の実践研究	東京家政大学○岡本恵
K-B-4-05	1歳児クラスにおける保育の質の探索的検討： 保育の環境と保育者のかかわりから	金沢大学○滝口圭子 東京大学 野澤祥子 京都教育大学 佐川早季子 大阪教育大学 小崎恭弘 宮城教育大学 香曾我部 琢 香川大学 松井剛太
K-B-4-06	保育環境における子どもの遊ぶ権利の保障	玉成保育専門学校○加納拓朗

K-B-5 乳児保育（0.1.2 歳児の保育）などⅡ

5月13日(土) 17:15~18:00

第7会場

座長：寺見陽子・酒井治子

K-B-5-01	乳児が保育所で他者と生活する意味に関する研究	名古屋市立大学○長野未来 人間文化研究科博士後期課程
K-B-5-02	堀合文子はどのように3歳児の保育をしてきたのか	広島大学大学院○李睿苗
K-B-5-03	離乳期の食事場面における子どもの心地よさを 支える保育者と調理担当者の連携2 ー離乳食の進みがゆるやかなK児に焦点をあててー	東京家政学院大学○會退友美 島根大学 伊藤優 和洋女子大学 池谷真梨子 東京家政学院大学 酒井治子
K-B-5-04	離乳期の食事場面における子どもの心地よさを 支える保育者と調理担当者の連携1 ー咀嚼に課題のあるJ児に焦点をあててー	和洋女子大学○池谷真梨子 東京家政学院大学 會退友美 島根大学 伊藤優 東京家政学院大学 酒井治子
K-B-5-05	1、2歳児の主体性を尊重した環境構成の検証	九州産業大学○三原詔子

K-B-6 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅱ

5月13日(土) 17:15~18:00

第8会場

座長：田代幸代・岸野麻衣

K-B-6-01	保育系 YouTuber 研究の展望	国立教育政策研究所 ○ 矢崎 桂一郎
K-B-6-02	長期にわたる保育実践記録に見られる保育者としての専門性	福井大学大学院 ○ 岸野 麻衣
K-B-6-03	幼児の対人葛藤における保育者の援助に関する研究Ⅰ ー5歳児のけんかやいざこざに着目してー	聖和短期大学 ○ 大北 理津子
K-B-6-04	保育者として実際に働いてみて ー養成校の卒業生アンケートからー	アルウィン学園 ○ 藤岡 郁子
K-B-6-05	子ども、保育者、保護者による居心地のよいクラスづくり ー乳児クラスの担任としてー	富士市立松野こども園 ○ 石川 智子
K-B-6-06	保育者のライフストーリーから捉える保育観の形成プロセス	愛光保育園 ○ 樋口 さおり 長崎短期大学 藤野 正和

K-B-7 保育専門職の養成などⅠ

5月13日(土) 17:15~18:00

第9会場

座長：瀧川光治・小川直茂

K-B-7-01	保育士養成校における玩具・絵本の専門教育導入に関する報告・分析	日本知育玩具協会 ○ 藤田 篤 静岡文化芸術大学 小川 直茂
K-B-7-02	保育者養成における音楽のアレンジ	つくば国際短期大学 ○ 板橋 華子 公立女子大学 村上 康子
K-B-7-03	保育者養成における大型遊具制作の意義と教育効果に関する研究	岐阜聖徳学園大学短期大学部 ○ 齋藤 正人 静岡文化芸術大学 小川 直茂
K-B-7-04	保育に生かす感性を育むために ー子ども目線から心を揺さぶられるような体験を通してー	名古屋経営短期大学 ○ 勝田 みな
K-B-7-05	3歳未満児クラスの保育環境に関する研究のシステマティックレビュー	福山市立大学 ○ 渡邊 真帆

K-B-8 子ども家庭支援I

5月13日(土) 17:15~18:00

第10会場

座長：山本理絵・福丸由佳

K-B-8-01	日本において医療的ケア児のインクルーシブ教育を就学前から推進する保育所・学校支援実践の特性と課題	国立音楽大学 ○ 山本 智子
K-B-8-02	SNS を媒体とした匿名育児相談の実践報告 (2) ~質問と回答から見る、現代の養育者の理解~	NPO 法人こども発達実践協議会 ○ 河 合 清 美 NPO 法人こども発達実践協議会 阿 部 美 波 NPO 法人こども発達実践協議会 伊 澤 幸 代 NPO 法人こども発達実践協議会 加 藤 麻 衣 NPO 法人こども発達実践協議会 平 出 朝 子 NPO 法人こども発達実践協議会 矢 島 弥 生
K-B-8-03	父親の協同育児が養育態度に与える影響	聖ヶ丘教育福祉専門学校 ○ 密 城 吉 夫
K-B-8-04	子どもの人権を保育者はどのように意識しているのか	相山女学園大学 ○ 磯 村 正 樹 名古屋短期大学 瀧 田 弘 子 広島大学附属幼稚園 渡 邊 拓 真
K-B-8-05	社会情勢にともなう民間の子育て支援活動のあり方について その3	帝京学園短期大学 ○ 吉田 百加利 あんふぁんねっと 軽 部 妙 子

K-B-9 多文化保育・異文化理解・ジェンダーなど

5月13日(土) 17:15~18:00

第11会場

座長：田中敏明・内田千春

K-B-9-01	NHK 教育番組「おかあさんといっしょ」におけるジェンダー・スキーマに関する歴史的分析	武蔵野大学 ○ 松田 こずえ
K-B-9-02	保育所における多文化的環境への応答ームスリムの子どもへの「除去食」提供を事例としてー	近畿大学九州短期大学 ○ 垂 見 直 樹
K-B-9-03	多文化共生保育におけるコミュニケーションに関する研究ー3歳児クラスの保育者の関わりに着目してー	岩国短期大学 ○ 富田 雅子
K-B-9-04	配慮が必要な子が友の中で生き生きと生活するために (11)	葛飾こどもの園幼稚園 ○ 加 藤 和 成 葛飾こどもの園幼稚園 鶴 巻 直 子 葛飾こどもの園幼稚園 月 澤 未 来 葛飾こどもの園幼稚園 小 林 さ ゆ り 葛飾こどもの園幼稚園 齋 藤 由 佳 共立女子大学 広 瀬 由 紀
K-B-9-05	イギリスにおける家庭的保育 (チャイルドマインディング) の歴史的な研究 (3)	東京大学大学院 ○ 梶 瑞 希 子

口頭発表 C

K-C-I 保育思想・保育理論・保育史などⅢ

5月14日(日) 11:00~11:45

第3会場

座長：秋山麻実・松島のり子

- | | | |
|----------|---|--|
| K-C-1-01 | 1918年アメリカにおける幼稚園
月間カリキュラムの特徴
ー保育者の実践に基づいて作成された教育要領
を手がかりにー | 浦 和 大 学 ○ 野 尻 美 枝 |
| K-C-1-02 | レッジョ・エミリアの幼児教育の歴史：
ブルーノ・チアーリとローリス・マラグッツィ
の関係に着目して | 東 京 大 学 ○ 浅 井 幸 子 |
| K-C-1-03 | レッジョ・エミリアにおける子どもと芸術の関わり
(その2)参加・対話・連帯に着目して | 神戸親和女子大学教育学部 ○ 森 眞 理
東京成徳大学子ども学部 藤 田 寿 伸 |
| K-C-1-04 | レッジョ・エミリアにおける子どもと芸術の関わり
(その1)芸術から教育への影響 | 東 京 成 徳 大 学 ○ 藤 田 寿 伸
神 戸 親 和 女 子 大 学 森 眞 理 |
| K-C-1-05 | 教育における「生活」概念についての考察
ー倉橋惣三における「生活」を中心にー | 常 葉 大 学 ○ 柴 田 賢 一 |

K-C-2 発達論・心身の発達・保育計画など

5月14日(日) 11:00~11:45

第4会場

座長：上田敏丈・宮里暁美

K-C-2-01	ICTドキュメンテーションによる、子ども主体の保育を進める帳票	社会福祉法人ルピナス ○ 山本 幸子 常葉大学保育学部 村上 太郎
K-C-2-02	2歳児における創造的場面の考察 ーモノとの対話による創発過程の検討ー	学習院大学 大学院 ○ 最上 秀樹 ChaCha Children & Co
K-C-2-03	幼児の描出傾向に見る心理的発達	広島文化学園短期大学 ○ 末次 絵里子
K-C-2-04	保育環境を評価する(3) ー3~5歳児が行き交う中で生まれてくる「社会」ー	文京区立お茶の水女子大学こども園 ○ 松尾 杏菜 お茶の水女子大学 宮里 暁美 お茶の水女子大学 内海 緒香 文京区立お茶の水女子大学こども園 伊藤 幸子
K-C-2-05	「アイディアから広がる世界」 ー子ども主体を目指す保育計画ー	三 瀧 保 育 園 ○ 名頭園 弥生 三 瀧 保 育 園 中村 理沙

K-C-3 保育内容(健康・人間関係・環境・言葉・表現) などⅢ

5月14日(日) 11:00~11:45

第5会場

座長：花輪充・岡花祈一郎

K-C-3-01	保育園・地域との協働で創り出す文化的活動の展開に関する考察(1) ー地域に向けた取り組みに対する保育者の意識ー	仁 慈 保 幼 園 ○ 菊地 みぎわ 仁 慈 保 幼 園 根本 京子 仁 慈 保 幼 園 妹尾 正教
K-C-3-02	保育園・地域との協働で創り出す文化的活動の展開に関する考察(2) ー子ども・保護者・地域の方の表現活動を通して見る保育園の役割ー	仁 慈 保 幼 園 ○ 根本 京子 仁 慈 保 幼 園 菊地 みぎわ 仁 慈 保 幼 園 妹尾 正教
K-C-3-03	地域コミュニティと保育園の関係性の探求 ー保育におけるグローバルとはー	もあなキッズ自然楽校 ○ 関山 隆一
K-C-3-04	職場環境と保育観、保護者への関わり方 ー保育士・幼稚園教諭の比較調査ー	西南学院大学 ○ 田中 理絵
K-C-3-05	子どもの音楽表現を引き出す保育者の関わり	聖隷クリストファー大学 ○ 二宮 貴之 東京福祉大学短期大学部 本野 洋子

K-C-4 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅲ

5月14日(日) 11:00~11:45

第6会場

座長：榎沢良彦・真鍋健

K-C-4-01	コロナ禍2年目の保育について	帝京学園短期大学 ○ 井上 聖子
K-C-4-02	保育者と保護者の「子ども理解」は異なるのか ー幼児の遊び場面の解釈を焦点としてー	岡崎女子短期大学 ○ 木田 千晶
K-C-4-03	「子どもの権利」に対する保育者の認識と 実践に関する検討	千葉大学 ○ 崔 美美 学習院大学 秋田 喜代美
K-C-4-04	ケア論からみた保育の専門性 (2)	華頂短期大学 ○ 渋谷 郁子 ユマニテク短期大学 山野 栄子 ユマニテク短期大学 小島 佳子
K-C-4-05	身のまわりの音から音楽表現活動へ ー授業実践を通してー	兵庫教育大学 ○ 山岸 多恵

K-C-5 保育専門職の養成などⅡ

5月14日(日) 11:00~11:45

第7会場

座長：井上孝之・小原敏郎

K-C-5-01	保育者養成におけるブレンディドラーニングを 用いた保護者との関係構築力の育成を目指した 授業実践について (2)	共立女子大学 ○ 小原 敏郎 田園調布学園大学 恒川 丹 仙台白百合女子大学 三浦 主博
K-C-5-02	ITリテラシー指標を用いた「保育ICT」の授業 フレームワークの開発	千葉経済大学短期大学部 ○ 中村 佐里 江戸川大学 波多野 和彦
K-C-5-03	Padlet を活用したプロジェクト活動における 記録の検討 ー学科特別行事を通してー	目白大学人間学部子ども学科 ○ 佐藤 牧子 目白大学人間学部子ども学科 西田 希 目白大学人間学部子ども学科 近藤 千草 目白大学人間学部子ども学科 おかもと みわこ 目白大学人間学部子ども学科 高橋 弥生
K-C-5-04	保育者志望学生の ICT 活用指導力向上に関する研究 ー保育者養成課程版 ICT 活用指導力チェックリスト 開発のための調査ー	帝京平成大学 ○ 村山 大樹
K-C-5-05	既存科目を活かした「保育ICT」実現の試み	江戸川大学 ○ 波多野 和彦 千葉経済大学短期大学部 中村 佐里
K-C-5-06	保育者養成課程におけるキャリア教育実践の試み ー「保育内容総論」と「キャリアデザイン」の連携ー	東京経営短期大学子ども教育学科 ○ 井村 礼恵

K-C-6 子ども家庭支援Ⅱ

5月14日(日) 11:00~11:45

第8会場

座長：中坪史典・木曾陽子

K-C-6-01	子育て中の保護者は一時預かり事業をどのように利用しているのか？	名古屋学芸大学 ○ 加藤 望 広島大学大学院 中坪 史典
K-C-6-02	児童虐待予防に繋がる保育所等の取組 －関係機関との連携に着目して－	帝京科学大学 ○ 渡辺 令子
K-C-6-03	保育所等における生活困難家庭に対する 組織的支援 (6) －支援の理念を保育者に浸透させるプロセス－	大阪公立大学 ○ 木曾 陽子 神戸大学大学院 中谷 奈津子 武庫川女子大学 鶴 宏 史 大阪公立大学 吉田 直哉 大阪公立大学 関川 芳孝
K-C-6-04	保育所等における生活困難家庭に対する 組織的支援 (5) －園長による支援の必要性の認識とその形成プロセス－	武庫川女子大学 ○ 鶴 宏 史 神戸大学大学院 中谷 奈津子 大阪公立大学 木曾 陽子 大阪公立大学 吉田 直哉 大阪公立大学 関川 芳孝
K-C-6-05	保育現場における連絡帳の実態とその業務に 対する保育者の意識調査	東京経営短期大学 ○ 綿貫 文野 つくば国際短期大学 三宅 美千代 淑徳大学 酒井 基宏

K-C-7 保幼小連携・接続・保育マネジメント

5月14日(日) 11:00~11:45

第9会場

座長：鈴木正敏・金子幸

K-C-7-01	家庭科教育の観点からの幼保小接続 －家庭科教育と生活をつなぐ施設とひと－	北海道文教大学 ○ 長岡 交子
K-C-7-02	令和4年の豪雨による保育施設の被災と保育再開	徳島大学 ○ 中野 晋 東京未来大学 西村 実穂
K-C-7-03	令和2年7月豪雨により被災した認定こども園 の復旧過程の特徴	東京未来大学 ○ 西村 実穂 徳島大学 中野 晋
K-C-7-04	コロナ禍における保育所の感染症予防の体制や 対策に関する研究	洗足こども短期大学 ○ 向笠 京子
K-C-7-05	卵を題材とした幼児向け STEAM 教育プログラムの 検討	白百合女子大学 ○ 石沢 順子 白百合女子大学 大貫 麻美 白百合女子大学 椎橋 げんき 日出学園幼稚園 鍛冶 礼子 東京学芸大学教職大学院 原 口 るみ

5月14日(日) 11:00~11:45

第10会場

座長：松本博雄・猪熊弘子

K-C-8-01	これからの保育所・保育士等の在り方について ー行政の動きからの一考察(1)ー	公立保育所 ○ 古田 美津子 愛知みずほ短期大学 谷口 良美
K-C-8-02	これからの保育所・保育士等の在り方について ー行政の動きからの一考察(2)ー	愛知みずほ短期大学 ○ 谷口 良美 公立保育所 古田 美津子
K-C-8-03	保育者の危機管理意識を高める介入プロセスの検討 ～ヒヤリハットを事故予防に活かす取り組み～	アートチャイルドケア株式会社 ○ 高橋 香織 アートチャイルドケア株式会社 田中 亜希子 アートチャイルドケア株式会社 平原 藍
K-C-8-04	英国と日本の園庭遊具における事故予防に 関する研究 ー子どもの危険な遊びの価値に着目してー	お茶の水女子大学大学院 ○ 猪熊 弘子 博士後期課程
K-C-8-05	途上国における未就学児を対象とした 安全教育の提案 ー南インドの貧困層の子どもたちが英語で学ぶ 意義と課題ー	Library Classes of ○ 高田 由香理 Injambakkam school

□頭発表 D

K-D-1 保育思想・保育理論・保育史などⅣ

5月14日(日) 14:30~15:15

第3会場

座長：浅井幸子・中西さやか

- | | | |
|----------|---|---|
| K-D-1-01 | 社会資源としての公的保育
～東洋英和の保育思想に学ぶ～ | 東洋英和女学院大学 ○ 山本 真実
東洋英和女学院大学 山下 久美
東洋英和女学院大学 塩崎 美穂 |
| K-D-1-02 | 1960年代のイタリア社会とレッジョ・エミリア
市立乳児保育所／幼児学校 その1 | お茶の水女子大学大学院 ○ 藤谷 未央
日本学術振興会 |
| K-D-1-03 | 1960年代のイタリア社会とレッジョ・エミリア
市立乳児保育所／幼児学校 その2 | お茶の水女子大学 ○ 小玉 亮子 |
| K-D-1-04 | 倉橋惣三の夏の講習 | 淑徳大学教育学部 ○ 吉田 昌弘 |
| K-D-1-05 | 倉橋惣三のキリスト教的児童観
ー「名画の子ども」を中心にー | 岐阜聖徳学園大学短期大学部 ○ 安部 日珠沙 |
| K-D-1-06 | 北海道における言語障害幼児支援の展開過程
ー北海道言語障害児教育研究協議会幼児問題
調査検討委員会に焦点をあててー | 日本大学 ○ 田中 謙 |

K-D-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）などⅣ

5月14日(日) 14:30~15:15

第4会場

座長：吉永早苗・小林佐知子

- | | | |
|----------|--|---|
| K-D-2-01 | 保育現場の音楽環境に関する研究
ピアノとピアノ以外の楽器による保育内容について | 名古屋女子大学 ○ 平澤 節子
短期大学部 |
| K-D-2-02 | 絵本から拓がる身体表現遊び
ー3・4・5歳児の表現の違いに着目してー | 茨城女子短期大学 ○ 国府田 はるか
茨城大学
茨城キリスト教大学 |
| K-D-2-03 | 自身の声を録音・再生して音あそびをする
乳幼児の縦断観察 | つくば国際短期大学 ○ 仲条 幸一
筑波大学大学院 |
| K-D-2-04 | 子どもの音楽表現を導く保育者の在り方(3) | 大阪青山大学 ○ 桐山 由香 |
| K-D-2-05 | 幼児のわらべうた遊びにみられる即興表現の様相 | 就実大学 ○ 小林 佐知子 |

K-D-3 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）などⅥ

5月14日(日) 14:30~15:15

第5会場

座長：松 寄 洋 子 ・ 小 磯 久 美 子

- | | | |
|----------|--|--|
| K-D-3-01 | 「保育内容環境指導法」の授業実践における事例検討 その2 | 横浜高等教育専門学校 ○ 小 林 祥 子 |
| K-D-3-02 | 幼児期にサステナビリティ・コンピテンシーを育む教材としての牛乳や卵の可能性 | 白百合女子大学 ○ 大 貫 麻 美
白百合女子大学 石 沢 順 子
東京学芸大学教職大学院 原 口 る み
白百合女子大学 椎 橋 げんき |
| K-D-3-03 | 数学絵本の意義に関する調査
ー教育学部生が読後に考えることー | 福 山 市 立 大 学 ○ 太 田 直 樹 |
| K-D-3-04 | ダンゴムシを題材とした自然科学との出会いにつながる遊びの実践とその可能性の検討 II
ー保育者による実践と事後のインタビュー調査を通してー | 東 京 農 業 大 学 ○ 森 元 真 理 |
| K-D-3-05 | SDGsの実感を目指した幼児・児童の科学体験活動の成果報告 | 中 村 学 園 大 学 ○ 新 井 し の ぶ
大分県立芸術文化短期大学 白 石 恵 里 |
| K-D-3-06 | 幼児期の発達における環境への関わりと理解につながる学生意識の考察
ー野外活動体験を通じて変容する環境への意識と行動の量的調査からー | 四天王寺大学短期大学部 ○ 梅 野 和 人
四 天 王 寺 大 学 小 磯 久 美 子 |

K-D-4 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）などⅠ

5月14日(日) 14:30~15:15

第6会場

座長：遠 藤 利 彦 ・ 高 橋 健 介

- | | | |
|----------|---|---|
| K-D-4-01 | 園児による動画記録から保育を振り返る：園児の自発的報告を記録するタブレット用アプリ実証実験 | 東京大学大学院教育学研究科 ○ 西 田 季 里
附属発達保育実践政策学センター
東京大学大学院教育学研究科 遠 藤 利 彦 |
| K-D-4-02 | 深い遊びにおける共通感覚のブリコラージュ
ー幼児が他者と共に体験を深める保育実践の事例からー | 滋 賀 大 学 ○ 山 本 一 成
社会福祉法人 宇治福祉園 杉 本 一 久 |
| K-D-4-03 | 「わたしってどんな人？（2）」
～自画像についての語り合いを通して自己を探究する子どもたち～ | あ か つ き 保 育 園 ○ 内 山 沙 知
あ か つ き 保 育 園 山 中 健 司
愛 知 淑 徳 大 学 白 石 淑 江 |
| K-D-4-04 | 保育実践における保育者の遊びへのかかわりに関する研究
ー保育者の教示的無関心という視点からー | 山 梨 大 学 ○ 大 野 歩
広 島 大 学 大 学 院 七 木 田 敦 |
| K-D-4-05 | 園行事の前後における幼児の身体性の変容 | お茶の水女子大学大学院 ○ 佐 々 木 実 紀 |

5月14日(日) 14:30~15:15

第7会場

座長：古賀松香・相浦雅子

K-D-5-01	保育における「美しさ」の探求 保育者養成校学生の視点から	小田原短期大学 ○ 今野佳代 通信教育サポートセンター(仙台)
K-D-5-02	保育者の「実践知」における暗黙的な側面を探る	大妻女子大学大学院生 ○ 星野優芽
K-D-5-03	保育者が子どもの心情を理解するプロセス ー TEM と NIRS による混合研究法よりー	宮城教育大学 ○ 香曾我部 琢 盛岡大学 藤田清澄 認定こども園 出雲崎こども園 松延 毅 千葉大学 駒久美子 福島大学 保木井 啓史 仙台白百合女子大学 津田綾子 千葉明德短期大学 郷家史芸 東京家政学院大学 中田 範子
K-D-5-04	こども家庭庁、保育所・認定こども園の 多機能化に対応した保育者養成	川崎医療福祉大学 ○ 橋本 勇人 川崎医療福祉大学 中川 智之 川崎医療福祉大学 森本 寛訓 川崎医療福祉大学 岡正 寛子 川崎医療福祉大学 松本 優作 川崎医療福祉大学 荻野 真知子 川崎医療福祉大学 橋本 彩子 川崎医療福祉大学 大江 由美 川崎医療福祉大学 種村 暁也
K-D-5-05	園生活における「循環」に関わる保育者の実践知	白梅学園大学 ○ 宮田 まり子 園庭研究所 石田 佳織
K-D-5-06	ライフヒストリー法による保育者志望学生の 予期的社会化過程の分析	上田女子短期大学 ○ 千葉 直紀 上田女子短期大学 酒井 真由子

K-D-6 保育専門職の養成などⅢ

5月14日(日) 14:30~15:15

第8会場

座長：磯部裕子・遠藤晶

K-D-6-01	学生は実習経験をどのように振り返るのか ー保育者養成短期大学の2年生への調査からー	近畿大学九州短期大学 ○ 原 口 喜 充 近畿大学九州短期大学 垂 見 直 樹 近畿大学九州短期大学 堀 田 亮
K-D-6-02	実習園と協働した写真活用による 計画立案の指導(2) ー検討過程の可視化に向けてー	東洋英和女学院大学 ○ 星 順 子 明石町保育園 落 合 美 穂 平塚保育園 上 田 理 恵 横内保育園 河 端 敬 法 平塚保育園 作 田 千 夏 東洋英和女学院大学 廣 部 朋 美
K-D-6-03	指導案作成指導に関する一考察 ー導入に着目してー	貞静学園短期大学 ○ 竹 田 恵
K-D-6-04	保育の質を高める実践① ー養成課程における保育学生の学びを分析するー	武庫川女子大学 ○ 久 米 裕 紀 子 武庫川女子大学 遠 藤 晶
K-D-6-05	「保育の魅力を醸成する保育実習」 ー相模原市における“保育者と実習生が 共に育つ実習”のアンケート調査からー	たいようこども園 ○ 山 下 博 認定こども園モモ 神尾 美香子 RISSHOU KID'S きらり 三 上 裕 里 枝 和泉保育園 片 山 知 子 相模女子大学 金 元 あ ゆ み

K-D-7 児童文化・児童文化財Ⅱ

5月14日(日) 14:30~15:15

第9会場

座長：相澤京子・渡邊由恵

K-D-7-01	「ぶんぶくちやがま」の変遷(3) ー1945年以降の絵本・紙芝居を中心にー	東京未来大学 ○ 佐々木 由美子 フェリシアこども短期大学 相 澤 京 子
K-D-7-02	中田喜直・小林純一の協働に関する研究(4)	こども教育宝仙大学 ○ 葛 西 健 治
K-D-7-03	幼児が繰り返し遊びを展開したくなる 保育教材の研究	帝京平成大学 ○ 三 島 秀 晃 帝京平成大学 松 田 聖 子
K-D-7-04	保育の場での子どもの絵本体験 ー没入・覚醒・遊びへの展開を引き起こす 絵本の構造ー	名古屋柳城女子大学 ○ 村 田 康 常 名古屋柳城短期大学附属柳城幼稚園 黒 岩 茉 由
K-D-7-05	「ぶんぶくちやがま」の変遷(2) ー1945年以降のお話集を中心にー	フェリシアこども短期大学 ○ 相 澤 京 子 東京未来大学 佐々木 由美子

5月14日(日) 14:30~15:15

第10会場

座長：山野良一・吉津晶子

- | | | |
|----------|--|------------------------------------|
| K-D-8-01 | 保育士の離職回避の視点からみた保護者支援 | 昭島ナオミ保育園 ○ 伊能恵子
秋草学園短期大学 地域保育学科 |
| K-D-8-02 | おさんぽプロジェクト【re- はじめのいっぽ】
を通した多世代交流の提案 | 熊本学園大学 ○ 吉津晶子 |
| K-D-8-03 | 音楽胎教及び新生児への音楽活動に対する
母親の関わりと生後4年の発達の効果 | 東京福祉大学短期大学部 ○ 本野洋子 |

ポスター発表 A

P-A-I 発達論・心身の発達

5月13日(土) 14:00~14:30

ポスター会場

座長：杉村伸一郎・倉盛美穂子

- | | | |
|----------|--|--|
| P-A-1-01 | 幼児の遊びの実態に関する要因と運動能力の関係 (2)
家庭での遊びの実態をもとに | 静岡県立大学短期大学部 ○ 及川直樹 |
| P-A-1-02 | 幼児のお金感覚の発達についての検討
ー保護者の金銭行動・金銭意識の影響を含めてー | 宇都宮共和大学 ○ 蟹江教子
相山学園大学 室雅子
宇都宮共和大学 今村麻子 |
| P-A-1-03 | 0歳児クラスの乳児の手が触れた対象物
ー物と移動に着目してー | 神戸大学大学院 ○ 青井郁美 |
| P-A-1-04 | 保育における乳幼児運動分析の視点 | 武庫川女子大学 ○ 崎山ゆかり
短期大学部 |
| P-A-1-05 | 幼児期における「非」認知能力の構造と発達の変化 | 愛知教育大学 ○ 鈴木裕子
愛知学泉大学 渡辺ユリナ |
| P-A-1-06 | 幼児の体力・運動能力のコロナ禍における現状と年次推移把握の試み
ー継続した測定と評価支援の取り組みによる実践報告ー | 愛知大学 ○ 村瀬智彦 |
| P-A-1-07 | コロナ禍における保育環境の変化が
幼児期の発達に及ぼす影響 (3)
ー感染拡大後の2年から3年に亘る縦断的検討ー | 印西ひかりこども園 ○ 押部直也
船橋情報ビジネス専門学校 生越雅志
十文字学園女子大学 関口はつ江 |
| P-A-1-08 | コロナ禍における保育環境の変化が
幼児期の発達に及ぼす影響 (4)
ー感染拡大時の年齢の違いに着目してー | 十文字学園女子大学名誉教授 ○ 関口はつ江
船橋情報ビジネス専門学校 生越雅志
印西ひかりこども園 押部直也 |
| P-A-1-09 | 音楽的発達の理論的検討
ーST model (1986) の再考ー | 東京学芸大学 ○ 水崎誠 |

P-A-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現） I

5月13日(土) 14:00～14:30

ポスター会場

座長：平田美紀・瀧信子

P-A-2-01	運動に対する意識と経験が運動遊びの内容選択に及ぼす影響	帝京大学 ○ 浪越 一喜 文京学院大学 青木 通 東海大学 石井 十郎
P-A-2-02	保育者が考える鬼ごっこで育つもの (3)	日本女子体育大学 ○ 桐川 敦子 日本女子体育大学 並木 真理子
P-A-2-03	創作鬼ごっこの実態と解釈	日本女子体育大学 ○ 並木 真理子 日本女子体育大学 桐川 敦子
P-A-2-04	子どもの走力を発揮するための種目への提言 ー力を出し切る達成感・充実感を得る指導と関わりー	守口東幼稚園まこと保育園 ○ 布施 仁
P-A-2-05	ダンス経験と身体表現活動との関連について ー保育者養成校の学生を対象にー	こども教育宝仙大学 ○ 塩野谷 祐子
P-A-2-06	幼児の母指 MP 関節過伸展と巧緻性の関係 ーはさみの操作技能の調査からー	静岡産業大学 ○ 佐藤 寛子 ふたばこども園 吉田 茂
P-A-2-07	同じ遊びをしている4歳児の協同的感覚	佐賀女子短期大学 ○ 池上 奈摘
P-A-2-08	5歳児の新聞紙遊びにおける 動作分類からみた運動遊びの手立て	福岡女学院大学 ○ 高原 和子 福岡こども短期大学 瀧 信子 福岡こども短期大学 矢野 咲子
P-A-2-09	保育者が感じる「運動遊び」とは	崇城大学 ○ 木戸 貴弘
P-A-2-10	幼児の足裏と重心動揺の関連性について	九州産業大学 ○ 田中 沙織
P-A-2-11	幼児初期の「身体活動に関わる 保育環境尺度」の作成 (4)	明治学院大学 ○ 松寄 洋子 白百合女子大学 石沢 順子 白百合女子大学 土橋 久美子

P-A-3 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）Ⅴ

5月13日(土) 14:00～14:30

ポスター会場

座長：今川 恭子・永渕 美香子

P-A-3-01	3歳児の表現の芽生え ー音の探索とイメージの結びつきー	名古屋柳城短期大学附属 ○ 北 野 明 子 三好丘聖マリーガレット幼稚園 名古屋柳城女子大学 三 輪 雅 美
P-A-3-02	保育における音楽について (デジタルとアナログの違い)	名古屋経済大学 ○ 秋 田 郁
P-A-3-03	楽器を用いた音楽表現における幼児の模倣 ー「まねっこゲーム」における模倣と楽器の 特性との関連ー	千葉大学大学院生 ○ 兜 森 千 可
P-A-3-04	イメージの世界と歌唱表現	日吉台光幼稚園 ○ 岩 本 邦 彦 東京家政大学 細 田 淳 子
P-A-3-05	音楽表現において必要なピアノ技術の 効果的指導方法の模索（3） ー読譜調査からの検討ー	愛知文教女子短期大学 ○ 玉 田 裕 人 愛知文教女子短期大学 国 藤 真 理 子 愛知文教女子短期大学 朴 賢 晶 愛知文教女子短期大学 岡 田 摩 紀
P-A-3-06	iPad を活用した音楽・身体表現遊びの実践研究 ー自然を題材としてー	秋草学園短期大学 ○ 塩 崎 み づ ほ 秋草学園短期大学 長 谷 川 恭 子
P-A-3-07	2歳児クラスの音楽活動における相互模倣の様相	千葉大学大学院生 ○ 齊 藤 美 羽 千葉大学教育学部 駒 久 美 子
P-A-3-08	音楽的な感性と表現する力を豊かに育む 援助のあり方 ー8年間の実践研究を通してー	淑 徳 大 学 ○ 當 銀 玲 子 淑 徳 大 学 槇 英 子
P-A-3-09	劇的視点による「音楽を生み出す遊び」の開発 ーマープリングを手掛かりとしてー	愛 知 教 育 大 学 ○ 麓 洋 介 名古屋学芸大学 水 谷 誠 孝 名古屋学芸大学 岡 田 暁 子
P-A-3-10	幼児の創造的な音楽表現を引き出す指導法	札幌国際大学短期大学部 ○ 伊 藤 桂 子
P-A-3-11	幼児の歌声の特徴	金 城 大 学 ○ 枝 村 美 夏 金 城 大 学 岡 部 智 子
P-A-3-12	保育における楽器の自由探索の意義と課題 ーアフォーダンスの視点からー	聖心女子大学大学院生 ○ 長 谷 川 春 香
P-A-3-13	保育の手遊びなどの遊び歌における即興性の表れ ーメロディ、リズム、テンポ、間、曲の長さ、 強弱の変化に注目してー	静岡県立大学短期大学部 ○ 山 本 学
P-A-3-14	共に歌う場面における文化的実践への参入過程： きょうだい、養育者 ー兄の歌い合いにみる共鳴と意図的調整の様相ー	東京藝術大学 ○ 市 川 恵 白梅学園短期大学 長 井 寛 子 共 栄 大 学 伊 原 小 百 合 聖 心 女 子 大 学 今 川 恭 子

5月13日(土) 14:00~14:30

ポスター会場

座長：大元千種・ニ子石諒太

P-A-4-01	幼児教育における音楽的遊びの有効性に関する調査研究7 ー保育現場における録音教材の有効性ー	九州産業大学 ○ 石川 ますみ 玄海ゆりの樹幼稚園 高杉 洋史 吉塚ゆりの樹幼稚園 高杉 美稚子
P-A-4-02	堀合文子の方法とフィンランドの幼児教育の共通点	東京福祉大学 ○ 望月 之美
P-A-4-03	活動間移行における援助方法について：米国の場合	北陸学院大学 ○ ポーター 倫子
P-A-4-04	中学校家庭科のふれあい体験時における年齢別危険状況	島根大学 ○ 伊藤 優
P-A-4-05	ー保育課題絵本の活用提案ー ー自然に関する絵本についてー	鶴坂福祉会 ○ 村崎 千津子 富山市立保育所 大村 純子 富山市立保育所 伊澤 路子
P-A-4-06	4歳児における新聞紙を用いた身体表現遊びの手立て	福岡こども短期大学 ○ 瀧 信子 福岡こども短期大学 矢野 咲子 福岡女学院大学 高原 和子
P-A-4-07	幼児期のものの捉え方に関する研究 ー視覚と触覚の関係に焦点を当ててー	大宮幼稚園 ○ 流田 絵美 兵庫教育大学 溝邊 和成 大阪市立味原小学校 岩本 哲也 大阪市立東桃谷小学校 坂田 紘子 大阪市立豊新小学校 平川 晃基
P-A-4-08	3歳児の「主体的」な保育参加の過程について ー実践記録の分析を通してー	別府大学短期大学部初等教育科 ○ 大元 千種
P-A-4-09	幼児期の遊び「加減」の行為が育てる身体知（実践知）の研究（6） ー「する加減」・「感じる加減」に注目して環境の在り方を考察ー	東京成徳短期大学 ○ 大澤 洋美 板橋富士見幼稚園幼児教育センター 鍋島 恵美 秋草学園短期大学 伊澤 永修 板橋富士見幼稚園 安見 克夫 認定こども園かもいようちえん 今井 恵子 東京成徳短期大学 福山 多江子
P-A-4-10	一人一人の幼児がどのように探求を深めていくのか ー遊びの深まりを捉えながらー	びわこ学院大学 ○ 中井 清津子 滋賀短期大学 菅 眞佐子
P-A-4-11	コロナ禍の中の子ども理解について	愛国学園保育専門学校 ○ 石井 久美子 愛国学園保育専門学校 船田 鈴子
P-A-4-12	子ども理解のための観察法の開発 ー ICER-R を活用してー	大阪教育大学 ○ 中橋 美穂
P-A-4-13	他児との相互行為における遊びの目的共有への援助に関する一考察 ー4歳児の「足場かけ」や「立ち上がり」場面の事例検討からー	長浜市立たかつき認定こども園 ○ 網島 大輔

5月13日(土) 14:00~14:30

ポスター会場

座長：西本望・那須信樹

P-A-5-01	コロナ禍が保育に及ぼす影響（第2報） ー保育者が捉えた子どもと保護者の変化に ついての3地域の比較ー	東京福祉大学 保育児童学部 ○岡野 雅子 東京福祉大学 保育児童学部 坂本 真理子
P-A-5-02	コロナ禍が保育に及ぼす影響（第1報） ー園の取り組みと工夫についての3地域の比較ー	東京福祉大学 保育児童学部 ○坂本 真理子 東京福祉大学 保育児童学部 岡野 雅子
P-A-5-03	子どもの視点から考える保育環境2	川村学園女子大学 ○菅井 洋子 淑徳大学短期大学部 藤川 志つ子
P-A-5-04	子どもの視点から考える保育環境1	淑徳大学短期大学部 ○藤川 志つ子 川村学園女子大学 菅井 洋子
P-A-5-05	子どもが語る保育環境の縦断的検討	常葉大学 ○甲賀 崇史
P-A-5-06	保育現場における音環境に関する一考察	中村学園大学大学院 ○柿本 愛子 中村学園大学 那須 信樹
P-A-5-07	子どもの好奇心・探求心の中となる 環境づくりとは ー科学遊びコーナーの設置ー	中村学園大学 ○山田 朋子 中村学園大学 新井 しのぶ
P-A-5-08	遊戯室に関する意識調査Ⅲ ー遊戯室使用についての検討の必要性ー	大徳学園 ○浅香 聡彦 北陸学院大学 高村 真希
P-A-5-09	子どもが育つ場をつくる	揖斐幼稚園 ○佐木 彩水 揖斐幼稚園 佐木 玲水
P-A-5-10	昆虫観察や飼育活動と保育者の環境保全の意識 ー保育者の語りと観察記録よりー	共立女子大学 ○新家 智子
P-A-5-11	インクルーシブな関わりが生まれる保育環境	富山国際大学 ○石倉 卓子 富山国際大学 河崎 美香
P-A-5-12	子どもと保育における凸凹の意味 ーゆらぎの保育学構築をめざしてー	白梅学園大学 ○村上 博文
P-A-5-13	幼児の主眼的な室内遊びを促す保育環境に関する研究 ー3歳児及び4歳児クラスの製作遊びにみる変 容の姿からの考察ー	川村学園女子大学 ○山下 佳香 日本女子体育大学 百瀬 ユカリ

5月13日(土) 14:00~14:30

ポスター会場

座長：内藤知美・仲本美央

P-A-6-01	保育における児童文化財の効用に関する考察5	国立音楽大学○八幡真由美
P-A-6-02	地域における絵本環境の実態調査Ⅱ ー全国の公民館等を対象とした質問紙調査からー	育英短期大学○小屋美香 つくば国際短期大学 三宅美千代 白梅学園大学 仲本美央 国立音楽大学 八幡真由美
P-A-6-03	絵本の研究(3)～ヨシタケシンスケの絵本をめぐる ー考察ー	東京福祉大学○戸次佳子
P-A-6-04	地域における絵本環境の実態調査Ⅰ ー全国の児童館等を対象とした質問紙調査からー	つくば国際短期大学○三宅美千代 育英短期大学 小屋美香 国立音楽大学 八幡真由美 白梅学園大学 仲本美央
P-A-6-05	地域文化遺産の利活用に向けた取り組み(3) ー「いちかわ かぞえうた」学生キャラバンの 教育効果を探るー	和洋女子大学○中村光絵 昭和学院短期大学 伊坪有紀子 昭和学院短期大学 宇杉美絵子 星美学園短期大学 藤原明子
P-A-6-06	倉橋惣三の幼年絵雑誌に求めた芸術性と 武井武雄の「童画」観	新潟県立大学○神谷睦代
P-A-6-07	雑誌『少女の花』における読者意識の形成に 関する研究	育英大学○田中卓也
P-A-6-08	保育実践における絵本の価値を問う	板橋区役所○遊佐永一 板橋区役所 西川美帆

5月13日(土) 14:00~14:30

ポスター会場

座長：西川由紀子・請川滋大

P-A-7-01	保育者養成校と保育現場の連携Ⅲ ー保育者をめざす学生と新卒保育士との交流会①ー	聖徳大学大学院博士 後期課程(通信教育課程) な ぜ の 木 会	○ 岸 久 美 子 関 口 由 季 子
P-A-7-02	保育者養成校と保育現場の連携Ⅲ ー保育者をめざす学生と新卒保育士との交流会②ー	な ぜ の 木 会 聖 徳 大 学 大 学 院 生	○ 関 口 由 季 子 岸 久 美 子
P-A-7-03	保育者養成校(短期大学)に在籍する女子学生 のコロナ禍における体温に対する意識とBMI、 朝食摂取および睡眠との関連性について	名古屋女子大学短期大学部 愛知文教女子短期大学 岡崎女子短期大学 修文大学短期大学部 桜花学園大学 修文大学短期大学部 愛知文教女子短期大学	○ 藤 巻 裕 昌 岡 田 摩 紀 渡 部 努 浅 川 正 堂 藤 田 公 和 加 藤 渡 星 野 秀 樹
P-A-7-04	初心者を対象としたリトミック伴奏の考案と実践	びわこ学院大学短期大学部	○ 竹 下 則 子
P-A-7-05	保育への情熱が保育者養成校に通う学生の精神的 健康及び保育の質に与える影響	江 戸 川 大 学	○ 蛭 原 正 貴
P-A-7-06	保育者養成校に求められる実践的な音楽表現に 関する研究(2) ー弾き歌いに関するアンケート調査を中心にー	園田学園女子大学 園田学園女子大学短期大学部	○ 中 野 圭 子 中 村 愛
P-A-7-07	保育者養成校に求められる実践的な音楽表現に 関する研究(1) ーピアノに関するアンケート調査を中心にー	園田学園女子大学短期大学部 園田学園女子大学	○ 中 村 愛 中 野 圭 子
P-A-7-08	保育者養成校での学びが虫に対する意識に 及ぼす影響Ⅱ	東洋英和女学院大学 奈良教育大学	○ 山 下 久 美 藤 崎 亜 由 子
P-A-7-09	保育者養成における学生の体験的な学び ー「ビオトープ祭り」の授業実践からー	植草学園短期大学 植草学園短期大学 植草学園大学	○ 松 原 敬 子 植 草 一 世 金 子 功 一
P-A-7-10	保育者養成における子どもの主体性を育む視点の獲得 ー森をフィールドとする自主保育への学びの分析からー	龍 谷 大 学 大 谷 大 学	○ 矢 野 永 吏 子 富 岡 量 秀
P-A-7-11	専攻と地域による大学生の養護性意識の検討(1)	東 京 家 政 大 学 東 京 家 政 大 学 東 京 家 政 大 学 東 京 家 政 大 学	○ 佐 藤 隆 弘 松 本 なるみ 高 畑 祐 子 岩 崎 美 智 子
P-A-7-12	専攻と地域による大学生の養護性意識の検討(2) ー地域とのつながりー	東 京 家 政 大 学 東 京 家 政 大 学 東 京 家 政 大 学 東 京 家 政 大 学	○ 松 本 なるみ 佐 藤 隆 弘 高 畑 祐 子 岩 崎 美 智 子
P-A-7-13	学生の子ども理解を深める実習記録への試み(2)	高崎健康福祉大学 高崎健康福祉大学 高崎健康福祉大学	○ 山 西 加 織 今 井 邦 枝 内 田 祥 子

5月13日(土) 14:00～14:30

ポスター会場

座長：末 寄 雅 美 ・ 渡 辺 俊 太 郎

P-A-8-01	保育者による保育内容の理解と評価Ⅳ ー 10 の姿を基にした保育の省察を通してー	立 正 大 学 ○ 高 橋 洋 行 東 京 家 政 大 学 鈴 木 彬 子 愛 隣 幼 稚 園 浅 井 広
P-A-8-02	教育実習指導者による保育者の資質について ー教育実習指導者のインタビュー分析からー	愛知文教女子短期大学 ○ 朴 賢 晶 愛知文教女子短期大学 国 藤 真 理 子 愛知文教女子短期大学 伊 藤 久 美 子 愛知文教女子短期大学 玉 田 裕 人 愛知文教女子短期大学 岡 田 摩 紀
P-A-8-03	継続的な乳児保育カンファレンスの 成果と課題 (2) ー保育士が感じた困難さの分析ー	福 山 市 立 大 学 ○ 上 山 瑠 津 子 広 島 文 教 大 学 牧 亮 太 広島県乳幼児教育支援センター 津 川 典 子 広島県乳幼児教育支援センター 古 和 友 子
P-A-8-04	保育実習における実習指導者としての 主任保育士の役割意識と課題	名 古 屋 短 期 大 学 ○ 寫 田 弘 子 椙 山 女 学 園 大 学 磯 村 正 樹 岡 崎 女 子 短 期 大 学 木 田 千 晶
P-A-8-05	3 歳未満児クラスの保育者間の連携・協働の実相 ー遊びにおける保育者が協働する行動の マルチモーダル分析よりー	神 戸 女 子 短 期 大 学 ○ 永 井 久 美 子 宮 城 教 育 大 学 香 曾 我 部 琢 大 阪 総 合 保 育 大 学 渡 辺 俊 太 郎
P-A-8-06	幼稚園・こども園での動物（生き物）飼育は 幼児の発達に何をもたらすのか ー保育者へのアンケート調査をもとにー	今 治 明 徳 短 期 大 学 ○ 寺 川 夫 央
P-A-8-07	表現活動におけるイメージの共有と課題Ⅲ ー保育者の専門性を考えるー	埼 玉 東 萌 短 期 大 学 ○ 金 子 亜 弥
P-A-8-08	絵本の読み聞かせにおける マイクロティーチングの効果Ⅰ	文 京 学 院 大 学 ○ 金 子 智 栄 子 鎌 倉 女 子 大 学 金 子 智 昭 植 草 学 園 短 期 大 学 植 草 一 世 植 草 学 園 大 学 金 子 功 一
P-A-8-09	幼稚園と保育園の保育に対する意識の変化 ー保育の連携と課題について (2) ー	東 京 家 政 大 学 ○ 稲 毛 瑞 月 東 京 家 政 大 学 岡 本 眸 東 京 家 政 大 学 本 村 真 弓 東 京 家 政 大 学 工 藤 佳 代 子 東 京 家 政 大 学 金 城 悟 科 東 京 家 政 大 学 堀 科
P-A-8-10	食育実践に影響する保育者の資質 ー幼稚園と保育所での違いー	相 愛 大 学 ○ 進 藤 容 子 び わ こ 学 院 大 学 中 井 清 津 子 大 阪 人 間 科 学 大 学 横 島 三 和 子 認定こども園湊川短期大 原 口 富 美 子 学附属北摂中央幼稚園
P-A-8-11	共主体による保育実践の可視化に向けた一考察 ー「論理的思考の発達に資する援助の水準」を援用してー	中 村 学 園 大 学 ○ 古 賀 萌 子
P-A-8-12	子ども理解に保育者の経験が及ぼす影響 ー幼児の心情理解の分析を手掛かりにー	武蔵野大学しあわせ研究所 ○ 石 田 由 紀 子 武蔵野大学しあわせ研究所 兼 間 和 美 武 蔵 野 大 学 小 川 房 子
P-A-8-13	発達障害児・気になる子どもに関わる 保育者の専門性の発達	富 山 大 学 ○ 小 林 真

5月13日(土) 14:00~14:30

ポスター会場

座長：岡 健・上村 眞生

P-A-9-01	伝統文化伝承者としての保育者養成に向けて	小田原短期大学 ○ 竹内 直美
P-A-9-02	保育内容領域に求められる授業内容について ー卒業生へのアンケート調査からー	徳島文理大学短期大学部 ○ 児嶋 輝美 徳島文理大学短期大学部 石井 信子 徳島文理大学短期大学部 下内 新吾 徳島文理大学短期大学部 船本 孝子 徳島文理大学短期大学部 森 万里子 徳島文理大学 金子 紗枝子 徳島文理大学 古本 奈奈代
P-A-9-03	保育者養成課程において園舎建築を学ぶ ー「保育実践演習」授業構築の歩みー	京都光華女子大学 ○ 下口 美帆 京都光華女子大学 和田 幸子 京都光華女子大学 山崎 玲奈
P-A-9-04	弾き歌いの予習・復習を行うためのデジタル教具の提供 ー保育者養成課程に在籍する学生における使用 状況の分析ー	岡崎女子短期大学(非) ○ 藤原 一子 岡崎女子短期大学 平尾 憲嗣 岡崎女子短期大学 滝沢 ほだか
P-A-9-05	保育者養成校の学生の保育教材に関する 指導の実践と課題	埼玉東萌短期大学 ○ 奥 恵
P-A-9-06	コロナ禍における保育の学びを深める授業形態の検討(1) ー授業形態に対する学生の主観的な意識についてー	育英短期大学 ○ 大屋 陽祐 育英大学 望月 文代
P-A-9-07	コロナ禍における保育の学びを深める授業形態の検討(2) ー教育・保育実習前後の授業運営に焦点を当ててー	育英大学 ○ 望月 文代 育英短期大学 大屋 陽祐
P-A-9-08	保育士養成課程におけるプロセスレコードを 用いた乳幼児理解の学習実践	岐阜女子大学大学院 ○ 西口 裕久子 岐阜女子大学 佐々木 恵理
P-A-9-09	地域活動につなげる保育士養成の取り組み ー家政福祉の学びを基盤としてー	和洋女子大学 ○ 弓削田 綾乃 和洋女子大学 大沼 良子 和洋女子大学 丸谷 充子 和洋女子大学 佐藤 有香 和洋女子大学 庄司 妃佐 和洋女子大学 二宮 祐子 和洋女子大学 池谷 真梨子 和洋女子大学 飯村 愛
P-A-9-10	新任乳児保育担当保育士は何を学んでおきたかったか ー保育士養成校における「乳児保育」の学びに関する一考察ー	名古屋文化学園保育専門学校 ○ 川合 真由美
P-A-9-11	ヘッドアレンジによる生成過程での音楽表現力の広がり ー幼児のアンサンブル曲作成での学生の気づきからー	大阪千代田短期大学 ○ 寄 ゆかり
P-A-9-12	保育実習(施設)における実習指導者から実習 生に対して実施する「反省会」のあり方に関する 現状と課題	岐阜聖徳学園大学短期大学部 ○ 藤田 哲也 中部学院大学短期大学部 村田 泰弘
P-A-9-13	保育者養成校におけるピアノ学習初心者への指 導に関する一考察(2)	大阪大谷大学 ○ 峯 恭子 釧路工業高等専門学校 土江田 織枝

5月13日(土) 14:00~14:30

ポスター会場

座長：三宅茂夫・鬢櫛久美子

P-A-10-01	学修に関する大学生の意識について	フェリシアこども短期大学 ○ 橋 元 知 子 フェリシアこども短期大学 中 村 麻 衣 子
P-A-10-02	大学生活に困り感を持つ学生の 被援助志向性に関する研究 ー発達障害傾向との関連に着目してー	フェリシアこども短期大学 ○ 中 村 麻 衣 子 武 蔵 野 大 学 松 田 こ ず え
P-A-10-03	保育者養成課程における職業意識定着と 動機づけのための教育方法の開発	神 戸 常 盤 大 学 ○ 大 城 亜 水 日ノ本姫路短期大学 川 島 直 子 頌 栄 短 期 大 学 渡 邊 恵 梨 佳
P-A-10-04	保育養成校の現状 ー多様な学生への支援ー	松 山 東 雲 短 期 大 学 ○ 岡 田 恵 松 山 東 雲 短 期 大 学 加 納 章 松 山 東 雲 短 期 大 学 中 塚 良 子
P-A-10-05	保育専攻学生における職業意識の実態	神 戸 女 子 短 期 大 学 ○ 川 村 高 弘
P-A-10-06	アメリカ保育者養成カリキュラムの現状と課題	西 南 学 院 大 学 ○ 門 田 理 世
P-A-10-07	相互主体的な保育の創生を指向する養成教育試論	宮 城 教 育 大 学 ○ 木 下 和 彦 淑 徳 大 学 桃 枝 智 子 淑 徳 大 学 槇 英 子
P-A-10-08	「成長し続ける保育者」を養成するプログラム（7） ー子ども学から自分のライフサイクルを展望するー	名古屋柳城女子大学 ○ 野 田 さ と み 名古屋柳城女子大学 鬢 櫛 久 美 子
P-A-10-09	保育者養成校における就職活動への ストレスに関する一考察	愛 知 学 泉 短 期 大 学 ○ 伊 藤 照 美
P-A-10-10	保育者養成大学学生の性格特性に関する一考察	新 見 公 立 大 学 ○ 加 藤 由 美
P-A-10-11	実習オリエンテーションにおける実習生と 保育現場との対話を促すシートの開発	沖 縄 女 子 短 期 大 学 ○ 廣 瀬 真 喜 子 沖 縄 女 子 短 期 大 学 羽 地 知 香 沖 縄 女 子 短 期 大 学 平 田 美 紀

5月13日(土) 14:00～14:30

ポスター会場

座長：河 邊 貴 子 ・ 白 川 佳 子

P-A-11-01	保育者養成における子育て支援を実践的に学ぶ 授業モデルの再検討	岡 山 県 立 大 学 ○ 新 山 順 子 岡 山 県 立 大 学 平 田 由 季 子
P-A-11-02	大学内子育て支援室に学生がかかわることの意味 ー利用者インタビューを通してー	聖 心 女 子 大 学 ○ 牧 野 順 子 聖 心 女 子 大 学 河 邊 貴 子 聖 心 女 子 大 学 高 嶋 景 子 聖 心 女 子 大 学 矢 尾 千 比 呂
P-A-11-03	地域子育て支援の現状と課題 ー保育学生の活動参加からの検討ー	東 海 学 園 大 学 ○ 木 本 有 香
P-A-11-04	子育ての実体験を聞くという経験が保育士養成校 の学生の子育て意識に及ぼす影響の検討 ー子育て世代と大学生との交流からー	玉 川 大 学 ○ 上 田 よ う 子
P-A-11-05	おやじの会が「父親」以外にもたらず可能性の検討 ーおやじの会における ESD ー	中 国 短 期 大 学 ○ 清 水 憲 志
P-A-11-06	幼児向け交通安全教材の作成と活用 ーアクティブラーニングを通じた地域連携ー	豊橋創造大学短期大学部 ○ 葛 谷 潔 昭 豊橋創造大学短期大学部 佐 野 真 一 郎
P-A-11-07	全国自治体における父親支援の取り組み ー母子保健部局と子育て支援部局の調査よりー	大 阪 教 育 大 学 ○ 小 崎 恭 弘
P-A-11-08	コロナ禍における大学発「地域子育て支援」の 果たす役割Ⅲ ーコロナ禍3年間の子育て支援力養成の成果ー	東 京 家 政 学 院 大 学 ○ 柳 瀬 洋 美 共 立 女 子 大 学 小 原 敏 郎 共 立 女 子 大 学 白 川 佳 子 東 京 家 政 学 院 大 学 吉 永 早 苗
P-A-11-09	年長児を対象とした保育園における 歯科検診前後の歯の健康教育に関する研究 ー歯医者さんは怖くないよー	帝 京 大 学 ○ 内 山 由 美 子
P-A-11-10	乳幼児の偏食と家庭環境及び保護者の食意識 ー認定こども園の保護者を対象とした意識調査の分析ー	昭和女子大学 大学院 ○ 富 川 佐 和 子 昭 和 女 子 大 学 石 井 正 子
P-A-11-11	地域資源を活かした自然と環境を活かした 保育実践に関する一考察 ～沢登りを経験した保護者と子どもに関する 保育者の意識調査～	大阪健康福祉短期大学 ○ 舟 越 美 幸
P-A-11-12	就学前施設における外国人保護者への 子育て支援について	認定こども園ひかり幼稚園 ○ 湊 岡 大 起 東 洋 大 学 南 野 奈 津 子

ポスター発表 B

P-B-I 保育思想・保育理論・保育史I

5月13日(土) 15:30~16:00

ポスター会場

座長：豊田和子・福元真由美

- | | | |
|----------|---|--|
| P-B-1-01 | 昭和初期の保育者養成機関における教育内容と生徒の力量形成過程に関する歴史的研究 (2) | 名古屋柳城女子大学 ○ 青山 佳代
名古屋柳城女子大学 豊田 和子
名古屋柳城女子大学 片山 伸子
名古屋柳城女子大学 山本 聡子
名古屋女子大学 村田 あゆみ |
| P-B-1-02 | 昭和 20 年における名古屋市立保育園の諸相 | 名古屋市立大学 ○ 羽根 由美子 |
| P-B-1-03 | 大正期の幼児教育と口演童話に関する一考察 | 東海大学 ○ 北川(桑原) 公美子 |
| P-B-1-04 | 京都における明治初期の保育施設の開設とその背景についての考察 | 花園大学 ○ 長谷 範子 |
| P-B-1-05 | 明治期における保育ピアノ教育の実際 (1)
ー『ウルバヒ氏ピアノ教則本』を中心にー | 常磐短期大学 ○ 鈴木 範之
聖学院大学 阪 まどか
常磐短期大学 宮崎 真利子
お茶の水女子大学 深澤 南土実 |
| P-B-1-06 | 明治期における保育ピアノ教育の実際 (2)
ー『幼稚園唱歌』に見る唱歌ピアノ伴奏の変容についてー | 聖学院大学 ○ 阪 まどか
常磐短期大学 鈴木 範之
常磐短期大学 宮崎 真利子
お茶の水女子大学 深澤 南土実 |

P-B-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）Ⅱ

5月13日(土) 15:30～16:00

ポスター会場

座長：小谷卓也・植草一世

P-B-2-01	幼児期の飼育体験が子どもの人間関係に与える影響に関する研究 －「むしのおはか」を事例として－	聖カタリナ大学 ○ 谷 口 聖 短期大学部 保育学科 鎌倉女子大学 浅井 拓久也 児童学部 児童学科
P-B-2-02	4歳児が人とのつながりの中で用いる音楽的コミュニケーション	京都教育大学 ○ 黒瀬 悠巴 京都教育大学 平井 恭子
P-B-2-03	子ども同士が思いを伝えあっていくための保育者の関り ーコロナ禍の子どもたちの遊びの姿からー	葛飾こどもの園幼稚園 ○ 加藤 美世子 葛飾こどもの園幼稚園 小 出 馨 葛飾こどもの園幼稚園 山 崎 優 千葉経済大学短期大学部 浅川 蘭子
P-B-2-04	子どもどうしの関わりにおける保育者の援助Ⅱ	植草学園短期大学 ○ 園 川 緑 植草学園短期大学 植草 一世 植草学園大学 金子 功一
P-B-2-05	幼稚園入園後2年間にみる幼児の交渉の高度化とその効果と利益：「高度な交渉を示す幼児」に着目して	東京大学・日本学術 ○ 松原 未季 振興会特別研究員PD
P-B-2-06	対話する労作 －2022年育英幼稚園の記録－	育英幼稚園 ○ 河村 圭
P-B-2-07	持続可能性のための教育とその関連分野に関する概念理解の実態について	大阪大谷大学 ○ 井上 美智子
P-B-2-08	フレーベルの「予感」概念に基づいた子育て環境の検討 －「母の歌と愛撫の歌」を中心に－	○ 信田 るい
P-B-2-09	子どもの育ちと領域「言葉」について －他者とつながり共有する会話の事例から－	群馬医療福祉大学 ○ 吉澤 幸

P-B-3 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）Ⅵ

5月13日(土) 15:30～16:00

ポスター会場

座長：仲 嶺 ま り 子 ・ 西 洋 子

- | | | |
|----------|---|--|
| P-B-3-01 | 子どもが音をつくる
ーダンボールカホン製作を中心にー | 名古屋学院大学 ○ 横 井 志 保 |
| P-B-3-02 | 乳児クラス(0,1,2歳)と幼児クラス(3,4,5歳)
の造形における非認知的能力の比較
ー保育案を分析してー | 和 歌 山 大 学 ○ 丁 子 か お る |
| P-B-3-03 | 日本画材を用いた保育実践④
ー園庭の土から絵の具を作る年少児の実践ー | 常葉大学短期大学部 ○ 木 下 藍 |
| P-B-3-04 | 感触を楽しむ造形活動に関する実践的研究Ⅱ
ー土粘土の素材体験からみられる子どもの姿ー | 日 本 福 祉 大 学 ○ 江 村 和 彦
至 学 館 大 学 西 村 志 磨 |
| P-B-3-05 | 子どものカラー粘土に関する立体造形の取り組み | 大阪樟蔭女子大学 ○ 安 部 永
福 山 平 成 大 学 佐 伯 岳 春 |
| P-B-3-06 | 多様な作品が生まれる造形表現活動の
「きっかけ」の工夫について
ー子どもが試行錯誤したくなるものづくりについて
考えるー | 名古屋女子大学短期大学部 ○ 山 本 麻 美 |
| P-B-3-07 | コロナ禍を経て次世代育成に求められる
造形活動の実践と課題 | 東 京 家 政 大 学 ○ 保 坂 遊 |
| P-B-3-08 | 芸術士®の実践における光を使った
遊びに関する一考察Ⅱ
ー 暗闇アートの実践事例から ー | 香 川 大 学 ○ 吉 川 暢 子 |
| P-B-3-09 | 保育系学生の美術展鑑賞に関する意識
ー美術展鑑賞に関するアンケート調査を基にー | 中 村 学 園 大 学 ○ 倉 原 弘 子 |
| P-B-3-10 | 保育者養成のための造形表現教育の実践
ーフィンガーペイントから構成へー | 越原学園名古屋女子 ○ 松 田 ほ な み
大 学 短 期 大 学 部 |

5月13日(土) 15:30~16:00

ポスター会場

座長：箕輪潤子・松本和美

P-B-4-01	カプラでの遊びにおいて発揮される 非認知能力をいかに評価するか	実践女子大学 ○ 井口 眞美
P-B-4-02	実習に活かす言語表現教材 ーいらないいらないばあの魅力ー	帝京平成大学 ○ 松田 聖子 鶴見大学短期大学部 松本 和美
P-B-4-03	保育現場の ICT 化におけるメリットとデメリット ー ICT 化による保育現場の負担についてー	星槎大学大学院教育実践研究科 ○ 松山 綾子 星槎大学大学院教育実践研究科 若月 麗美
P-B-4-04	SGDs 産学連携 廃材を利用した 保育教材の試み	中村学園大学 ○ 田中 るみこ
P-B-4-05	読み聞かせにおける ICT 活用の有用性	鈴鹿大学短期大学部 ○ みやざき 美栄 鈴鹿大学短期大学部 田中 裕子
P-B-4-06	米粉粘土の可能性を探るⅢ ー子育て支援の場における遊び環境の検討からー	甲南女子大学 ○ 幸田 瑞穂
P-B-4-07	英語学習玩具の評価に関する一考察	三条市立大学 ○ 伴 浩美
P-B-4-08	パネルシアター用携帯型イーゼルの教材研究 ー身近な材料を用いた製作方法の提案ー	岡崎女子短期大学 ○ 本田 郁子
P-B-4-09	幼児保育現場における人型ロボット Pepper の 活用に関する一考察	埼玉東萌短期大学 ○ 渡 邊 裕
P-B-4-10	幼児の生活と情報活動～幼児の遊びを 豊かにする ICT 活用の試み③ー	京都教育大学附属幼稚園 ○ 高野 史朗 京都教育大学附属幼稚園 北山 千嘉子 京都教育大学附属幼稚園 樫山 ゆかり
P-B-4-11	今だからこそ絵本 (2) ー絵本の良さを啓蒙する方法を探るー	昭徳会 ○ 村松 裕平

P-B-5 障害児保育などI

5月13日(土) 15:30~16:00

ポスター会場

座長：橋本 勇人・勝浦 眞仁

P-B-5-01	重症心身障害児を含む集団のインクルーシブ 保育技術に関する研究 ー子ども同士の関わり合いを促す重点項目の抽出ー	桜花学園大学 ○ 小柳 津和博 インクルーシブおおぞら園 野々山 貴
P-B-5-02	インクルーシブな保育の創出過程に関する縦断的研究① ー対象児の入園から1学期間の保育者の子ども理解と実践ー	国立特別支援教育総合研究所 ○ 吉川 和幸 ほしおきガーデン星の子幼稚園 上村 毅
P-B-5-03	インクルーシブ保育クラスづくりの促進要因	大阪成蹊大学 ○ 高尾 淳子
P-B-5-04	インクルーシブ保育における保育の計画の考察	浜松学院大学 ○ 那須 とよみ 名古屋市立大学 酒井 教子
P-B-5-05	インクルーシブ保育のための保育者養成カリキュラムの検討 ー韓国の事例よりー	日本福祉大学 ○ 工藤 英美 愛知みずほ短期大学 金 仙玉
P-B-5-06	保育士はインクルーシブ保育のどこに難しさを感じているのか ー統合保育との比較を通してー	桜花学園大学大学院 ○ 岡田 美笛 桜花学園大学 勝浦 眞仁
P-B-5-07	要支援児とグレーゾーン児がいるクラス運営 ーインクルーシブ保育の実践を目指してー	○ 若月 麗美 星槎大学大学院 松山 綾子
P-B-5-08	医療的ケア児を受け入れている施設の現状と課題1	名古屋芸術大学 ○ 小田 良枝 名古屋柳城女子大学 豊田 和子
P-B-5-09	インクルーシブな保育実践における ICF-CY の活用 ⑬	文京学院大学 ○ 茂井 万里絵 東京家政大学短期大学部 石川 昌紀
P-B-5-10	特別な配慮を必要とする子どもがクラスの中で育ちあう姿を捉える保育者の視点	関西福祉科学大学 ○ 太田 顕子 共立女子大学 広瀬 由紀 兵庫大学短期大学部 三宅 美由紀
P-B-5-11	視覚障害児を受け入れるための保育環境を考える ー当該児の保護者と盲学校教員への聞き取り調査からー	金城大学 ○ 岡部 智子 金城大学 枝村 美夏

P-B-6 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅱ

5月13日(土) 15:30~16:00

ポスター会場

座長：小林 真・笠原 正洋

P-B-6-01	新任保育者における、保育者の専門性獲得のための基盤形成について1	京 都 文 教 大 学 ○ 柴 田 長 生
P-B-6-02	生き物に触れる若手保育者の成長	幼保連携型認定こども園津田このみ学園 千 里 金 蘭 大 学 ○ 三 輪 由 香 里 中 重 直 俊
P-B-6-03	新人保育士が捉える保護者支援の構えと実際(2)ー保護者面談に着目してー	東京家政大学 かせい森のおうち ○ 片 口 桂 千 葉 明 徳 短 期 大 学 井 上 裕 美 子
P-B-6-04	初任保育者の専門的成長に関する一考察	名古屋女子大学短期大学部 ○ 前 田 舞 子 愛 知 淑 徳 大 学 馬 場 み さ き
P-B-6-05	保育者のライフストーリーにみる保育観と保育実践の変化についてー遊びを中心とする保育への転換をめぐるー	玉 川 大 学 ○ 田 甫 綾 野
P-B-6-06	保育者の資質向上の視点ー実践を通しての学びー	華 頂 短 期 大 学 ○ 鈴 木 え り 子
P-B-6-07	わが国における保育者の倫理的ジレンマとその特徴ーアメリカにおける保育者の倫理的ジレンマとの比較からー	十文字学園女子大学 ○ 亀 崎 美 沙 子 武 庫 川 女 子 大 学 鶴 宏 史
P-B-6-08	保育者の成長契機の研究：e-ポートフォリオの活用	フ リ ー ラ ン ス ○ 相 馬 靖 明
P-B-6-09	「中堅」という立場がもたらす保育者の葛藤と自己認識の変容	名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科 ○ 棚 橋 裕 子
P-B-6-10	保育士のキャリア選択に関する研究ー養成校教員経験者へのインタビューをもとにー	帝 京 大 学 ○ 佐々木 沙和子
P-B-6-11	保育職の「やりがい」を育成する職場環境についての考察	松 蔭 大 学 ○ 深 谷 野 亜 育 英 幼 稚 園 河 村 真 理 子 東 京 家 政 大 学 金 城 悟 羽田幼児教育専門学校 齋 藤 恵 子 育 英 幼 稚 園 河 村 圭 相 模 女 子 大 学 岡 本 弘 子 日 本 文 理 大 学 古 野 愛 子 東京学芸大学大学院 大 槻 育 子
P-B-6-12	保育士のストレスとコミュニケーションに関するオンライン研修プログラムの開発について	帝 京 短 期 大 学 ○ 白 取 真 実 おたかの空保育園 佐 藤 志 図 帝 京 短 期 大 学 五 十 嵐 元 子
P-B-6-13	保育者の仕事の価値づけスコープの測定の試み	中村学園大学教育学大学院 ○ 中 島 美 穂 中 村 学 園 大 学 笠 原 正 洋
P-B-6-14	保育士の職務内容満足感と主任保育士のサポート意識に関する研究	邑楽町立南保育園 ○ 新 井 純 一 東 京 福 祉 大 学 戸 次 佳 子

5月13日(土) 15:30~16:00

ポスター会場

座長：上垣内伸子・川端美穂

P-B-7-01	「子どもの権利」を意識した保育実践 ～4年間の園内研修から見えた課題～	東京福祉大学 ○ 中嶋 一郎 幼保連携型認定こども園 むくどりこども園 舟山 千佳
P-B-7-02	「子どもの声」から保育を創り出す ～ひと・もの・空間の視点から～	山梨大学教育学部附属幼稚園 ○ 野田 多佳子 山梨大学教育学部附属幼稚園 荻原 ひろみ
P-B-7-03	子ども中心の保育を考える ～子どもと保育者の関係性に関する検討～	東京福祉大学 ○ 太田 節子 元幼稚園教諭 田中 三保子 町田南保育園 井上 利恵子 十文字学園女子大学名誉教授 関口 はつ江
P-B-7-04	子どもの「みて、かんがえて、やってみる」姿 を実現する保育のコツの検証 ～理論から保育実践へ～	氷見市阿尾保育園 ○ 出戸 美智代 山梨県立大学 阿部 美穂子
P-B-7-05	子どもの権利保障としての子どもの保育参画の 在り方についての一考察	桜美林大学 ○ 爾 寛 明 新宿せいが子ども園 藤森 平司 新宿せいが子ども園 森口 達也
P-B-7-06	子どもとの関係構築プロセスの可視化による 保育者の意識変容とは (3) ～幼児と乳児の関係構築の差異と保育者を取り 巻く外的環境に着目して～	桜花学園大学 ○ 上 村 晶
P-B-7-07	子どもの「みて、かんがえて、やってみる」姿 を実現する保育のコツの探求 ～実践から理論構築へ～	山梨県立大学 ○ 阿部 美穂子 氷見市阿尾保育園 出戸 美智代
P-B-7-08	マスク着用保育への困難意識と改善への取り組み ～子どもからの発信への着目に関連して～	東京福祉大学短期大学部 ○ 荒木 由紀子
P-B-7-09	障害のある保育者 ～フランスの事例から～	奈良県立大学/Université ○ 木下 裕美子 Jean Moulin Lyon III
P-B-7-10	イタリア・ピストイア市の0～2歳児の 教育から日本の保育を再考する (5) ～保育者自身の保育観の問い直し～	十文字学園女子大学 ○ 向井 美穂 十文字学園女子大学 上垣内 伸子 元十文字学園女子大学 星 三和子
P-B-7-11	ニュージーランドの保育アセスメント「学びの 物語」は日本の保育でいかに活用しうるか ～子ども主体の保育に変えたある園の取り組み～	札幌国際大学 ○ 木村 彰子 北海道教育大学 川端 美穂 高知大学 玉瀬 友美 奈良女子大学 二井 仁美 佛教大学 中西 さやか
P-B-7-12	大学地域貢献としての造形ワークショップ参加 による学びについて ～西田幾多郎「場所の論理」の理解から	倉敷市立短期大学保育学科 ○ 金山 和彦
P-B-7-13	『親を加害者にしない』支援のヒント集」の 創出プロセスと内容の分析 ～マルトリートメント防止の多職種プロジェクトから～	日本女子大学 ○ 吉澤 一弥

P-B-8 保育専門職の養成Ⅱ

5月13日(土) 15:30~16:00

ポスター会場

座長：新井美保子・森田健宏

P-B-8-01	コロナ禍を経た保育者養成課程における ボランティア活動の展開 ー対面・非対面の手法を組み合わせた地域貢献ー	小田原短期大学 ○ 内山 絵美子 小田原短期大学 武山 美子 小田原短期大学 山本 華子
P-B-8-02	2年間の養成課程における、学生自身の 課題認識を意識した実習指導の在り方	○ 石見 容子 山下 晶子
P-B-8-03	保育者養成校と保育現場の学び合い ーオンラインを通してつながる授業ー	埼玉純真短期大学 ○ 上原 典子 埼玉純真短期大学 花島 慶子 埼玉純真短期大学 三友 怜子
P-B-8-04	運動遊びを通して子どもにめばえる道徳性について ー実習から学生は何を学んだかー	愛国学園保育専門学校 ○ 森川 みゆき
P-B-8-05	施設実習での学生の学びの分析 ー児童福祉施設と成人を対象とした施設との違いー	東京未来大学 ○ 浅井 かおり 東京未来大学 北濱 千枝子
P-B-8-06	保育者養成短期大学生における認知的個性を 踏まえた実習に対する予想の特徴	京都教育大学 ○ 田爪 宏二 関西外国語大学 森田 健宏 沖縄女子短期大学 廣瀬 真喜子
P-B-8-07	保育実習（施設）における実習プログラムに 関する研究Ⅰ	こども教育宝仙大学 ○ 松倉 佳子 白鷗大学 佐藤 ちひろ
P-B-8-08	教育実習（幼稚園）における学びの深化が 期待される実習環境 ー知的安全性とバウンダリーの視点からー	長野県立大学 ○ 渡邊 望 関西学院 聖和短期大学 小山 顕
P-B-8-09	実習生への人的サポートが保育実習における リアリティ・ショックに与える効果	京都女子大学 ○ 古池 若葉
P-B-8-10	幼稚園教育実習プログラムに関する研究（Ⅰ） ー連続4週間と3週間実習の比較からー	修文大学短期大学部 ○ 濱口 実紗希 愛知教育大学 新井 美保子
P-B-8-11	幼稚園実習前後における学生の子どもの遊びに 関する捉え方の変化 ーテキストマイニングによる分析結果よりー	園田学園女子大学短期大学部 ○ 服巻 真須美 園田学園女子大学短期大学部 久保田 智裕 園田学園女子大学短期大学部 中見 仁美

5月13日(土) 15:30~16:00

ポスター会場

座長：高橋弥生・太田光洋

P-B-9-01	運動遊び支援の場面理解 ー保育者養成における観察記録の考察ー	香川大学 ○ 藤元 恭子
P-B-9-02	保育実習生受け入れの困難感	亀戸第四保育園 ○ 山崎 撰史 日出学園幼稚園 中山 晴美 昭和女子大学附属昭和こども園 漆原 勇介
P-B-9-03	離職保育者の復職に至る要因の検討 ー復職保育者への質問紙調査に基づいてー	中部学院大学短期大学部 ○ 杉山 祐子 中部学院大学 植松 勝子 修文大学短期大学部 友永 良子 鈴鹿大学短期大学部 南谷 悠子
P-B-9-04	保育者の省察力向上に果たす 360度カメラを用いた記録の可能性	川崎医療福祉大学 ○ 中川 智之 川崎医療福祉大学 種村 暁也 川崎医療福祉大学 大江 由美
P-B-9-05	熟達保育者の幼児に対する 言葉かけ技法に関する実証的研究	創価大学 ○ 戸田 大樹 東京家政大学 佐久間 良恵 創価大学 前川 洋子
P-B-9-06	熟達保育者の経験知を活用した 保育者育成教材の検討	松山東雲女子大学 ○ 岡部 祐子
P-B-9-07	コロナ禍による生活環境の変化が 子育てや子育ての不安に与える影響	長野県立大学 ○ 加藤 孝士 長野県立大学 太田 光洋 長野県立大学 中山 智哉 長野県立大学 渡邊 望子 福島大学 原野 明子 四国大学 姫田 知子
P-B-9-08	幼稚園教育実習の到達目標の達成をめざした 実習記録の様式の変更と学生の学び (2)	相愛大学 ○ 曲田 映世 びわこ学院大学 相愛大学 中井 清津子
P-B-9-09	保育者養成における実習日誌に関する考察Ⅲ ー保育現場での日誌を通した指導の視点ー	精華女子短期大学 ○ 古林 ゆり 熊本学園大学 上原 真幸 西南女学院大学短期大学部 末寄 雅美 西南女学院大学短期大学部 阿南 寿美子 久留米大学 大谷 朝明 長崎大学 脇 信明 周南公立大学 金子 幸太 熊本学園大学 二子 石諒 活水女子大学 島田 知和 南九州大学 藤本 朋美
P-B-9-10	保育士養成における学生の 実習日誌を通した学びの内容分析 その1	東洋英和女学院大学 ○ 金森 三枝 相模女子大学 大和田 明見
P-B-9-11	実習日誌の記述にみる 教育実習における実践知	こども教育宝仙大学 ○ 須永 美紀 玉川大学 田甫 綾野
P-B-9-12	保育士養成における学生の 実習日誌を通した学びの内容分析 その2	相模女子大学 ○ 大和田 明見 東洋英和女学院大学 金森 三枝
P-B-9-13	模擬保育から得た学びと 幼稚園教育実習から得た学びの関連性 (2)	洗足こども短期大学 ○ 伊藤 路香 星美学園短期大学 大井 美緒

5月13日(土) 15:30~16:00

ポスター会場

座長：秦野悦子・瀬戸淳子

P-B-10-01	認定こども園における ラーニング・ストーリーの活用と効果 その3：家庭とともに紡ぐ学びの物語	流通経済大学 ○ 佐藤 純子 はぐはぐキッズこども園東上野 富田 ちひろ はぐはぐキッズこども園東上野 川村 啓子 はぐはぐキッズこども園東上野 鈴木 あゆみ
P-B-10-02	連絡帳を介した保護者の悩みと 保育者間の話し合いの場に関する研究Ⅱ	東京都立大学大学院生 ○ 須永 真理
P-B-10-03	保護者との新しいかたちでの連携の試み	社会福祉法人檸檬会 ○ 花原 真理子
P-B-10-04	「見える子ども」に関する 保護者に対する啓発的情報提供	筑波大学 ○ 徳田 克己 筑波大学 水野 智美
P-B-10-05	「子育て支援」における模擬養育者と 保育者役学生との対話実習の効果	中村学園大学 ○ 笠原 正洋
P-B-10-06	未就学児をもつ母親と園との 関わりから捉える自己受容プロセス	東京家政大学 ○ 小島 好美
P-B-10-07	支援が必要な子どもの保護者がとらえた園生活 (4)	白百合女子大学 ○ 秦野 悦子 帝京平成大学 瀬戸 淳子
P-B-10-08	中国の幼稚園における子育ての支援 ー「幼稚園教育指導綱要」よりー	大阪総合保育大学 大学院 ○ 于 丹
P-B-10-09	子どもの「らしさ」を見立てる際の 保育者育成と保護者支援の課題 ー保育園における事例の考察ー	株式会社アイ・エス・シー ○ 喰田 直美 らしさ研究所
P-B-10-10	支援が必要な子どもの保護者がとらえた園生活 (5)	帝京平成大学 ○ 瀬戸 淳子 白百合女子大学 秦野 悦子
P-B-10-11	子育て支援事業におけるママ絵本活動の効果	中京学院大学 ○ 栗岡 洋美

5月13日(土) 15:30~16:00

ポスター会場

座長：吉村 譲・中谷 奈津子

P-B-11-01	子どもの権利より実名公表と実名報道の在り方	八洲学園大学 ○ 小関 慶太 千葉こども専門学校
P-B-11-02	子どもの遊びを支える環境： スケートボード遊びを支える環境に関する研究	清泉女学院短期大学 ○ 小松 仁美 八洲学園大学 小関 慶太
P-B-11-03	子どもの権利と保育実践に関する研究	富山短期大学 ○ 明柴 聡史
P-B-11-04	子育て家庭における食料配布支援の 利用と生活状況に関する研究	名古屋芸術大学 ○ 吉村 美由紀 岡崎女子大学 吉村 譲 名古屋芸術大学 東條 文治
P-B-11-05	社会的養護の子どもたちの生きづらさ ～ ACEs の視点から	東京家政大学 ○ 金城 悟
P-B-11-06	子どもの権利に関する条例のモニタリング ー乳幼児期に着目して	白梅学園短期大学 ○ 瀧口 優 相模女子大学 兼任講師 岡本 弘子 埼玉学園大学 川喜田 昌代 名古屋女子大学短期大学部 鈴木 美枝子 田園調布学園大学 内藤 知美 元尚綱学院大学 野呂 アイ 十文字学園女子大学 矢野 景子
P-B-11-07	子どもの権利条約と児童虐待 ー子ども家庭福祉と保育・教職実践演習の 授業を通してー	名古屋女子大学短期大学部 ○ 鈴木 美枝子
P-B-11-08	里親のチーム養育実現のために ー応援ミーティングのあり方を考えるー	茨城女子短期大学 ○ 安藤 みゆき
P-B-11-09	幼児の母体心拍音聴取による心理的反応 ー自由な絵画表現を指標としてー	兵庫 大 学 ○ 立本 千寿子
P-B-11-10	保育者養成校学生の母子健康手帳に対する 理解に関する研究	東京未来大学 ○ 鳥海 弘子 鎌倉女子大学 浅井 拓久也
P-B-11-11	保育現場における食育に関する実態調査	武庫川女子大学 食物栄養科学部 ○ 北村 真理 武庫川女子大学 崎山 ゆかり 短期大学部 幼児教育学科

ポスター発表 C

P-C-I 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）などⅢ

5月14日(日) 10:30～11:00

ポスター会場

座長：香曾我部琢・田爪宏二

P-C-1-01	子どもの見立て遊びにおける 保育学生の気づき ー環境構成に着目してー	愛知文教女子短期大学 ○ 柴田 法子 愛知学泉大学 田村 佳世 愛知文教女子短期大学 伊藤 久美子
P-C-1-02	五感を育む環境についての研究 ー園舎・園庭環境との関わりからー	田園調布学園大学 ○ 斉木 美紀子 田園調布学園大学 仙田 考 田園調布学園大学 舟生 直美
P-C-1-03	虫嫌いを緩和する要因分析： 保育者への調査から	奈良教育大学 ○ 藤崎 亜由子 東洋英和女学院大学 山下 久美
P-C-1-04	SDGs 理解のための木育教材	京都女子大学 ○ 矢野 真 京都教育大学 田爪 宏二 熊本学園大学 吉津 晶子
P-C-1-05	幼児の興味・関心を深める遊び環境について	札幌国際大学短期大学部 ○ 小川 久恵
P-C-1-06	園庭改造に取り組んだ保育士の 思いと子どもの変化	名古屋芸術大学 ○ 安藤 香
P-C-1-07	戦前に発行された「観察の実際」に見られる 科学概念・規則性・法則性に関する一考察	神戸常盤大学 ○ 大森 雅人
P-C-1-08	領域「環境」の体験的理解に向けた実践（2） ー保育内容の指導法（環境）の授業をもとにー	十文字学園女子大学 ○ 曾野 麻紀
P-C-1-09	幼稚園における地震防災保育の効果検証ーその2	高知大学 ○ 山田 伸之 和歌山大学 丁子 かおる
P-C-1-10	地域の自然素材を活かした保育実践 ー浜田市世界こども美術館 並びに 浜田市内 14 園 と連携した取り組みー	愛知教育大学 ○ 樋口 一成

5月14日(日) 10:30～11:00

ポスター会場

座長：名 須 川 知 子 ・ 脇 信 明

P-C-2-01	音楽と身体による即興的表現活動の 相互性について ー子どもたちの自発的表現活動を通してー	豊橋創造大学短期大学部 ○ 井 中 あ け み 東 京 都 市 大 学 高 橋 う ら ら 豊橋創造大学短期大学部 朝 元 尊
P-C-2-02	アートがつなぐ未来への思考力の芽生え ー自然に触れて SDGs の基礎を養う、 都市部の保育園での実践ー	小 田 原 短 期 大 学 ○ 上 山 明 子 小 田 原 短 期 大 学 谷 口 征 子 小 田 原 短 期 大 学 古 田 啓 一
P-C-2-03	協同的な取り組みにおける5歳児の興味関心 ーレンズ付きフィルムカメラの撮影を通してー	愛知文教女子短期大学 ○ 伊 藤 久 美 子 愛 知 学 泉 大 学 田 村 佳 世 名古屋こども専門学校 柴 田 法 子
P-C-2-04	サウンドペインティングの幼児との試験的な実践	修文大学短期大学部 ○ 友 永 良 子
P-C-2-05	子どもとはぐくむ表現活動 (13) ーインタビュー調査結果を通して (2) ー	金 沢 め ぐ み 幼 稚 園 ○ 多 保 田 治 江
P-C-2-06	アフターコロナを見据えた保育者養成校の 演劇体験プログラムの調査	長 野 県 立 大 学 ○ 山 本 直 樹
P-C-2-07	児童館での異年齢の幼児を対象とした 音楽・造形活動の実践 ー美術館・児童館・地域の 保育者グループとの協働によるー	植 草 学 園 大 学 ○ 高 木 夏 奈 子
P-C-2-08	幼児の表現遊び・表現活動についての一考察 ー総合的な遊びとしての劇遊びに焦点をあててー	四 條 畷 学 園 短 期 大 学 ○ 長 谷 秀 揮
P-C-2-09	専門性を生かして高校生の 表現活動を支援する試みⅠ ーオペレッタ「ももたろう」の実践報告ー	中 国 学 園 ○ 山 本 房 子 中 国 学 園 松 井 み さ
P-C-2-10	保育における土を用いた表現方法の 開発に向けての検討 ー保育者養成校での実践を通してー	星 美 学 園 短 期 大 学 ○ 藤 原 明 子
P-C-2-11	「風」をテーマにして自然と親しむ 表現活動を考える	名古屋女子大学短期大学部 ○ 河 合 玲 子
P-C-2-12	子育て支援プログラムへの参加が もたらす効果と課題 ー学生による「絵本を題材にした身体表現遊び」 の企画・実施からー	東 京 成 徳 大 学 ○ 羽 岡 佳 子

5月14日(日) 10:30~11:00

ポスター会場

座長：佐々木晃・西隆太朗

P-C-3-01	子どもが主体性・創造性を発揮する 表現活動の実践(1)	鎌倉女子大学幼稚部 ○ 府川 汐莉 鎌倉女子大学幼稚部 森本 壽子 鎌倉女子大学短期大学部 幸喜 健 鎌倉女子大学短期大学部 上田 陽子
P-C-3-02	幼児理解に関する一考察 ー劇遊びの過程からー	帝京大学 ○ 岡田 たつみ
P-C-3-03	保育における一括化と個別化の考察	府中ひかり保育園 ○ 石川 雅晴
P-C-3-04	保育の指導と援助について ー幼稚園教育指導資料 第1集指導計画の作成と保育の 展開(その1)ー2年保育のための日案例ーを中心にー	高知県保育者指導員 ○ 才 賀 敬
P-C-3-05	異年齢保育における子どもの育ちと 保育者のかかわり(3) ー子どもたちの間で引き継がれていくもの	ノートルダム清心女子大学 ○ 伊藤 美保子 ノートルダム清心女子大学 西 隆 太 朗
P-C-3-06	主体としての子どもを支える	揖斐幼稚園 ○ 佐木 玲水 揖斐幼稚園 佐木 彩水
P-C-3-07	地域への親しみを育む保育実践4	東海大学 ○ 及川 留美 和光大学 粕谷 亘正 聖徳大学短期大学部 春日 保人 大東文化大学 岩崎 淳子 聖徳大学短期大学部 金 ミン志
P-C-3-08	子どもと保育者と保護者が 対話し育ち合う保育の創造	宮前おひさまこども園 ○ 亀ヶ谷 元譲 東京家政大学短期大学部 佐藤 康富
P-C-3-09	幼児と教師が共に主体となる保育2 ー教師は運動会をどう捉えているのかー	千葉大学教育学部附属幼稚園 ○ 小林 直実 千葉大学教育学部附属幼稚園 田 中 幸 千葉大学教育学部附属幼稚園 関根 映子 千葉大学教育学部附属幼稚園 井上 郁 千葉大学教育学部附属幼稚園 根橋 杏美 千葉大学教育学部附属幼稚園 斎藤 晶海
P-C-3-10	子どもへの関わりの場面における、 複数担任の協働のあり方について	中部学院大学短期大学部 ○ 西垣 直子
P-C-3-11	学び続ける力を養う保育者の援助	文京学院大学ふじみ野幼稚園 ○ 岩野 芽衣花 文京学院大学 梶島 香代 文京学院大学ふじみ野幼稚園 安達 祐亮 文京学院大学ふじみ野幼稚園 安藤 美緒
P-C-3-12	保育における対話が生み出す子どもの変容	板橋区立向台保育園 ○ 西川 美帆 玉川大学
P-C-3-13	家庭環境に応じた午睡の園での 生活リズムについての考察	みつは会 ○ 田頭 初美
P-C-3-14	私立幼稚園における教育方針・理念、 教育方法に関する調査 ー山梨県内私立幼稚園 Web サイト・SNS の分析からー	山梨学院短期大学 ○ 深沢 佐恵香

5月14日(日) 10:30~11:00

ポスター会場

座長：渡邊英則・宮嶋晴子

P-C-4-01	沖縄県の保育・幼児教育施設における お散歩活動の実態調査	岐阜女子大学大学院 ○ 岩崎 良亮 西原町立坂田保育所 沖縄キリスト教 照屋 建太 短期大学保育科
P-C-4-02	子どもとつくる環境 ー砂場に注目してー	香川大学教育学部附属 ○ 片岡 今日子 幼稚園 高松園舎
P-C-4-03	幼児期の子どもが森の自然環境を 自分の場とする要因の検討	広島大学附属幼稚園 ○ 渡邊 拓真 椋山女学園大学 磯村 正樹
P-C-4-04	遊び心と小さな工夫で園庭を楽しくする アイデア創発セミナー	鶴見大学短期大学部 ○ 鮫島 良一 太陽第一幼稚園 宮里 耕太 認定向山こども園 木村 創 田園調布学園大学大学院 仙田 考
P-C-4-05	園庭における砂・土環境に関する研究 ー粒度の観点から見た園庭の土環境調査をもとにー	同志社女子大学 ○ 竹井 史
P-C-4-06	園庭における砂・土環境に関する研究 ー幼稚園・保育所での遊びの実態に関する アンケート調査をもとにー	同志社女子大学 ○ 真宮 美奈子
P-C-4-07	園庭における砂・土環境に関する研究 ー粒度分布から見る砂場環境調査をもとにー	同志社女子大学 ○ 笠間 浩幸
P-C-4-08	保育環境論 (51) ーバケツで 稲作りの意義ー	大地教育研究所 ○ 塩川 寿平
P-C-4-09	園児の野外における生活体験の支援活動 (その2) ー飯塚市庄内生活体験学校が支える方策と展開ー	特定非営利活動法人 ○ 正平 辰男 体験教育研究会 ドングリ 九州女子短期大学 宮嶋 晴子

5月14日(日) 10:30～11:00

ポスター会場

座長：久保山茂樹・増田貴人

- | | | |
|----------|---|---|
| P-C-5-01 | 障害児の保護者支援に関する面接調査(4)
ー中堅保育者を対象に行った予備調査結果ー | 岡崎女子大学 ○ 岸本美紀
中部大学 武藤久枝 |
| P-C-5-02 | 医療的ケア児のきょうだい支援に関する
研究報告第2弾 | あいち小児保健医療総合センター ○ 棚瀬佳見 |
| P-C-5-03 | 障害のある子どもを育てる親の
well-being を捉える方法論の検討 | 桜花学園大学 ○ 勝浦真仁 |
| P-C-5-04 | 「幼児期の障害のある子どもを持つ母親の障害
受容過程に関する質的研究」 | 西九州大学大学院 ○ 坂元美帆
西九州大学大学院 田中麻里 |
| P-C-5-05 | 障害のある子どもの保護者が求める就学後の支援
ー併行利用卒園児の保護者のインタビュー調査からー | 姫路日ノ本短期大学 ○ 川島直子
神戸常盤大学教育学部 大城亜水
頌栄短期大学 渡邊恵梨佳 |
| P-C-5-06 | 幼児期における障害理解教育
ー幼児雑誌の中で取り上げられている
障害に関する内容をもとにー | 筑波大学 ○ 水野智美
筑波大学 徳田克己 |
| P-C-5-07 | 保育者養成校で取得するこども
音楽療育士資格の意義
ー障害児を含む保育現場での実習を通してー | 茨城女子短期大学 ○ 馬立明美 |
| P-C-5-08 | 障害に対する保育者志望学生の意識 | 東京家政大学 ○ 荒井庸子 |
| P-C-5-09 | 特別な支援を要する
子どもを取り巻く関係整備の一考察④
ー2022年実施の意識調査の結果並びに2016年
調査との経年比較をもとにー | 桜美林大学 ○ 染谷雅広 |

P-C-6 保育者の資質能力・保育者の専門性Ⅲ

5月14日(日) 10:30~11:00

ポスター会場

座長：大橋喜美子・石井正子

- | | | |
|----------|---|---|
| P-C-6-01 | 保育者の資質向上を目指して
—身体表現遊びからみえるもの— | 岡崎女子短期大学 ○ 小原 幹代
京都文教大学 本山 益子 |
| P-C-6-02 | 園内における保育の質の可視化の試み | 平和会幼保連携型認定 ○ 山崎 美鈴
こども園いいとよ保育園
盛岡大学 藤田 清澄 |
| P-C-6-03 | ティーチャーズ・トレーニングプログラムの効果 | 昭和女子大学現代教育研究所 ○ 鈴木 祥子
昭和女子大学 石井 正子 |
| P-C-6-04 | 保育記録をもとにした省察を促す
保育者支援に関する研究 | 中部学院大学短期大学部 ○ 小木 曾友則 |
| P-C-6-05 | 継続的な乳児保育カンファレンスの
成果と課題 (1)
—2年間で生じた変化の分析— | 広島文教大学 ○ 牧 亮太
福山市立大学 上山 瑠津子
広島県乳幼児教育支援センター 津川 典子
広島県乳幼児教育支援センター 古和 友子 |
| P-C-6-06 | 保育職員間でのコミュニケーションに関する研究 | 静岡福祉大学 ○ 永田 恵実子
たかくさ保育園 村松 幹子
ゆたか保育園 伊藤 茂美
ゆたか保育園 前田 弥生
さくらま 加藤 真智子 |
| P-C-6-07 | 職員集団が育ちあう関係構築の在り方
—職員会議に注目して— | 名古屋経済大学人間生活学部 ○ 堀 美鈴 |
| P-C-6-08 | 保育者の資質能力を育む園内研修のあり方
—保育における即興性を視点にして— | 岐阜聖徳学園大学 ○ 西川 正晃 |
| P-C-6-09 | 子どもへの言葉かけにみる保育の専門性について
—保育者自身の捉えを資料として— | 任意団体 子育て支援 ○ 中山 恵
S A N の 会 018 |
| P-C-6-10 | コロナ禍がもたらした保育実践上の負荷・制限は
保育士にどのような心理的負担を生み出したのか
—2021年度のデルタ株流行中の調査— | 福岡県立大学 ○ 伊勢 慎
福岡県立大学 小山 憲一郎 |
| P-C-6-11 | 保育士不足はいつまで続くのか
—保育士不足解消後の保育サービス— | 白梅学園大学 ○ 庭野 晃子 |

5月14日(日) 10:30~11:00

ポスター会場

座長：清水益治・井上真理子

P-C-7-01	保育士等の育成指標（研修体系）の提案（1）	帝塚山大学 聖和短期大学 仁愛大学 名古屋柳城短期大学 東大阪大学 聖和短期大学 富山福祉短期大学 仁愛大学 あまのふたば会 聖和短期大学	○清水益治 碓氷ゆかり 森俊之 成田朋子 吉岡眞知子 波田埜英治 水上彰子 青井夕貴 中島一 千葉武夫
P-C-7-02	探究型ミドルリーダー研修の実施とその評価	香川大学	○片岡元子
P-C-7-03	保育士等の育成指標（研修体系）の提案（2）	聖和短期大学 仁愛大学 名古屋柳城短期大学 聖和短期大学 富山福祉短期大学 仁愛大学 東大阪大学 あまのふたば会 聖和短期大学 帝塚山大学	○碓氷ゆかり 森俊之 成田朋子 波田埜英治 水上彰子 青井夕貴 吉岡眞知子 中島一 千葉武夫 清水益治
P-C-7-04	園内研修会のあり方の検討（2）	富山国際大学	○本江理子
P-C-7-05	新たな園内研修への取り組み ～他園と共に学び合う	湘南ケアアンドエデュケーション研究所 柿沼学園	○増田まゆみ 柿沼平太郎
P-C-7-06	保育士の成長をもたらす学びのあり方に関する研究 ～園長・保育士の二者のマッチングデータの分析から	洗足こども短期大学 洗足こども短期大学 大妻女子大学	○加藤翼 井上真理子 坂田哲人
P-C-7-07	乳児保育の「食」をテーマとした 対話型園内研修の事例的検討（2） ーインタビューの分析からー	大妻女子大学短期大学部 昭和女子大学	○小野友紀 遠藤純子
P-C-7-08	SDGsをテーマにした園内研究	滋賀大学教育学部附属幼稚園 滋賀大学 滋賀大学教育学部附属幼稚園	○高井謙 山本一成 西村佳子
P-C-7-09	ドキュメンテーションを用いた 保育の振り返りと保育者の成長	昭和女子大学大学院 昭和女子大学大学院	○小栗由樹 石井正子

5月14日(日) 10:30~11:00

ポスター会場

座長：井上美智子・鶴宏史

P-C-8-01	養成校学生が『ごっこ遊び』にもつイメージの実態	鎌倉女子大学短期大学部 ○ 関 川 満 美 鎌倉女子大学短期大学部 幸 喜 健
P-C-8-02	保育者養成学生のメディア接触の実態と乳幼児のメディア接触への認識について	岡崎女子短期大学 ○ 奥 蘭 知 明
P-C-8-03	保育者養成における体験的学びからの環境教育の実践	大阪大谷大学 ○ 地下 まゆみ 大阪大谷大学 井上 美智子
P-C-8-04	実践的な演習系授業（グループ実習）の取り組みにおける一考察	札幌大谷大学短期大学部 ○ 森 川 由 衣 札幌大谷大学短期大学部 清 和 友 美
P-C-8-05	地域貢献活動を通じた学生の取り組みに関する一考察 ～主体的取り組みへの変化について～	埼玉東萌短期大学 ○ 前 徳 明 子 埼玉東萌短期大学 八 田 清 果 埼玉東萌短期大学 奥 恵 埼玉東萌短期大学 栗 本 浩 二
P-C-8-06	保育・教職実践演習における食育かるたの作成	静岡産業大学 ○ 日 隈 美 代 子 静岡産業大学 酒 井 範 子 名古屋立大学 中 澤 幸 子
P-C-8-07	子どもとかかわる体験をもとにした保育者のイメージを形成する授業の試み	元聖セシリア女子短期大学 ○ 仲 明 子 国際学院埼玉短期大学 桐 原 由 美 名古屋女子大学 榊 原 剛
P-C-8-08	子どもの内面を捉える視点 ～「乳児保育Ⅰ」における学生の気づきから～	池 坊 学 園 ○ 鶴 川 陽 子
P-C-8-09	「子どもを多角的に理解する眼を育てる ー附属園・子育てサロンとの連携を通してー」	東京家政大学 ○ 大 西 明 実 東京家政大学 佐 藤 康 富 東京家政大学 金 子 日 菜 乃
P-C-8-10	保育学生による他学年で協同する 地域子育て支援活動シミュレーションの実践	高 知 大 学 ○ 竹 内 日 登 美 高 知 大 学 三 ツ 石 行 宏 高 知 大 学 玉 瀬 友 美 高 知 大 学 川 俣 美 砂 子
P-C-8-11	保護者支援を実践できる保育者を要請する 教育方法の研究（7）	神戸常盤大学 ○ 中 西 利 恵 相 愛 大 学 曲 田 映 世
P-C-8-12	赤ちゃんの運動発達の体験的理解を促す 授業の試み ー「子どもの運動」と「保育の心理学」の 協働授業実践報告①ー	富山短期大学 ○ 嶋 野 珠 生 富山短期大学 塩 見 一 成

5月14日(日) 10:30~11:00

ポスター会場

座長：出川 聖 尚 子・岡本 拓 子

P-C-9-01	「組織的表現創作活動の個人評価フォーム」 導入の意義 ー学生の創作活動の意識づけへの影響ー	慈恵福祉保育専門学校・○ 葛 谷 潔 昭 豊橋創造大学短期大学部 慈恵福祉保育専門学校 佐々木 友里
P-C-9-02	保育者養成課程における 「創作紙芝居」の取り組み(2) ー新任保育者の活用に焦点をあてー	新潟青陵大学短期大学部 ○ 上 原 由 美
P-C-9-03	造形・音楽・身体表現を連携させた 保育内容「表現」の指導法に関する研究(2) ー学生が着目した「子どもの表現」についてー	岡崎女子短期大学 ○ 横 田 典 子 岡崎女子短期大学 山 田 悠 莉 岡崎女子短期大学 滝 沢 ほ だ か
P-C-9-04	保育者養成大学における音楽表現の学習内容の検討 ー幼児と楽器に焦点を当ててー	帝 京 平 成 大 学 ○ 乙 部 は る ひ
P-C-9-05	光を題材とした総合表現活動の実践研究(2) ー音楽的側面からみた学生の意識調査ー	大阪千代田短期大学 ○ 大 浦 知 加 大 阪 教 育 大 学 松 井 祐
P-C-9-06	光を題材とした総合表現活動の実践研究(1) ー造形的側面からみた学生の意識調査ー	大 阪 教 育 大 学 ○ 松 井 祐 大阪千代田短期大学 大 浦 知 加
P-C-9-07	保育者養成における表現教育ではインクルーシ ブな視点はどのように取り入れられているか ーテキスト分析を通してー	國 學 院 大 學 ○ 島 田 由 紀 子
P-C-9-08	保育者養成における表現教育では 即興表現はどのように扱われているか	千 葉 大 学 ○ 駒 久 美 子
P-C-9-09	保育者養成課程における 音楽表現教育の授業デザイン(3)	川 村 学 園 女 子 大 学 ○ 古 山 律 子
P-C-9-10	領域「表現」に関連する保育者の専門性の養成 ー表現が豊かに芽ばえるための共感的理解を基盤 とした保育環境とかかわりの構想という観点からー	聖 心 女 子 大 学 ○ 杉 原 真 晃 聖 心 女 子 大 学 今 川 恭 子
P-C-9-11	保育者養成において劇的表現の指導は どうあるべきか ー独自科目「演劇表現」の授業実践より検証するー	東 京 家 政 大 学 ○ 花 輪 充
P-C-9-12	保育者養成におけるピアノの 弾き歌いに関する一考察	福岡こども短期大学 ○ 岸 川 良 子

5月14日(日) 10:30~11:00

ポスター会場

座長：川北典子・永野典詞

P-C-10-01	地域子育て支援における トラウマ・インフォームド・ケアの可能性	植 草 学 園 大 学 ○ 實 川 慎 子
P-C-10-02	地域子育て支援拠点施設における ネットワークの構築と課題	京 都 華 頂 大 学 ○ 吉 島 紀 江 大 谷 大 学 川 北 典 子
P-C-10-03	地域子育て支援センター利用者の育児に関する研究： コロナ禍における母親と父親の育児を通して	愛 知 東 邦 大 学 ○ 鈴 木 順 子
P-C-10-04	子育て支援ルームにおけるイベントについての一考察 ー「学習型」「体験型」に着目してー	兵庫教育大学子育て支援ルーム ○ 楠 本 洋 子 兵 庫 教 育 大 学 石 野 秀 明
P-C-10-05	保育所を中心とした子育て支援ネットワーク 形成に関する研究（2） 保護者へのアンケートを手掛かりに	九州ルーテル学院大学 ○ 香 崎 智 郁 代
P-C-10-06	子育て支援センター利用者を対象とした 育児中の認識の変化や孤独感に関する調査	常 葉 大 学 ○ 村 上 太 郎
P-C-10-07	乳幼児期における年齢別 子育て支援プログラムについての研究 ～親のニーズと子どもの発達段階をふまえた 家庭教育支援～	至 学 館 大 学 ○ 定 行 加 保 里
P-C-10-08	病児・病後児保育を創るー立ち上げの起動ー	つくば国際短期大学 ○ 桜 井 ま す み
P-C-10-09	ベビーマッサージとわらべうたの 実践による子育て支援について ー母親の意識調査をもとにー	秋 草 学 園 短 期 大 学 ○ 長 谷 川 恭 子 東 京 未 来 大 学 鳥 海 弘 子
P-C-10-10	子育て支援によって保護者の 養育行動は変容するのか ー保護者の養育行動における定量的な検討ー	九 州 産 業 大 学 ○ 阿 部 敬 信 九 州 産 業 大 学 森 美 保 子
P-C-10-11	With コロナ時代の子育て支援に関する考察 ～子ども元気プロジェクト2022の実践より～	十 文 字 学 園 女 子 大 学 ○ 鈴 木 康 弘 文 教 大 学 宮 野 周 十 文 字 学 園 女 子 大 学 藪 崎 伸 一 郎
P-C-10-12	with コロナ時代の音楽によるアウトリーチ	関 西 学 院 ○ 山 内 信 子 聖 和 短 期 大 学 大 阪 キ リ ス ト 教 短 期 大 学 川 畑 尚 子
P-C-10-13	コロナ禍前後における 「子育て支援ルーム」活動の比較検討	明 石 市 立 明 石 養 護 学 校 ○ 田 中 万 紀 大 阪 信 愛 学 院 大 学 小 川 圭 子
P-C-10-14	「上海市・北九州市」における 子育て意識に関する研究（2） ー子どもに望む資質・能力についての 国際共同調査を中心にー	九 州 大 谷 短 期 大 学 ○ 宮 地 あ ゆ み 九 州 産 業 大 学 植 村 和 彦 九 州 産 業 大 学 清 水 陽 子 劉 平

5月14日(日) 10:30~11:00

ポスター会場

座長：矢藤 誠 慈 郎・小崎 恭 弘

P-C-11-01	保育におけるチームワークを高める要因について ～関連モデルの検討～	足立区立鹿浜こども園 ○ 笠 木 奈 緒 子 聖 徳 大 学 相 良 順 子
P-C-11-02	保育者のストレッサーと 職務継続意志の関連について ～職場認識に着目して～	日出学園幼稚園 ○ 中 山 晴 美 聖 徳 大 学 相 良 順 子
P-C-11-03	わが国の保育における重大事故の 把握とその課題 ～保育事故データベースを用いた分析から～	国立成育医療研究センター ○ 須 藤 茉 衣 子 政 策 科 学 研 究 部 大阪教育大学 教育学部 小 崎 恭 弘
P-C-11-04	保育所における水害時の 事業継続計画の予備的検討 ～業務の優先順位について～	川崎医療福祉大学 ○ 森 本 寛 訓 新 見 公 立 大 学 入 江 慶 太 川崎医療福祉大学 松 本 優 作 川崎医療福祉大学 岡 正 寛 子 川崎医療福祉大学 橋 本 勇 人
P-C-11-05	明日の保育を拓く 「保育マネジメント」の在り方(2) ～島の自然と文化を生かした園運営者の 語りから捉えられること～	お茶の水女子大学 ○ 宮 里 暁 美 お茶の水女子大学 浜 口 順 子 お茶の水女子大学 松 島 の り 子 お茶の水女子大学 辻 谷 真 知 子 お茶の水女子大学 内 海 緒 香
P-C-11-06	保育者の継続的就業を支える 要因に関する研究(3)	関西学院 聖和短期大学 ○ 小 山 顕 長 野 県 立 大 学 渡 邊 望
P-C-11-07	幼児教育現場のリスクマネジメント ～ヒヤリハット収集の現状と課題～	大阪城南女子短期大学 ○ 中 津 功 一 朗 大阪城南女子短期大学 玉 川 朝 子
P-C-11-08	ICT による伴走型コンサルティング(3) 継続的な研修による保育者の意識変化	聖 和 学 園 短 期 大 学 ○ 上 村 裕 樹 群 馬 大 学 音 山 若 穂 岩 手 県 立 大 学 井 上 孝 之
P-C-11-09	ICT による伴走型コンサルティング(4) ～保育研修における伴走者の介入～	岩 手 県 立 大 学 ○ 井 上 孝 之 聖 和 学 園 短 期 大 学 上 村 裕 樹 群 馬 大 学 音 山 若 穂

ポスター発表 D

P-D-I 保育思想・保育理論・保育史Ⅱ

5月14日(日) 14:00~14:30

ポスター会場

座長：梶 瑞 希 子・塩 崎 美 穂

- | | | |
|----------|--|--|
| P-D-1-01 | 保育研究において現象学的視座を
採ることについての一考察 | 専修大学北上福祉教育専門学校 ○ 照 井 信 樹
専修大学北上福祉教育専門学校 熊 谷 賢 |
| P-D-1-02 | 1963 年「幼稚園と保育所との関係について
(通知)」の地域における波紋 | お 茶 の 水 女 子 大 学 ○ 松 島 の り 子 |
| P-D-1-03 | ウィルマ・エラジークによる
“Ellersiek-Spiele” に関する考察 | 目 白 大 学 ○ 近 藤 千 草 |
| P-D-1-04 | 保育所保育指針告示化以前の世代の保育士は
保育日誌とどう付き合ってきたか | 湯 田 保 育 所 ○ 前 田 寛 子 |
| P-D-1-05 | 創設（1955 年）から 1989 年頃の桐朋幼稚園に
おける音楽活動の特色と歴史的意義：
各活動の分析を通して | 白 梅 学 園 短 期 大 学 ○ 長 井 覚 子 |
| P-D-1-06 | 秋山和夫の保育指導法
ー評価に焦点を当ててー | 福 山 平 成 大 学 ○ 小 野 順 子 |
| P-D-1-07 | 要領・指針における「環境」の多義性について | 久 留 米 大 学 ○ 諫 山 裕 美 子 |

5月14日(日) 14:00～14:30

ポスター会場

座長：日浦直美・佐藤和順

P-D-2-01	戦後の保育制度における行事の 取扱いに関する一考察	淑徳大学○酒井基宏
P-D-2-02	スウェーデンにおける子育て支援施設 (Öppna förskola) と就学前学校 (förskola) の接続に関する研究	関西学院大学○吉次豊見 甲南女子大学幸田瑞穂
P-D-2-03	幼児教育と小学校教育を区別するものは何か ～オランダにおける教育制度を参考に	大妻女子大学○坂田哲人 京都女子大学村井尚子
P-D-2-04	アメリカの就学前教育改革 ～カリフォルニア州トランジショナル・キンダー ガーデンに注目して～	東京都市大学○室井眞紀子 東京家政大学大学院
P-D-2-05	外国籍児に対する担任の配慮 ー保育専攻学生はどのように理解するか	東京未来大学○佐藤久恵
P-D-2-06	タイ王国「国家教育法」制定前後の 幼児教育内容の比較検討 ーカリキュラムに着目してー	学習院大学大学院○高橋順子
P-D-2-07	神奈川県秦野市とその近郊に住む、外国に つながりのある未就学児の現状から考える	光の子どもたちの会○鈴木真由美
P-D-2-08	領域「表現」における外国語体験の分析及び 指導の方法に関する研究	姫路日ノ本短期大学○津田由加子 姫路日ノ本短期大学白井智子 姫路日ノ本短期大学藤田貴久
P-D-2-09	多文化理解と子どもの育ち ー学地連携による子どもの健康の視点からー	静岡福祉大学○木戸直美
P-D-2-10	多文化共生保育における乳幼児期の言葉の 習得と子育て支援の取り組みに関する研究 ーアンケート調査からー	彰栄保育福祉専門学校○山梨有子 東京未来大学鳥海弘子 東京家政大学大西明実 清和大学短期大学部加藤緑 山梨県立大学里見達也 群馬医療福祉大学塚越亜希子 足利短期大学中野真樹 育英大学田中卓也
P-D-2-11	フランスの l'école maternelle における 子どもの人権に関する取り組み ー教育プログラムからの検討ー	福山市立大学○大庭三枝
P-D-2-12	保育者の外国につながる子どもに対する認識 ー園への質問紙調査をもとにー	目白大学○當銘美菜
P-D-2-13	外国籍の子どもを持つ保護者との コミュニケーション支援に関する基礎的研究	佛教大学○柏まり 佛教大学佐藤和順

5月14日(日) 14:00~14:30

ポスター会場

座長：北野幸子・高嶋景子

P-D-3-01	「5つの視点」を活用した研修のデザイン ー対話のプロセスと創発的評価	お茶の水女子大学 ○ 内海 緒香 お茶の水女子大学 宮里 暁美 保育のデザイン研究所 川辺 尚子 お茶の水女子大学 辻谷 真知子
P-D-3-02	「教育・保育課程論」における ドキュメンテーションを活用した PDCA サイクルの見える化の試み	作新学院大学女子短期大学部 ○ 宋 戸 良子
P-D-3-03	尾張旭市自己評価指標開発研究(2) 評価観点マニュアルの作成	尾張旭市役所保育課 ○ 松本 真理子 尾張旭市立西部保育園 澤村 桂 尾張旭市立藤池保育園 山下 なおみ 尾張旭市立川南保育園 寺本 暁子 名古屋短期大学 吉田 真弓 名古屋柳城短期大学 後藤 由美
P-D-3-04	ラーニングストーリーの実践的展開： 子どもの育ちを重層的に可視化する	東京都市大学 ○ 横山 草介 もあなキッズ自然楽校 関山 隆一
P-D-3-05	子どものラーニング・ストーリー(1) ー保育現場と学生の実践的協働ー	金沢星稜大学 ○ 三好 伸子 愛里巣福祉会 藤井 千里
P-D-3-06	子どものラーニング・ストーリー(2) ー保護者との個人記録共有の始まりー	愛里巣福祉会 ○ 藤井 千里 金沢星稜大学 三好 伸子
P-D-3-07	保育における地域の資源活用と 連携の評価に関する基礎的考察	埼玉県立大学 ○ 田口 賢太郎
P-D-3-08	「好き」を大事にしたカリキュラムの広がりについて ー事例をもとにー	○ 石見 容子
P-D-3-09	保育計画に活用しうる写真記録の導入・活用 ー実践・運営の両側面からの往還型研修の実効性ー	野中こども園 ○ 中村 章啓
P-D-3-10	遊びや生活をまとまりとして捉える 長期指導計画運用の試み	神戸大学附属幼稚園 ○ 田中 孝尚 神戸大学附属幼稚園 松本 法尊 神戸大学附属幼稚園 浅原 麻美 神戸大学附属幼稚園 沼田 祥子 神戸大学附属幼稚園 吉田 紘子 神戸大学附属幼稚園 川東 佳歩 神戸大学附属幼稚園 長野 萌映 神戸大学附属幼稚園 松山 聖奈 神戸大学大学院人間 北野 幸子 発達環境学 研究科

P-D-4 保育内容（総論・遊び）

5月14日(日) 14:00～14:30

ポスター会場

座長：大豆生田啓友・照屋建太

P-D-4-01	子どもが遊び込むということ	中部学院大学短期大学部 ○ 倉 畑 萌
P-D-4-02	絵本が遊びにつながる保育展開について ー子どもの表現力を豊かに育むためにー	うれしの認定こども園 ○ 萩 野 道 世 東海学院大学短期大学部 杉 山 喜 美 恵
P-D-4-03	幼児期の水遊びに関する研究 ー3歳児の水を用いる遊び場面の分析からー	I P U・環太平洋大学 ○ 平 松 美 由 紀 次世代教育学部こども発達学科
P-D-4-04	「楽しさ」に関する基礎的研究（その12） ー手遊びを中心にー	愛知東邦大学 ○ 堀 建 治 ユマニテク短期大学 松 本 亜 香 里 椋山女学園大学 小 杉 裕 子
P-D-4-05	地域の中にある「郷育」と「響育」で育つもの	大和郡山市立矢田南幼稚園 ○ 大 内 菜 恵 子 大和郡山市郡山西幼稚園 木 下 育 子
P-D-4-06	遊びにおける「見通し」についての一考察	十文字学園女子大学 ○ 横 井 紘 子
P-D-4-07	絵本から展開する保育 ー学生の学びをもとに考察するー	中 村 学 園 大 学 ○ 野 中 千 都
P-D-4-08	子どもの遊びに関する調査（2） ー自由記述の分析からー	沖縄キリスト教短期大学 ○ 糸 洲 理 子 沖縄キリスト教短期大学 照 屋 建 太 沖縄キリスト教短期大学 宮 平 隆 央
P-D-4-09	幼児のパターンに関する遊び	中 国 短 期 大 学 ○ 福 澤 惇 也
P-D-4-10	「ごっこ遊び」の系統的支援 ー1歳児クラスの事例を中心にー	新 見 公 立 大 学 ○ 松 島 英 恵

P-D-5 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）Ⅳ

5月14日(日) 14:00～14:30

ポスター会場

座長：磯部 錦司・岩田 美保

- | | | |
|----------|---|---|
| P-D-5-01 | 他児の声に反応する1歳児の声
ーそのリズムカルな展開における音楽性の分析ー | 倉敷市立短期大学 ○ 別府 祐子 |
| P-D-5-02 | 保育現場における図鑑・科学絵本の
活用実態に関する研究Ⅱ | 白梅学園大学 ○ 仲本 美央 |
| P-D-5-03 | 自由遊びにおける幼児のオノマトペ発話に
関する検討 | 東京学芸大学大学院 ○ 秋 國 郁
連合学校教育学研究科
千葉大学教育学部 岩田 美保 |
| P-D-5-04 | 絵本と音楽の類似性について | 仁愛女子短期大学 ○ 木下 由香 |
| P-D-5-05 | 子どもが紡ぐ物語り
～レジヨ・エミリアとの対話から～ | まちの保育園 こども園 ○ 山岸 日登 美
神戸親和大学教育学部 森 眞 理 |
| P-D-5-06 | コロナ下における保育と幼児の育ちに関する研究
ー言葉の育ちを中心にー | 名古屋学芸大学 ○ 杉江 栄子
名古屋市立植田幼稚園 鎌田 桃代
保育の実践と研究 古橋 さつ子
安城市立さくら保育園 新美 洋祐
愛知教育大学 新井 美保子 |
| P-D-5-07 | 絵本を活用した表現活動の一考察②
ーレジヨ・エミリア ブルーノ・ムナーリ
幼児学校の実践からー | 関西学院 聖和短期大学 ○ 手良村 昭子 |
| P-D-5-08 | 絵本の読み聞かせと幼児の遊び
ー自由な遊び場面の観察からー | 聖徳大学 幼児 ○ 星野 美穂子
教育専門学校 |
| P-D-5-09 | 絵本から広がる子どもの音楽活動についての一考察 | 帝京大学 ○ 若谷 啓子 |
| P-D-5-10 | 領域「言葉」における外国語体験の
意義と実践事例 | 姫路日ノ本短期大学 ○ 白井 智子
姫路日ノ本短期大学 津田 由加子
姫路日ノ本短期大学 藤田 貴久 |

P-D-6 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）Ⅷ

5月14日(日) 14:00～14:30

ポスター会場

座長：鈴木裕子・二宮紀子

- | | | |
|----------|---|---|
| P-D-6-01 | 音楽表現の効果的な取り組み方
ー保育者養成校の学生における音楽表現の導き方4ー | 愛知文教女子短期大学 ○ 国藤真理子
愛知文教女子短期大学 玉田裕人
愛知文教女子短期大学 朴賢晶 |
| P-D-6-02 | 保育学生における「ムシ」への苦手意識と
その克服方法 | 新潟青陵大学短期大学部 ○ 梨本竜子
新潟青陵大学短期大学部 山城いつき |
| P-D-6-03 | 保育者養成校における表現教育Ⅱ
ー遠隔授業から対面授業への3年目の学生の変化ー | 目白大学 ○ おかもとみわこ |
| P-D-6-04 | 保育学生が数量を豊かに表現する
語彙力の向上へ向けた検討 | 静岡福祉大学 ○ 佐々木郁子 |
| P-D-6-05 | 領域「表現」に関する保育内容の指導法の
授業について考える（1）
～模擬保育指導案作成時に学生が立てたねらいから～ | 十文字学園女子大学 ○ 薮崎伸一郎
十文字学園女子大学 二宮紀子 |
| P-D-6-06 | 保育者養成課程の学生のペープサート上演
における保育者の視点 | 福山平成大学 ○ 佐伯岳春
大阪樟蔭女子大学 安部永 |
| P-D-6-07 | 「保育実習指導」における手あそびに関する
学生の意識
ーアンケートから読み取れる実際と課題ー | 野並福祉会 ○ 西出悦子
愛知県立大学大学院研究生 原友美 |
| P-D-6-08 | 保育学生による伝統的な遊びの経験に関する研究 | 金沢学院短期大学 ○ 日光恵利
高松大学 川口めぐみ |
| P-D-6-09 | 保育者養成課程における音楽表現と
地域の音楽文化①
～小田原地域における音楽文化と
保育実践に関する調査 | 小田原短期大学 ○ 有村さやか
小田原短期大学 今泉明美
小田原短期大学 山本華子
小田原短期大学 澤田優子 |
| P-D-6-10 | 保育者養成とわらべうた（1） | 聖和学園短期大学 ○ 宮本美和子
宮城教育大学 小野真喜子 |
| P-D-6-11 | 保育者・教員を目指す学生の歌唱法の
醸成に向けた一考察
ー実践から見てきた課題についてー | 琉球大学 ○ 持松朋世 |

5月14日(日) 14:00~14:30

ポスター会場

座長：阿部和子・高橋貴志

P-D-7-01	乳児保育の「食」をテーマとした 対話型園内研修の事例的検討(1) ー保育者は「良さ」「課題」をどう捉えているかー	昭和女子大学 ○ 遠藤 純子 大妻女子大学短期大学部 小野 友紀
P-D-7-02	「子ども主体の保育を目指して」～3歳未満児「育児 担当制」への取り組み～	幼保連携型認定こども園宮崎 ○ 中 武 亮 子 学園短期大学附属みどり幼稚園 幼保連携型認定こども園宮崎 佐 伯 千 穂 学園短期大学附属みどり幼稚園 宮崎学園短期大学 山 下 恵 子 宮崎学園短期大学 小 川 美 由 紀
P-D-7-03	保育者の子どもとの関わりについての悩み2 ー3歳未満児保育と3歳以上児保育の違いを アンケート調査より探るー	和洋女子大学 ○ 小 山 朝 子
P-D-7-04	保育経験者が育児担当制による 保育を体得するプロセスⅠ ー保育者の語りに着目してー	帝塚山大学 ○ 西 村 真 実 玉川大学(非) 水 枝 谷 奈 央 早緑子供の園 土 田 珠 紀 梅花女子大学 鎮 朋 子
P-D-7-05	保育における物的環境の意味や 扱いに関する研究の動向	名古屋柳城短期大学 ○ 後 藤 由 美
P-D-7-06	乳幼児期における愛着対象としての保育者の役割 ～0,1歳児が保育者を求める姿から～	東京家政大学 ○ 堀 科
P-D-7-07	0,1,2歳児の『やってみたい!』を支える 環境構成 ～育ちの見とりと見通しの往還から～	星置学園 ○ 長谷川 景子 松山東雲女子大学 岡 部 祐 子
P-D-7-08	0歳児の食事場面における心地よさの育み(2) ー特定の保育者との関わり合いで見られた 0歳と1歳の繋がりー	大阪総合保育大学大学院 ○ 川 中 義 博
P-D-7-09	1歳児クラスの担当制における子どもの 人間関係についての考察	金城福祉会 ○ 川 邊 音 生 蝶屋こども園
P-D-7-10	「0歳児の個別指導計画の研究」 ーA認定こども園の個別指導計画「ねらい」に 着目してー	大阪総合保育大学大学院 ○ 新 井 明 子
P-D-7-11	乳児の造形遊びにみる論理的思考の萌芽(4) ー2歳児クラスにおける乳児のクラフト紙を 用いた遊びに関する分析ー	白百合女子大学 ○ 椎 橋 げんき 白百合女子大学 大 貫 麻 美 白百合女子大学 高 橋 貴 志
P-D-7-12	幼稚園教育における2歳児保育	城徳学園 ○ 小 林 さとみ 新検見川幼稚園
P-D-7-13	0・1・2歳児に対する保育者と保護者の 連携と保護者への子育て支援ー保育雑誌に 掲載された連絡帳のやり取りの分析を通して	神戸松蔭女子学院大学・同大学院 ○ 寺 見 陽 子

5月14日(日) 14:00～14:30

ポスター会場

座長：若月芳浩・松井剛太

P-D-8-01	障害児保育実践を行うための コンピテンシー尺度の検討	山 口 県 立 大 学 ○ 藤 田 久 美
P-D-8-02	特別な配慮を必要とする園児への 教育・保育に係る園内体制の状況 ー認定こども園を対象とした全国調査に基づいてー	兵庫教育大学大学院 ○ 石 野 秀 明 関 西 国 際 大 学 下 里 里 枝 高 松 大 学 川 口 め ぐ み
P-D-8-03	保育所等で必要とされる 専門職連携に関するアンケート調査 ー保育者と看護師を対象としてー	豊橋創造大学短期大学部 ○ 熊 谷 享 子 豊橋創造大学短期大学部 井 中 あ け み
P-D-8-04	特別な配慮を要する子どもを含む 幼児間の関わりと保育者の援助	共 立 女 子 大 学 ○ 広 瀬 由 紀 千 葉 大 学 岩 田 美 保
P-D-8-05	子どもの発達支援に保育者が利用できる チェックリスト作成の試み	江 戸 川 大 学 ○ 大 塚 紫 乃 江 戸 川 大 学 村 上 涼
P-D-8-06	保育園で行った音楽療法体験会の報告	桜 美 林 大 学 ○ 柿 崎 次 子 岡山白ゆり発達支援センター 石 原 忍
P-D-8-07	保育連携から見た児童発達支援の現状	株式会社ファンファン ○ 飯 田 明 埼玉純真短期大学 花 島 慶 子 レイモンド元住吉保育園 鈴 木 玲 子
P-D-8-08	保育現場における配慮が必要な 外国人幼児への支援	東 京 未 来 大 学 ○ 藤 後 悦 子 國 學 院 大 學 野 澤 純 子 千 葉 大 学 石 田 祥 代
P-D-8-09	保育における発達支援 ー乳幼児健診との連携を考えるー	平 安 女 学 院 大 学 ○ 清 水 里 美
P-D-8-10	発達障害の診断に貢献する保育所等からの 情報提供内容の検討 ー保育者と精神保健福祉士の連携に着目してー	川 崎 医 療 福 祉 大 学 ○ 松 本 優 作 川 崎 医 療 福 祉 大 学 橋 本 勇 人 川 崎 医 療 福 祉 大 学 森 本 寛 訓 就 実 短 期 大 学 土 田 耕 司
P-D-8-11	保育現場における個別支援体制づくりの 取り組みについて	滋 賀 医 科 大 学 ○ 小 池 由 香 里

5月14日(日) 14:00～14:30

ポスター会場

座長：田 淵 久 美 子 ・ 腰 川 一 恵

P-D-9-01	パネルシアターの教材特性に関する検討（３） －“戻り”の実践と子どもの反応－	東 京 家 政 大 学 ○ 柿 沼 芳 枝 聖 学 院 大 学 田 中 正 代
P-D-9-02	幼児のコミュニケーション力育成に向けての実践 －地域の昔話を活用して－	びわこ学院大学短期大学部 ○ 榎 本 恵 理 びわこ学院大学短期大学部 杉 本 栄 子
P-D-9-03	字の少ない絵本の読み聞かせにおける 保育者と幼児のやりとり	高 知 大 学 ○ 玉 瀬 友 美 芸 術 学 園 幼 稚 園 竹 内 文 緒
P-D-9-04	幼稚園教諭における人形劇実践に関する事例的検討 ～人形劇の学修経験有無による比較～	聖 徳 大 学 ○ 金 城 久 美 子 聖 徳 大 学 腰 川 一 恵
P-D-9-05	絵本読み聞かせボランティアが抱える 選書の困難さ「良い絵本とは何か」を探る	倉 敷 市 立 短 期 大 学 ○ 小 久 保 圭 一 郎
P-D-9-06	保育学生による英語絵本の読み聞かせ実践について －英語原書と日本語訳書を併用して－	中 部 大 学 ○ 中 島 眞 吾
P-D-9-07	読み聞かせボランティア養成の変遷とその特徴	彰 栄 保 育 福 祉 専 門 学 校 ○ 野 見 山 直 子 東 海 学 園 大 学 木 本 有 香 吉 備 国 際 大 学 藤 井 伊 津 子 育 英 大 学 田 中 卓 也
P-D-9-08	地域における読み聞かせボランティア活動の 概念と効果に関する文献的検討	大 阪 信 愛 学 院 大 学 ○ 谷 原 舞
P-D-9-09	保育者を目指す学生の「唱歌」「童謡」に 関する意識	帝 京 科 学 大 学 ○ 飯 泉 祐 美 子
P-D-9-10	園内で行われる絵本読みに関する一考察	大 阪 健 康 福 祉 短 期 大 学 ○ 大 内 田 真 理

5月14日(日) 14:00~14:30

ポスター会場

座長：大沢裕・宇佐美かおる

P-D-10-01	公園施策の変遷と子育てをめぐる一考察	柴田学園大学 ○ 安川由貴子
P-D-10-02	あらゆることに敏感な子どもの 養育家庭に対する支援	日本女子大学 ○ 松原乃理子 東洋英和女学院大学 廣部朋美
P-D-10-03	子どもの非認知能力を伸ばす成育環境の評価に 関する検討	川崎医療福祉大学 ○ 岡正寛子 山陽学園短期大学 権田あずさ 川崎医療福祉大学 大江由美
P-D-10-04	幼児の基本的生活習慣の現状と親の意識 ー関東地方と沖縄の状況についてー	目白大学 ○ 高橋弥生 目白大学 谷田貝公昭 松蔭大学 大沢裕 横浜国立大学大学院 室矢真弓 松蔭大学 野川智子 羽田幼児教育専門学校 齋藤恵子 横浜高等教育専門学校 橋本樹 横浜創英大学 長谷川直子 横浜高等教育専門学校 大崎利紀子 子どもの生活科学研究会 野口智津子
P-D-10-05	孫育ての現状と課題(6) ー子育て世代の孫育てに対する態度ー	高田短期大学 ○ 榊原尉津子 愛知みずほ短期大学 杉山佳菜子 皇學館大学 小川真由子
P-D-10-06	孫育ての現状と課題(7) ー大学生の孫育てに対する態度ー	愛知みずほ短期大学 ○ 杉山佳菜子 皇學館大学 小川真由子 高田短期大学 榊原尉津子
P-D-10-07	「家庭で子どもが過ごす」ということ(第2報) ー園と家庭を繋げる遊びー	名古屋柳城女子大学 ○ 菊地篤子 こども教育宝仙大学 宇佐美かおる
P-D-10-08	母親の対乳幼児発話におけるマザリーズ表出特 徴と発話量の関連	名古屋女子大学短期大学部 ○ 神崎奈奈 愛知学泉短期大学 児玉珠美 名古屋大学 宇都木昭 名古屋女子大学短期大学部 大嶽さと子
P-D-10-09	家庭での親子の身体活動に関する調査研究 ー遊び相手に着目してー	神戸女子短期大学 ○ 矢野真理
P-D-10-10	乳幼児の父親・母親の役割分業と 育児意識に関する研究	東京家政大学短期大学部 ○ 平野順子
P-D-10-11	孫育ての現状と課題(5) 祖父母世代と大学生の子育てに関する知識の比較	皇學館大学 ○ 小川真由子 高田短期大学 榊原尉津子 愛知みずほ短期大学 杉山佳菜子
P-D-10-12	ぱくぱく弁当の取組を通した保護者の 弁当作りに対する意識調査	広島大学附属幼稚園 ○ 山田知佳 広島大学附属幼稚園 掛志穂 広島大学大学院 今川真治
P-D-10-13	北海道十勝地方における乳幼児の生活と子育て： オンライン調査の結果から	帯広大谷短期大学 ○ 鹿嶋桃子 社会福祉科子ども福祉専攻
P-D-10-14	佐世保市赤ちゃんふれあい事業 (オンライン)の効果と意義 ー母親へのインタビュー調査からー	西南学院大学大学院博士後期課程 ○ 中ノ子寿子 西南学院大学 門田理世 西南学院大学大学院博士後期課程 岩渕善道 久留米信愛短期大学 増田吹子

5月14日(日) 14:00~14:30

ポスター会場

座長：廣瀬真喜子・椋田善之

P-D-11-01	育ちや学びをつなぐ保幼小連携を意識した取り組み ー都市部での「自然との関わり・生命尊重」を テーマにした活動に着目してー	小田原短期大学 ○ 谷口 征子 小田原短期大学 上山 明子 小田原短期大学 古田 啓一
P-D-11-02	架け橋期の一年生の学びに関する一考察	青山学院大学 ○ 久保寺 節子
P-D-11-03	遊びのなかの言葉をてがかりにした 5歳児の思考力発揮の分析	ベネッセ教育総合研究所 ○ 杉田 美穂 ベネッセ教育総合研究所 小野塚 若菜
P-D-11-04	架け橋プログラムに関する一考察 (2)	中部学院大学 ○ 西垣 吉之 中部学院大学 梅田 裕介
P-D-11-05	架け橋プログラムに関する一考察 (1)	中部学院大学 ○ 梅田 裕介 中部学院大学 西垣 吉之
P-D-11-06	造形教育に関する保育者・教員養成への希望 ー保育者・幼小教員の視点からー	千葉大学 ○ 小橋 暁子 淑徳大学 榎 英子
P-D-11-07	参加型演奏会における幼小の比較 ー5歳児と1年生はどこが違うのかー	帝京大学 ○ 田崎 教子
P-D-11-08	幼小のつながりを意識した保育の動向と展望： 音楽を視点として	広島大学大学院（院生）○ 武島 千明
P-D-11-09	離島地域における保育施設間の連携に関する 保育者の視座	福井大学 ○ 宮本 雄太
P-D-11-10	領域「言葉」における幼保小接続の課題 2	愛国学園保育専門学校 ○ 新海 智子
P-D-11-11	小学校教師による幼児の見取り ー幼保小接続期5歳児に着目してー	福山市立大学 ○ 池田 明子
P-D-11-12	「幼小接続へのアプローチ ー親の不安の解消に向けてー」	玉幼稚園 ○ 荒井 卓真 玉幼稚園 河合 光利
P-D-11-13	インクルーシブ保育を経験した子どもが 就学後に直面する困難	帝京大学 ○ 芦澤 清音 東京都立大学 浜谷 直人 愛知県立大学 山本 理絵

6. 人名索引

人名索引

あ

相澤 京子 K-D-7-01
K-D-7-05
會退 友美 K-B-5-03
K-B-5-04
青井 郁美 P-A-1-03
青井 夕貴 P-C-7-01
P-C-7-03
青木 通 P-A-2-01
青山 佳代 P-B-1-01
赤木 和重 J-A-3
秋國 郁 P-D-5-03
秋田 喜代美 K-C-4-03
論理ガイドブック改訂委員会ランチタイムセッション
実行委員会企画シンポジウムD
秋田 郁 P-A-3-02
秋庭 直美 J-D-1
明柴 聰史 P-B-11-03
浅井 かおり P-B-8-05
浅井 幸子 J-F-8
K-C-1-02
浅井 拓久也 P-B-2-01
P-B-11-10
浅井 広 J-C-9
P-A-8-01
麻生 武 J-D-9
浅香 聡彦 J-E-2
P-A-5-08
浅川 正堂 P-A-7-03
浅川 繭子 P-B-2-03
浅原 麻美 P-D-3-10
朝元 尊 P-C-2-01
芦澤 清音 P-D-11-13
安達 祐亮 P-C-3-11
阿南 寿美子 P-B-9-09
安部 日珠沙 K-D-1-05
阿部 一美 J-D-4
阿部 かほり K-A-4-04
安部 孝 K-B-1-05
阿部 敬信 P-C-10-10
安部 永 P-B-3-05
P-D-6-06
阿部 美波 K-B-8-02
阿部 美穂子 P-B-7-04
P-B-7-07
網島 大輔 P-A-4-13
新井 明子 P-D-7-10
新井 しのぶ K-D-3-05

P-A-5-07
新井 純一 P-B-6-14
荒井 卓真 P-D-11-12
新井 美保子 P-B-8-10
P-D-5-06
学会企画課題研究委員会シンポジウム
荒井 庸子 P-C-5-08
荒木 由紀子 P-B-7-08
有村 さやか P-D-6-09
安藤 香 P-C-1-06
安藤 美緒 P-C-3-11
安藤 みゆき P-B-11-08

い

飯泉 祐美子 P-D-9-09
飯田 明 P-D-8-07
飯田 良太 J-A-8
飯村 愛 P-A-9-09
井内 聖 学会企画編集常任委員会シンポジウム
五十嵐 元子 P-B-6-12
井口 眞美 P-B-4-01
池上 奈摘 P-A-2-07
池田 明子 P-D-11-11
池田 純子 J-D-1
池田 幸代 J-B-2
池田 竜介 実行委員会企画シンポジウムD
池谷 真梨子 K-B-5-03
K-B-5-04
P-A-9-09
諫山 裕美子 P-D-1-07
伊澤 永修 P-A-4-09
伊澤 幸代 K-B-8-02
伊澤 路子 P-A-4-05
石井 章仁 J-D-3
石井 今日子 J-A-9
石井 久美子 P-A-4-11
石井 十郎 P-A-2-01
石井 信子 P-A-9-02
石井 正子 P-A-11-10
P-C-6-03
P-C-7-09
石川 昭義 J-C-3
石川 智子 K-B-6-05
石川 昌紀 P-B-5-09
石川 雅晴 P-C-3-03
石川 ますみ P-A-4-01
石倉 卓子 P-A-5-11

石黒 広昭 J-F-8
石沢 順子 K-C-7-05
K-D-3-02
P-A-2-11
石田 佳織 K-A-9-04
K-D-5-05
石田 祥代 P-D-8-08
石田 由紀子 P-A-8-12
石野 秀明 P-C-10-04
P-D-8-02
石原 忍 P-D-8-06
石本 啓一郎 J-F-2
伊勢 慎 P-C-6-10
磯部 裕子 学会企画編集常任委員会シンポジウム
磯村 正樹 K-B-8-04
P-A-8-04
P-C-4-03
磯山 真子 J-A-6
板橋 華子 K-B-7-02
市川 恵 P-A-3-14
伊坪 有紀子 P-A-6-05
伊藤 久美子 P-A-8-02
P-C-1-01
P-C-2-03
伊藤 桂子 P-A-3-10
伊藤 浩一 J-A-8
伊藤 幸子 K-C-2-04
伊藤 茂美 P-C-6-06
伊藤 照美 P-A-10-09
伊藤 美保子 P-C-3-05
伊藤 美和子 K-A-2-04
伊藤 優 K-B-5-03
K-B-5-04
P-A-4-04
伊藤 綾子 J-D-8
伊藤 路香 P-B-9-13
伊藤 礼子 J-D-1
糸洲 理子 P-D-4-08
井中 あけみ P-C-2-01
P-D-8-03
稲毛 瑞月 P-A-8-09
犬塚 典子 K-B-2-03
伊能 恵子 K-D-8-01
井上 郁 P-C-3-09
井上 聖子 K-C-4-01
井上 清美 J-A-7
井上 孝之 P-C-11-08
P-C-11-09

井上 知香 J-F-8
井上 寿美 J-A-4
井上 真理子 J-C-6
P-C-7-06
井上 美智子 J-C-8
P-B-2-07
P-C-8-03
井上 裕美子 P-B-6-03
井上 利恵子 P-B-7-03
猪熊 弘子 J-C-5
K-C-8-04
伊原 小百合 P-A-3-14
今井 邦枝 P-A-7-13
今井 恵子 P-A-4-09
今泉 明美 P-D-6-09
今川 恭子 P-A-3-14
P-C-9-10
今川 真治 P-D-10-12
今村 麻子 J-E-5
P-A-1-02
井村 礼恵 K-C-5-06
入江 慶太 P-C-11-04
岩狭 匡志 J-D-4
岩崎 淳子 J-F-7
P-C-3-07
岩崎 美智子 P-A-7-11
P-A-7-12
岩崎 良亮 P-C-4-01
岩田 恵子 J-B-7
岩田 遵子 K-A-7-01
岩田 美保 P-D-5-03
P-D-8-04
岩立 京子 国際シンポジウム
岩野 芽衣花 P-C-3-11
岩渕 善道 P-D-10-14
石見 容子 P-B-8-02
P-D-3-08
岩本 邦彦 P-A-3-04
岩本 哲也 J-D-2
P-A-4-07
井辺 和杜 J-E-9
K-A-5-06
K-B-2-01

う

于 丹 P-B-10-08
植草 一世 P-A-7-09
P-A-8-08
P-B-2-04
上田 敏丈 J-C-10
上田 よう子 P-A-11-04

上田 陽子 P-C-3-01
上田 理恵 K-D-6-02
上野 佳奈子 J-F-1
上原 典子 P-B-8-03
上原 真幸 P-B-9-09
上原 由美 P-C-9-02
植松 勝子 P-B-9-03
上 村 晶 P-B-7-06
学会企画編集常任委員会シンポジウム
植村 和彦 P-C-10-14
上 村 毅 P-B-5-02
植村 朋弘 J-C-7
上村 裕樹 P-C-11-08
P-C-11-09
上山 明子 P-C-2-02
P-D-11-01
上山 瑠津子 J-C-2
P-A-8-03
P-C-6-05
鵜川 陽子 P-C-8-08
宇佐美 かおる P-D-10-07
碓氷 ゆかり P-C-7-01
P-C-7-03
宇杉 美絵子 P-A-6-05
宇田川 久美子 J-B-7
内田 祥子 J-F-8
P-A-7-13
実行委員会企画シンポジウムC
内田 千春 J-B-8
内山 伊知郎 P-B-8-01
内山 絵美子 K-D-4-03
内山 沙知 P-A-11-09
内山 由美子 P-D-10-08
宇都木 昭 K-C-2-04
P-C-11-05
P-D-3-01
生越 雅志 P-A-1-07
P-A-1-08
馬立 明美 P-C-5-07
梅田 裕介 P-D-11-04
P-D-11-05
梅野 和人 K-D-3-06
浦野 里美 J-D-1
漆原 勇介 P-B-9-02

え

枝村 美夏 P-A-3-11
P-B-5-11
榎沢 良彦 倫理ガイドブック改訂委員会シンポジウム
榎本 恵理 P-D-9-02
蛭原 正貴 P-A-7-05

江村 和彦 P-B-3-04
遠藤 晶 K-A-6-05
K-D-6-04
遠藤 純子 P-C-7-07
P-D-7-01
遠藤 利彦 J-B-9
K-D-4-01
倫理ガイドブック改訂委員会シンポジウム
遠藤 洋路 実行委員会企画シンポジウムB

お

及川 直樹 P-A-1-01
及川 留美 J-F-7
P-C-3-07
大井 美緒 P-B-9-13
大石 茜 J-F-9
大内 菜恵子 P-D-4-05
大内田 真理 P-D-9-10
大海 由佳 K-A-8-01
大浦 知加 P-C-9-05
P-C-9-06
大江 由美 K-D-5-04
P-B-9-04
P-D-10-03
大方 美香 J-D-3
倫理ガイドブック改訂委員会シンポジウム
大北 理津子 K-B-6-03
大久保 麻彩 K-A-5-04
大崎 利紀子 P-D-10-04
大沢 裕 P-D-10-04
大澤 洋美 P-A-4-09
大城 亜水 P-A-10-03
P-C-5-05
太田 颯子 P-B-5-10
太田 節子 P-B-7-03
太田 直樹 K-D-3-03
太田 美鈴 J-B-8
太田 光洋 P-B-9-07
太田 素子 K-B-1-02
大嶽 さと子 P-D-10-08
大谷 朝 P-B-9-09
大塚 紫乃 J-E-2
P-D-8-05
大槻 育子 P-B-6-11
大坪 祥子 J-C-4
大西 明実 P-C-8-09
P-D-2-10
大西 祐輔 J-A-6
大貫 麻美 K-C-7-05
K-D-3-02
P-D-7-11

大沼 良子	P-A-9-09	小川 真由子	P-D-10-05	鍛治 礼子	K-C-7-05	
大野 歩	J-E-9		P-D-10-06	鹿嶋 桃子	P-D-10-13	
	K-D-4-04		P-D-10-11	柏 まり	P-D-2-13	
大野 沙絵子	J-B-3	小川 美由紀	J-C-4	春日 保人	J-F-7	
大庭 三枝	J-B-1		P-D-7-02		P-C-3-07	
	P-D-2-11	荻野 真知子	K-D-5-04	粕谷 幸代	J-A-6	
大豆生田 啓友	論理ガイドブック改訂委員会フロンティアセッション	荻原 ひろみ	P-B-7-02	粕谷 亘正	J-F-7	
大豆生田 芽吹	K-A-4-03	奥 恵	P-A-9-05		P-C-3-07	
大宮 勇雄	J-A-3		P-C-8-05	片岡 今日子	P-C-4-02	
大村 純子	P-A-4-05	奥 薫 知明	P-C-8-02	片岡 元子	P-C-7-02	
大元 千種	P-A-4-08	小栗 由樹	P-C-7-09	片川 智子	J-F-1	
大森 雅人	P-C-1-07	小坂田 摩由	K-B-1-04	片口 桂	P-B-6-03	
大屋 陽祐	P-A-9-06	尾崎 剛志	J-E-4	片山 知子	K-D-6-05	
	P-A-9-07	尾崎 司	J-B-4	片山 伸子	P-B-1-01	
大和田 明見	P-B-9-10	押部 直也	P-A-1-07	勝浦 眞仁	P-B-5-06	
	P-B-9-12		P-A-1-08		P-C-5-03	
岡田 暁子	P-A-3-09	小田 良枝	P-B-5-08	勝田 みな	K-B-7-04	
岡田 たつみ	P-C-3-02	小田桐 早苗	J-D-10	勝 山 幸	J-A-7	
岡田 摩紀	P-A-3-05	落合 美穂	K-D-6-02	加藤 篤彦	J-F-5	
	P-A-7-03	乙部 はるひ	P-C-9-04	加藤 和成	J-F-6	
	P-A-8-02	音山 若穂	P-C-11-08		K-B-9-04	
岡田 美笛	P-B-5-06		P-C-11-09	加藤 繁美	J-A-3	
岡田 恵	P-A-10-04	小野 順子	J-D-10	加藤 孝士	P-B-9-07	
岡田 泰枝	K-B-2-04		P-D-1-06	加藤 翼	P-C-7-06	
	K-B-2-05	小野 真喜子	P-D-6-10	加藤 望	K-C-6-01	
岡野 雅子	P-A-5-01	小野 友紀	P-C-7-07	加藤 麻衣	K-B-8-02	
	P-A-5-02		P-D-7-01	加藤 真智子	P-C-6-06	
岡花 祈一郎	J-A-3	小野塚 若菜	P-D-11-03	加藤 緑	J-D-10	
	実行委員会企画シンポジウムC	小原 敏郎	K-C-5-01		P-D-2-10	
			P-A-11-08	加藤 美世子	P-B-2-03	
岡部 智子	P-A-3-11	小原 幹代	P-C-6-01	加藤 由美	P-A-10-10	
	P-B-5-11	小櫃 智子	J-D-3	加藤 渡	P-A-7-03	
岡部 祐輝	J-D-2	嚴 正 愛	国際シンポジウム	門倉 洋輔	K-A-2-03	
岡部 祐子	P-B-9-06	小柳津 和博	P-B-5-01	門田 理世	J-B-1	
	P-D-7-07	小 山 顕	P-B-8-08		P-A-10-06	
岡正 寛子	K-D-5-04		P-C-11-06		P-D-10-14	
	P-C-11-04	小 山 望	J-F-6		実行委員会企画シンポジウムB	
	P-D-10-03				実行委員会企画シンポジウムD	
岡本 エミ子	J-A-5	か			金元 あゆみ	K-D-6-05
岡本 眸	P-A-8-09				金森 三枝	P-B-9-10
岡本 拡子	J-C-3					P-B-9-12
岡本 弘子	P-B-6-11	柿崎 次子	P-D-8-06			
	P-B-11-06	柿沼 平太郎	J-F-5	金山 和彦	P-B-7-12	
おかもと みわこ	K-C-5-03		P-C-7-05	蟹江 教子	P-A-1-02	
	P-D-6-03	柿沼 芳枝	P-D-9-01	金子 亜弥	P-A-8-07	
岡本 恵	K-B-4-04	柿本 愛子	P-A-5-06	金子 功一	P-A-7-09	
小川 圭子	P-C-10-13	角地 佳子	K-A-2-02		P-A-8-08	
小川 知晶	J-D-10	掛 志 穂	P-D-10-12		P-B-2-04	
小川 直茂	J-C-1	葛西 健治	K-D-7-02	金子 紗枝子	P-A-9-02	
	K-B-7-01	笠木 奈緒子	P-C-11-01	金 子 幸	P-B-9-09	
	K-B-7-03	笠原 正洋	P-B-10-05	金子 智栄子	P-A-8-08	
小川 久恵	P-C-1-05		P-B-6-13	金子 智昭	P-A-8-08	
小川 房子	P-A-8-12	笠間 浩幸	P-C-4-07	金子 日菜乃	P-C-8-09	

金田 利子 J-D-9
 兼間 和美 P-A-8-12
 加納 章 P-A-10-04
 加納 拓朗 K-B-4-06
 梶島 香代 K-A-3-04
 P-C-3-11
 兜森 千可 P-A-3-03
 鎌田 桃代 P-D-5-06
 神尾 美香子 K-D-6-05
 上垣内 伸子 P-B-7-10
 神谷 睦代 P-A-6-06
 亀井 以佐久 K-A-7-03
 亀ヶ谷 元讓 J-C-6
 P-C-3-08
 亀崎 美沙子 P-B-6-07
 亀田 華世子 J-B-2
 亀山 秀郎 J-F-3
 軽部 妙子 K-B-8-05
 河合 清美 K-B-8-02
 川合 真由美 P-A-9-10
 河合 光利 P-D-11-12
 河合 玲子 P-C-2-11
 川上 一恵 学会企画課題研究委員会シンポジウム
 川北 典子 P-C-10-02
 川喜田 昌代 P-B-11-06
 川口 めぐみ P-D-6-08
 P-D-8-02
 川崎 恵里菜 J-E-5
 川崎 徳子 J-E-7
 K-A-7-04
 河崎 美香 P-A-5-11
 河崎 道夫 国際シンポジウム
 川島 直子 P-A-10-03
 P-C-5-05
 川田 学 J-E-10
 学会企画編集委員会シンポジウム
 川地 亜弥子 J-F-2
 川中 義博 P-D-7-08
 河端 敬法 K-D-6-02
 川畑 尚子 P-C-10-12
 川端 美穂 P-B-7-11
 河原 麻子 J-F-5
 川東 佳歩 P-D-3-10
 河邊 貴子 P-A-11-02
 川辺 尚子 P-D-3-01
 川邊 音生 P-D-7-09
 川俣 美砂子 P-C-8-10
 河村 圭 P-B-2-06
 P-B-6-11
 川村 高弘 P-A-10-05
 川村 啓子 P-B-10-01
 河村 真理子 P-B-6-11

神崎 奈奈 P-D-10-08

P-B-11-05

き

菊地 篤子 P-D-10-07
 菊地 みぎわ K-C-3-01
 K-C-3-02
 岸 久美子 P-A-7-01
 P-A-7-02
 岸川 良子 P-C-9-12
 岸野 麻衣 K-B-6-02
 岸本 美紀 P-C-5-01
 木曾 陽子 K-A-9-02
 K-C-6-03
 K-C-6-04
 木田 千晶 K-C-4-02
 P-A-8-04
 北川(桑原) 公美子 P-B-1-03
 北野 明子 P-A-3-01
 北野 幸子 P-D-3-10
 北濱 千枝子 P-B-8-05
 北村 真理 P-B-11-11
 北山 千嘉子 P-B-4-10
 木戸 啓子 J-B-1
 木戸 貴弘 P-A-2-09
 木戸 直美 P-D-2-09
 木戸 啓絵 J-C-8
 木下 藍 P-B-3-03
 木下 育子 P-D-4-05
 木下 和彦 P-A-10-07
 木下 由香 P-D-5-04
 木下 裕美子 P-B-7-09
 金 慶 喆 国際シンポジウム
 金 仙 玉 P-B-5-05
 金 玫 志 J-F-7
 P-C-3-07
 金 珉 呈 国際シンポジウム
 木村 彰子 P-B-7-11
 木村 創 J-C-9
 P-C-4-04
 木本 有香 P-A-11-03
 P-D-9-07
 刑部 育子 J-C-7
 桐川 敦子 P-A-2-02
 P-A-2-03
 桐原 誠 実行委員会企画シンポジウムA
 桐原 由美 P-C-8-07
 桐山 由香 K-D-2-04
 金城 久美子 P-D-9-04
 金 城 悟 J-B-4
 P-A-8-09
 P-B-6-11

く

草場 美穂子 J-A-5
 楠本 洋子 P-C-10-04
 葛谷 潔昭 P-A-11-06
 P-C-9-01
 工藤 佳代子 P-A-8-09
 工藤 英美 P-B-5-05
 国藤 真理子 P-A-3-05
 P-A-8-02
 P-D-6-01
 久保 健太 J-B-5
 久保田 健一郎 K-B-2-02
 久保田 智裕 P-B-8-11
 窪田 由紀 J-A-5
 久保寺 節子 P-D-11-02
 熊谷 賢 P-D-1-01
 熊谷 享子 P-D-8-03
 熊田 凡子 J-E-6
 久米 裕紀子 K-A-6-05
 K-D-6-04
 倉畑 萌 P-D-4-01
 倉原 弘子 P-B-3-09
 倉盛 美穂子 J-C-2
 栗岡 洋美 P-B-10-11
 栗原 啓祥 K-A-4-02
 栗本 浩二 P-C-8-05
 黒岩 茉由 K-D-7-04
 黒崎 知子 J-C-10
 黒瀬 悠巴 P-B-2-02
 郡司 明子 J-C-7

こ

小池 由香里 P-D-8-11
 古池 若葉 P-B-8-09
 小磯 久美子 K-D-3-06
 小出 馨 P-B-2-03
 甲賀 崇史 P-A-5-05
 幸喜 健 P-C-3-01
 P-C-8-01
 郷家 史芸 K-D-5-03
 香崎 智郁代 P-C-10-05
 香曾我部 琢 J-B-9
 K-B-4-05
 K-D-5-03
 P-A-8-05
 国府田 はるか K-D-2-02
 幸田 瑞穂 P-B-4-06
 P-D-2-02

光本 弥生 J-C-2
 古賀 松香 J-E-10
 古賀 萌子 P-A-8-11
 小木曾 友則 P-C-6-04
 小久保 圭一郎 P-D-9-05
 小崎 恭弘 K-B-4-05
 P-A-11-07
 P-C-11-03
 腰川 一恵 P-D-9-04
 小島 千恵子 J-D-10
 児嶋 輝美 P-A-9-02
 小島 佳子 K-C-4-04
 小島 好美 P-B-10-06
 小杉 裕子 P-D-4-04
 小関 慶太 P-B-11-01
 P-B-11-02
 児玉 珠美 J-B-8
 P-D-10-08
 小玉 亮子 K-D-1-03
 後藤 紀子 K-A-8-03
 後藤 祐子 K-B-3-03
 K-B-3-04
 後藤 由美 P-D-3-03
 P-D-7-05
 小西 貴士 J-C-8
 小沼 律子 K-A-6-02
 古野 愛子 P-B-6-11
 小橋 暁子 P-D-11-06
 小林 馨之 J-B-8
 小林 佐知子 K-D-2-05
 小林 さとみ P-D-7-12
 小林 さゆり K-B-9-04
 小林 祥子 K-D-3-01
 小林 直実 P-C-3-09
 小林 真 P-A-8-13
 駒 久美子 K-D-5-03
 P-A-3-07
 P-C-9-08
 小松 歩 J-D-9
 小松 仁美 P-B-11-02
 小室 明久 K-A-3-03
 小屋 美香 J-F-4
 P-A-6-02
 P-A-6-04
 小山 朝子 P-D-7-03
 小山 憲一郎 P-C-6-10
 小山 玲子 K-A-6-04
 古和 友子 P-A-8-03
 P-C-6-05
 権田 あずさ P-D-10-03
 近藤 明枝 J-F-9
 近藤 千草 K-C-5-03

 P-D-1-03
 今野 佳代 K-D-5-01
 さ
 才賀 敬 P-C-3-04
 佐伯 千穂 J-C-4
 P-D-7-02
 斉木 美紀子 P-C-1-02
 斎藤 晶海 P-C-3-09
 斎藤 佳津子 K-B-3-01
 斎藤 恵子 P-D-10-04
 斎藤 恵子 P-B-6-11
 斎藤 正人 K-B-7-03
 齊藤 美羽 P-A-3-07
 齋藤 由佳 K-B-9-04
 佐伯 岳春 P-B-3-05
 P-D-6-06
 佐伯 胖 J-B-7
 阪 まどか P-B-1-05
 P-B-1-06
 境 愛一郎 K-A-4-02
 酒井 教子 P-B-5-04
 酒井 範子 P-C-8-06
 酒井 治子 K-B-5-03
 K-B-5-04
 酒井 真由子 K-D-5-06
 酒井 基宏 K-C-6-05
 P-D-2-01
 境 佑二 J-E-2
 榊原 尉津子 P-D-10-05
 P-D-10-06
 P-D-10-11
 榊原 剛 P-C-8-07
 榊原 久子 J-B-6
 逆井 直紀 J-D-7
 坂崎 隆浩 J-B-6
 坂田 哲人 P-C-7-06
 P-D-2-03
 坂田 紘子 P-A-4-07
 坂根 早織 J-B-3
 坂本 圭佑 K-A-2-01
 坂本 真理子 P-A-5-01
 P-A-5-02
 坂元 美帆 P-C-5-04
 相良 順子 P-C-11-01
 P-C-11-02
 相樂 真樹子 K-B-1-01
 佐川 早季子 J-E-10
 K-B-4-05
 佐木 彩水 P-A-5-09
 P-C-3-06

佐木 玲水 P-A-5-09
 P-C-3-06
 崎山 ゆかり P-A-1-04
 P-B-11-11
 作田 千夏 K-D-6-02
 佐久間 良恵 P-B-9-05
 佐久山 有美 K-A-6-02
 桜井 ますみ P-C-10-08
 迫田 圭子 K-A-3-06
 佐々木 晃 K-A-6-03
 学会企画課題研究委員会シンポジウム
 佐々木 麻美 J-D-8
 佐々木 郁子 P-D-6-04
 佐々木 恵理 P-A-9-08
 佐々木 沙和子 P-B-6-10
 佐々木 実紀 K-D-4-05
 佐々木 美和 K-A-8-02
 佐々木 由美子 J-C-3
 佐々木 由美子 K-D-7-01
 K-D-7-05
 佐々木 友里 P-C-9-01
 笹山 雅司 J-A-2
 定行 加保里 P-C-10-07
 佐藤 和順 P-D-2-13
 佐藤 志図 P-B-6-12
 佐藤 純子 P-B-10-01
 佐藤 隆弘 J-B-4
 P-A-7-11
 P-A-7-12
 佐藤 ちひろ P-B-8-07
 佐藤 久恵 P-D-2-05
 佐藤 寛子 J-D-8
 佐藤 寛子 P-A-2-06
 佐藤 浩代 K-B-1-03
 佐藤 牧子 K-C-5-03
 佐藤 康富 J-B-4
 P-C-3-08
 P-C-8-09
 佐藤 有香 P-A-9-09
 里見 達也 P-D-2-10
 佐野 真一郎 P-A-11-06
 鮫島 良一 P-C-4-04
 澤田 優子 P-D-6-09
 澤村 桂 P-D-3-03
 し
 椎橋 げんき K-C-7-05
 K-D-3-02
 P-D-7-11
 塩川 寿平 P-C-4-08
 塩崎 みづほ P-A-3-06

塩崎 美穂 J-A-3
K-D-1-01
塩野谷 祐子 P-A-2-05
汐見 和恵 K-A-5-05
塩見 一成 P-C-8-12
汐見 稔幸 K-A-1-04
論理ガイドブック改訂委員会ランタイムセッション
学会企画課題研究委員会シンポジウム
敷村 一元
地下 まゆみ P-C-8-03
茂井 万里絵 P-B-5-09
穴戸 良子 P-D-3-02
鎮 朋子 P-D-7-04
實川 慎子 P-C-10-01
司馬 政一 J-C-5
柴田 賢一 K-C-1-05
柴田 精一 K-B-3-01
柴田 長生 P-B-6-01
柴田 直美 K-A-5-05
柴田 法子 P-C-1-01
柴田 法子 P-C-2-03
渋谷 郁子 K-C-4-04
澁谷 倫子 J-A-8
島田 知和 P-B-9-09
寫田 弘子 K-B-8-04
P-A-8-04
島田 由紀子 P-C-9-07
嶋野 隆文 J-F-5
嶋野 珠生 P-C-8-12
清水 憲志 P-A-11-05
清水 里美 P-D-8-09
清水 すみれ K-A-5-05
清水 益治 P-C-7-01
P-C-7-03
清水 陽子 P-C-10-14
国際シンポジウム
実行委員会企画シンポジウムC
ト田 真一郎 J-B-1
下内 新吾 P-A-9-02
下口 美帆 P-A-9-03
下里 里枝 P-D-8-02
下地 香里 J-B-2
下地 香里 J-B-3
庄司 妃佐 P-A-9-09
喰田 直美 P-B-10-09
白井 智子 K-B-4-02
P-D-2-08
P-D-5-10
白石 恵里 K-D-3-05
白石 雅紀 J-A-1
白石 淑江 J-F-8
K-B-2-04
K-B-2-05

K-D-4-03
白川 佳子 P-A-11-08
白取 真実 P-B-6-12
新海 智子 P-D-11-10
進藤 容子 P-A-8-10
新保 雄希 J-E-2
新家 智子 P-A-5-10

す

水津 幸恵 J-B-5
末寄 雅美 P-B-9-09
末次 絵里子 K-C-2-03
菅 眞佐子 P-A-4-10
菅井 洋子 J-D-1
P-A-5-03
P-A-5-04
菅原 信子 J-D-7
杉浦 真紀子 J-E-7
杉江 栄子 P-D-5-06
杉田 美穂 P-D-11-03
杉原 真晃 P-C-9-10
杉本 栄子 P-D-9-02
杉本 一久 K-D-4-02
杉本 桂子 J-C-1
杉本 貴代 K-A-5-03
杉山 佳菜子 P-D-10-05
P-D-10-06
P-D-10-11
P-D-4-02
杉山 喜美恵 P-D-4-02
杉山 健人 K-A-6-03
杉山 祐子 P-B-9-03
鈴木 彬子 P-A-8-01
鈴木 暁範 J-A-2
鈴木 あゆみ P-B-10-01
鈴木 えり子 P-B-6-06
鈴木 健史 J-A-6
鈴木 祥子 P-C-6-03
鈴木 順子 P-C-10-03
鈴木 直江 K-A-3-02
鈴木 範之 P-B-1-05
P-B-1-06
鈴木 真由美 P-D-2-07
鈴木 美枝子 P-B-11-06
P-B-11-07
鈴木 みゆき J-F-4
鈴木 康弘 P-C-10-11
鈴木 裕子 P-A-1-05
鈴木 悠太 J-C-9
鈴木 玲子 P-D-8-07
須藤 茉衣子 P-C-11-03
須永 真理 P-B-10-02

須永 美紀 P-B-9-11
砂上 史子 J-B-9
隅田 望美 J-D-5

せ

清和 友美 P-C-8-04
石 暁玲 K-A-9-05
関川 満美 P-C-8-01
関川 芳孝 K-C-6-03
K-C-6-04
関口 はつ江 P-A-1-07
P-A-1-08
P-B-7-03
関口 由季子 P-A-7-01
P-A-7-02
関根 映子 P-C-3-09
関山 隆一 K-C-3-03
P-D-3-04
瀬戸 淳子 P-B-10-07
P-B-10-10
瀬沼 幹太 J-C-5
妹尾 正教 K-C-3-01
K-C-3-02
千崎 響子 J-C-10
仙田 考 J-A-2
P-C-1-02
P-C-4-04
船場 ひさお J-F-1

そ

相馬 靖明 P-B-6-08
副島 里美 K-A-7-05
爾 寛明 J-D-6
P-B-7-05
曾野 麻紀 P-C-1-08
園川 緑 P-B-2-04
染谷 雅広 P-C-5-09

た

Dalrymple 規子 J-D-5
高井 謙 P-C-7-08
高市 京佳 K-A-2-02
高尾 淳子 P-B-5-03
高鴨 麻実 K-A-2-02
高木 夏奈子 P-C-2-07
高木 悠哉 J-F-3
高嶋 景子 P-A-11-02
高杉 洋史 P-A-4-01
高杉 美稚子 P-A-4-01

高田 ミカ K-A-2-01
 高田 由香理 K-C-8-05
 高野 史朗 P-B-4-10
 高橋 うらら P-C-2-01
 高橋 香織 K-C-8-03
 高橋 健介 J-C-9
 高橋 順子 P-D-2-06
 高橋 貴志 P-D-7-11
 高橋 睦子 J-D-5
 高橋 弥生 K-C-5-03
 P-D-10-04
 高橋 陽子 K-A-9-03
 高橋 洋行 P-A-8-01
 高橋 依子 K-A-3-05
 高畑 祐子 P-A-7-11
 P-A-7-12
 高原 和子 P-A-2-08
 P-A-4-06
 高間 準 K-B-3-02
 高村 真希 J-E-2
 P-A-5-08
 瀧 信子 P-A-2-08
 P-A-4-06
 瀧川 光治 学会企画編集常任委員会シンポジウム
 滝口 圭子 K-B-4-05
 瀧口 優 J-D-9
 P-B-11-06
 滝沢 ほだか P-A-9-04
 P-C-9-03
 田口 賢太郎 P-D-3-07
 田熊 美保 実行委員会企画シンポジウムB
 竹井 史 P-C-4-05
 竹内 直美 P-A-9-01
 竹内 日登美 P-C-8-10
 武内 裕明 K-A-1-05
 竹内 文緒 P-D-9-03
 竹下 徹 実行委員会企画シンポジウムA
 竹下 則子 P-A-7-04
 武島 千明 P-D-11-08
 竹田 恵 K-D-6-03
 竹田 祐子 J-F-9
 武山 美子 P-B-8-01
 田坂 嘉章 J-E-9
 田崎 教子 P-D-11-07
 田澤 里喜 J-C-6
 多田 琴子 J-B-3
 田爪 宏二 P-B-8-06
 P-C-1-04
 立本 千寿子 P-B-11-09
 田中 亜希子 K-C-8-03
 田中 謙 J-B-2
 K-D-1-06

田中 健介 J-C-6
 田中 健太郎 J-F-9
 田中 沙織 P-A-2-10
 田中 孝尚 P-D-3-10
 田中 卓也 J-D-10
 P-A-6-07
 P-D-2-10
 P-D-9-07
 田中 敏明 実行委員会企画シンポジウムC
 田中 万紀 P-C-10-13
 田中 正代 P-D-9-01
 田中 麻里 P-C-5-04
 田中 三保子 P-B-7-03
 田中 幸 J-F-2
 P-C-3-09
 田中 裕子 P-B-4-05
 田中 亨胤 J-B-3
 田中 理絵 K-C-3-04
 田中 るみこ P-B-4-04
 棚瀬 佳見 P-C-5-02
 棚橋 裕子 P-B-6-09
 田辺 昌吾 J-D-2
 谷口 聖 P-B-2-01
 谷口 征子 P-C-2-02
 P-D-11-01
 谷口 良美 K-C-8-01
 K-C-8-02
 谷原 舞 P-D-9-08
 谷村 寛子 J-A-9
 種村 暁也 K-D-5-04
 P-B-9-04
 梶 瑞希子 K-B-9-05
 多保田 治江 P-C-2-05
 玉川 朝子 P-C-11-07
 玉瀬 友美 P-B-7-11
 P-C-8-10
 P-D-9-03
 玉田 裕人 P-A-3-05
 P-A-8-02
 P-D-6-01
 田村 佳世 P-C-1-01
 P-C-2-03
 田村 禎章 J-E-4
 垂見 直樹 K-A-6-01
 K-B-9-02
 K-D-6-01
 田甫 綾野 P-B-6-05
 P-B-9-11

ち
 崔 美美 K-C-4-03

千葉 綾子 K-A-3-02
 千葉 武夫 P-C-7-01
 P-C-7-03
 千葉 千恵美 K-A-9-01
 千葉 直紀 K-D-5-06
 中鉢 路子 J-F-6
 丁子 かおる P-B-3-02
 P-C-1-09

つ

塚越 亜希子 J-D-10
 P-D-2-10
 津川 典子 P-A-8-03
 P-C-6-05
 月澤 未来 K-B-9-04
 辻谷 真知子 K-A-9-04
 P-C-11-05
 P-D-3-01
 津田 綾子 K-D-5-03
 津田 純佳 J-C-7
 津田 由加子 K-B-4-02
 P-D-2-08
 P-D-5-10
 土田 珠紀 P-D-7-04
 土谷 長子 J-E-4
 恒川 丹 K-C-5-01
 鶴 宏史 K-C-6-03
 K-C-6-04
 P-B-6-07
 鶴巻 直子 K-B-9-04

て

勅使 千鶴 国際シンポジウム
 出戸 美智代 P-B-7-04
 P-B-7-07
 寺川 夫央 P-A-8-06
 寺見 陽子 P-D-7-13
 手良村 昭子 P-D-5-07
 寺本 暁子 P-D-3-03
 照井 信樹 P-D-1-01
 照屋 建太 P-C-4-01
 P-D-4-08
 天勝 かおり J-C-3
 田頭 初美 P-C-3-13

と

當銀 玲子 P-A-3-08
 藤後 悦子 J-A-1
 P-D-8-08

東條 文治 P-B-11-04
 當 銘 美菜 P-D-2-12
 土江田 織枝 P-A-9-13
 徳田 克己 P-B-10-04
 P-C-5-06
 土田 耕司 P-D-8-10
 戸田 大樹 P-B-9-05
 戸田 雅美 K-A-1-03
 土橋 久美子 P-A-2-11
 富岡 量秀 P-A-7-10
 富川 佐和子 P-A-11-10
 富田 京子 K-A-6-02
 富田 昌平 J-D-9
 富田 ちひろ P-B-10-01
 富田 久枝 J-F-3
 富田 雅子 K-B-9-03
 友永 良子 P-B-9-03
 P-C-2-04
 豊田 和子 P-B-1-01
 P-B-5-08
 豊永 麻美 J-E-8
 鳥居 希安 K-A-1-03
 鳥海 弘子 P-B-11-10
 P-C-10-09
 P-D-2-10

な

内藤 知美 P-B-11-06
 仲 明 子 P-C-8-07
 中井 和弥 K-A-7-06
 永井 久美子 P-A-8-05
 長井 覚子 P-A-3-14
 P-D-1-05
 中井 清津子 P-A-4-10
 P-A-8-10
 P-B-9-08
 永井 弘人 K-A-8-04
 永井 竜司 J-B-8
 長岡 交子 K-C-7-01
 中川 智之 J-B-1
 K-D-5-04
 P-B-9-04
 中川 美織 J-E-5
 永里 香織 J-F-9
 中澤 幸子 P-C-8-06
 中重 直俊 P-B-6-02
 中嶋 一郎 J-E-3
 P-B-7-01
 中島 眞吾 J-D-10
 P-D-9-06
 中 島 一 P-C-7-01

 P-C-7-03
 中島 美穂 P-B-6-13
 仲条 幸一 K-D-2-03
 永田 恵実子 P-C-6-06
 中田 範子 K-D-5-03
 中武 亮子 P-D-7-02
 中谷 奈津子 K-A-9-02
 K-C-6-03
 K-C-6-04
 中谷 桃子 J-A-7
 中津 功一朗 P-C-11-07
 中塚 良子 P-A-10-04
 中坪 史典 J-C-10
 K-C-6-01
 中西 さやか P-B-7-11
 中西 利恵 P-C-8-11
 中野 一茂 J-E-4
 中野 圭子 P-A-7-06
 P-A-7-07
 中 野 晋 K-C-7-02
 K-C-7-03
 永野 典詞 実行委員会企画シンポジウムA
 中野 真樹 P-D-2-10
 長野 未来 K-B-5-01
 長野 萌映 P-D-3-10
 中ノ子 寿子 P-D-10-14
 実行委員会企画シンポジウムD
 中橋 美穂 P-A-4-12
 中見 仁美 P-B-8-11
 中村 愛 P-A-7-06
 P-A-7-07
 中村 章啓 J-C-5
 P-D-3-09
 中村 佐里 K-C-5-02
 K-C-5-05
 中村 麻衣子 P-A-10-01
 P-A-10-02
 中村 光絵 P-A-6-05
 中村 恵 J-E-8
 K-B-4-03
 仲村 幸浩 J-F-7
 中村 好郎 実行委員会企画シンポジウムB
 中村 理沙 K-C-2-05
 仲本 美央 J-F-4
 P-A-6-02
 P-A-6-04
 P-D-5-02
 中山 智哉 P-B-9-07
 中山 晴美 P-B-9-02
 P-C-11-02
 中山 恵 P-C-6-09
 流田 絵美 P-A-4-07

梨本 竜子 P-D-6-02
 那須 とよみ P-B-5-04
 那須 信樹 J-B-6
 P-A-5-06
 名須川 知子 J-F-3
 七木田 敦 J-E-9
 K-A-5-06
 K-B-2-01
 K-D-4-04
 鍋島 恵美 P-A-4-09
 並木 真理子 P-A-2-02
 P-A-2-03
 浪越 一喜 P-A-2-01
 成田 朋子 P-C-7-01
 P-C-7-03
 難波 れい子 J-C-4
 南谷 悠子 P-B-9-03

に

二井 仁美 P-B-7-11
 新美 洋祐 P-D-5-06
 新山 順子 P-A-11-01
 西 隆太郎 P-C-3-05
 西井 宏之 J-C-6
 西垣 直子 P-C-3-10
 西垣 吉之 P-D-11-04
 P-D-11-05
 西川 正晃 P-C-6-08
 西川 美帆 P-A-6-08
 P-C-3-12
 西口 裕久子 P-A-9-08
 西田 季里 K-D-4-01
 西田 希 K-A-3-04
 K-C-5-03
 西出 悦子 P-D-6-07
 西村 志磨 P-B-3-04
 西村 真実 P-D-7-04
 西村 実穂 K-C-7-02
 K-C-7-03
 西村 佳子 P-C-7-08
 西山 修 学会企画課題研究委員会シンポジウム
 西山 かおり J-A-5
 日光 恵利 P-D-6-08
 二宮 貴之 K-C-3-05
 二宮 千賀子 J-D-4
 二宮 紀子 K-B-3-05
 P-D-6-05
 二宮 祐子 P-A-9-09
 学会企画編集常任委員会シンポジウム
 庭野 晃子 P-C-6-11

ぬ

沼田 祥子 P-D-3-10

ね

根橋 杏美 P-C-3-09

根本 京子 K-C-3-01

K-C-3-02

の

野川 智子 P-D-10-04

野木 恭子 J-D-1

野口 紗生 J-F-1

野口 隆子 J-C-10

実行委員会企画シンポジウムD

野口 智津子 P-D-10-04

野澤 祥子 J-B-9

K-B-4-05

野澤 純子 J-A-1

P-D-8-08

野澤 義隆 J-A-1

野尻 美枝 K-C-1-01

野田 敦史 J-A-1

野田 さとみ P-A-10-08

野田 多佳子 P-B-7-02

野中 千都 P-D-4-07

野々山 貴 P-B-5-01

信國 千紗 J-A-5

信田 るい P-B-2-08

野見山 直子 J-D-10

P-D-9-07

野呂 アイ P-B-11-06

は

灰谷 知子 K-A-9-03

羽岡 佳子 P-C-2-12

萩野 道世 P-D-4-02

朴 賢 晶 P-A-3-05

P-A-8-02

P-D-6-01

橋本 彩子 K-D-5-04

橋本 樹 P-D-10-04

橋元 知子 P-A-10-01

橋本 勇人 J-B-1

K-D-5-04

P-C-11-04

P-D-8-10

蓮田 健 基調講演

長谷 範子 P-B-1-04

長谷 秀揮 P-C-2-08

長谷川 恭子 P-A-3-06

P-C-10-09

長谷川 景子 P-D-7-07

長谷川 直子 P-D-10-04

長谷川 春香 P-A-3-12

櫛山 ゆかり P-B-4-10

波田埜 英治 P-C-7-01

P-C-7-03

秦野 悦子 P-B-10-07

P-B-10-10

波多野 和彦 K-C-5-02

K-C-5-05

八田 清果 P-C-8-05

服部 敬子 J-D-4

服部 伸一 J-A-4

服部 雪絵 J-A-9

花島 慶子 P-B-8-03

P-D-8-07

花原 真理子 P-B-10-03

花 輪 充 P-C-9-11

学会企画課題研究委員会シンポジウム

羽根 由美子 P-B-1-02

羽地 知香 P-A-10-11

馬場 みさき P-B-6-04

浜口 順子 K-A-6-02

P-C-11-05

濱口 実紗希 P-B-8-10

濱田 瑞穂 J-E-5

浜谷 直人 P-D-11-13

実行委員会企画シンポジウムD

濱 名 潔 J-B-7

林 浩子 J-B-1

林 恵 J-E-1

林 悠子 J-E-1

原 友美 P-D-6-07

原口 喜充 K-D-6-01

原口 富美子 P-A-8-10

原口 るみ K-C-7-05

K-D-3-02

原野 明子 P-B-9-07

服巻 真須美 P-B-8-11

韓 在 熙 J-E-1

国際シンポジウム

伴 浩美 P-B-4-07

半田 結 J-A-4

ひ

東 義也 J-E-6

東村 知子 J-E-10

樋口 一成 P-C-1-10

樋口 さおり K-B-6-06

日隈 美代子 P-C-8-06

日高 由貴 K-B-3-01

姫田 知子 P-B-9-07

平井 恭子 P-B-2-02

平出 朝子 K-B-8-02

平尾 憲嗣 P-A-9-04

平川 晃基 P-A-4-07

平澤 節子 K-D-2-01

平田 美紀 P-A-10-11

平田 由季子 P-A-11-01

平沼 博将 J-D-4

平野 順子 P-D-10-10

平野 知見 J-B-1

平原 藍 K-C-8-03

平松 知子 J-D-7

平松 美由紀 P-D-4-03

平山 猛 J-B-6

平山 祐一郎 J-B-4

廣沢 仁美 K-A-3-04

廣 陽子 J-A-4

廣瀬 団 K-A-3-01

廣瀬 真喜子 P-A-10-11

P-B-8-06

広瀬 由紀 J-F-5

K-B-9-04

P-B-5-10

P-D-8-04

弘田 みな子 K-B-3-01

弘田 陽介 J-C-2

廣部 朋美 K-D-6-02

P-D-10-02

髯櫛 久美子 P-A-10-08

ふ

深沢 佐恵香 P-C-3-14

深澤 南土実 P-B-1-05

P-B-1-06

深谷 野亜 P-B-6-11

府川 汐莉 P-C-3-01

福澤 惇也 P-D-4-09

福元 真由美 倫理ガイドブック改訂委員会ランチタイムセッション

福山 多江子 P-A-4-09

藤井 伊津子 P-D-9-07

藤井 千里 P-D-3-05

P-D-3-06

藤岡 郁子 K-B-6-04

藤川 志つ子 J-D-1

P-A-5-03

P-A-5-04

藤崎 亜由子 P-A-7-08

P-C-1-03

藤田 篤 J-C-1
K-B-7-01

藤田 一郎 J-D-5

藤田 公和 P-A-7-03

藤田 久美 J-E-9
P-D-8-01

藤田 清澄 K-D-5-03
P-C-6-02

藤田 貴久 K-B-4-02
P-D-2-08
P-D-5-10

藤田 哲也 P-A-9-12

藤田 寿伸 J-C-7
K-C-1-03
K-C-1-04

藤谷 未央 K-D-1-02

藤野 正和 K-B-6-06

藤巻 裕昌 P-A-7-03

藤元 恭子 P-B-9-01

藤本 朋美 P-B-9-09

藤森 平司 J-D-6
P-B-7-05

藤原 明子 P-A-6-05
P-C-2-10

藤原 一子 P-A-9-04

藤原 みつ子 J-A-2

布施 仁 P-A-2-04

二子石 諒太 P-B-9-09

刈岡 大起 P-A-11-12

舟越 美幸 P-A-11-11

船田 鈴子 P-A-4-11

船本 孝子 P-A-9-02

舟山 千佳 J-E-3
P-B-7-01

舟生 直美 K-A-4-01
P-C-1-02

麓 洋介 P-A-3-09

古田 啓一 P-C-2-02
P-D-11-01

古田 美津子 K-C-8-01
K-C-8-02

古橋 さつ子 P-D-5-06

古林 ゆり P-B-9-09

古本 奈奈代 P-A-9-02

古山 律子 P-C-9-09

へ

戸次 佳子 P-A-6-03
P-B-6-14

別府 祐子 P-D-5-01

ベルガー 有希子 J-D-6

ほ

ポーター 倫子 P-A-4-03

保木井 啓史 K-D-5-03

保坂 遊 P-B-3-07

星 順子 K-D-6-02

星 三和子 P-B-7-10

星 川守 J-B-3

星崎 明里 K-B-3-03
K-B-3-04

星野 秀樹 P-A-7-03

星野 美穂子 P-D-5-08

星野 優芽 K-D-5-02

細田 淳子 P-A-3-04

堀田 博史 J-A-8

堀田 亮 K-D-6-01

堀 建治 P-D-4-04

堀 聡子 J-A-7

堀 科 K-A-5-04
P-A-8-09
P-D-7-06

堀 智晴 J-F-6

堀 美鈴 P-C-6-07

堀越 紀香 J-F-5

堀之内 信子 J-C-1

本江 理子 P-C-7-04

本田 郁子 P-B-4-08

ま

前川 洋子 P-B-9-05

前田 武司 J-A-6

前田 英範 J-D-6

前田 寛子 P-D-1-04

前田 舞子 P-B-6-04

前田 弥生 P-C-6-06

前德 明子 J-F-4

前德 明子 P-C-8-05

曲田 映世 P-B-9-08
P-C-8-11

槇 英子 P-A-10-07
P-A-3-08
P-D-11-06

牧 亮太 P-A-8-03
P-C-6-05

牧野 順子 P-A-11-02

正平 辰男 P-C-4-09

増田 吹子 P-D-10-14

増田 まゆみ J-D-3
P-C-7-05

町田 理恵 K-A-4-04

松井 剛太 J-D-2
K-B-4-05

松井 みさ P-C-2-09

松井 祐 P-C-9-05
P-C-9-06

松井 雄一郎 J-D-3

松尾 杏菜 K-C-2-04

松岡 佳子 J-F-6

松倉 佳子 P-B-8-07

松寄 洋子 P-A-2-11

松島のり子 P-C-11-05
P-D-1-02

松島 英恵 P-D-4-10

松田 こずえ K-B-9-01
P-A-10-02

松田 聖子 K-D-7-03
P-B-4-02

松田 登紀 J-E-8

松田 ほなみ P-B-3-10

松永 静子 K-A-1-04

松延 毅 K-D-5-03

松原 敬子 P-A-7-09

松原 乃理子 P-D-10-02

松原 末季 P-B-2-05

松本 亜香里 P-D-4-04

松本 和美 P-B-4-02

松本 信吾 J-C-8

松本 知子 J-F-1

松本 なるみ P-A-7-11
P-A-7-12

松本 法尊 P-D-3-10

松本 博雄 J-F-2

松本 真理子 P-D-3-03

松本 優作 K-D-5-04
P-C-11-04
P-D-8-10

松山 綾子 P-B-4-03
P-B-5-07

松山 聖奈 P-D-3-10

松山 有美 J-E-1

松山 洋平 J-A-2

真宮 美奈子 P-C-4-06

丸谷 充子 P-A-9-09

み

三浦 主博 K-C-5-01

水枝谷 奈央 P-D-7-04

三上 裕里枝 K-D-6-05

三島 秀晃 K-D-7-03

水上 彰子 P-C-7-01
P-C-7-03

水 崎 誠 J-E-8
P-A-1-09
水田 明光 J-D-6
水谷 誠孝 P-A-3-09
水野 かおり J-E-5
水野 智美 P-B-10-04
P-C-5-06
溝邊 和成 P-A-4-07
三井 真紀 J-E-1
三ツ石 行宏 P-C-8-10
密城 吉夫 K-B-8-03
三友 怜子 P-B-8-03
南野 奈津子 P-A-11-12
源 証 香 K-A-1-04
峯 恭 子 P-A-9-13
箕輪 潤子 J-C-10
箕輪 恵美 J-F-5
三原 詔子 K-B-5-05
三宅 茂夫 学会企画課題研究委員会シンポジウム
三宅 美千代 K-C-6-05
P-A-6-02
P-A-6-04
三宅 美由紀 P-B-5-10
宮崎 寛子 実行委員会企画シンポジウムC
宮崎 真利子 P-B-1-05
P-B-1-06
みやざき 美栄 P-B-4-05
宮里 暁美 K-C-2-04
P-C-11-05
P-D-3-01
宮里 耕太 P-C-4-04
宮嶋 晴子 K-A-6-01
P-C-4-09
宮田 まり子 K-A-9-04
K-D-5-05
宮地 あゆみ P-C-10-14
宮野 周 P-C-10-11
宮平 隆央 P-D-4-08
三山 美美子 K-A-3-06
宮本 美和子 P-D-6-10
宮本 雄太 K-A-9-04
P-D-11-09
名頭園 弥生 K-C-2-05
三好 伸子 P-D-3-05
P-D-3-06
三輪 雅美 P-A-3-01
三輪 由香里 P-B-6-02

む

向井 美穂 P-B-7-10
向笠 京子 K-C-7-04

椋田 善之 J-D-2
無 藤 隆 J-B-9
実行委員会企画シンポジウムD
武藤 久枝 P-C-5-01
村井 尚子 P-D-2-03
村石 理恵子 J-D-8
村上 太郎 K-C-2-01
P-C-10-06
村上 博文 K-A-1-04
P-A-5-12
村上 康子 K-B-7-02
村上 八千世 K-A-5-02
村 上 涼 J-E-5
P-D-8-05
村川 万里子 K-A-3-06
村崎 千津子 P-A-4-05
村瀬 智彦 P-A-1-06
村田 あゆみ P-B-1-01
村田 康常 K-D-7-04
村田 泰弘 P-A-9-12
村松 直人 K-A-3-02
村松 幹子 P-C-6-06
村松 裕平 P-B-4-11
村山 大樹 K-C-5-04
村山 祐一 J-D-7
室 雅 子 P-A-1-02
室井 眞紀子 P-D-2-04
室矢 真弓 P-D-10-04

も

最上 秀樹 K-A-3-06
K-C-2-02
望月 文代 P-A-9-06
P-A-9-07
望月 之美 P-A-4-02
持松 朋世 P-D-6-11
本岡 美保子 K-A-5-01
本野 洋子 K-C-3-05
K-D-8-03
本村 真弓 P-A-8-09
本山 方子 J-E-8
本山 益子 P-C-6-01
桃枝 智子 P-A-10-07
百瀬 ユカリ P-A-5-13
森 俊 之 P-C-7-01
P-C-7-03
森 眞 理 J-C-7
K-C-1-03
K-C-1-04
P-D-5-05
森 万里子 P-A-9-02

森 美保子 P-C-10-10
森川 みゆき P-B-8-04
守川 美輪 K-A-2-01
森川 由衣 P-C-8-04
森口 達也 J-D-6
P-B-7-05
森田 健宏 P-B-8-06
森本 壽子 P-C-3-01
森本 寛訓 K-D-5-04
P-C-11-04
P-D-8-10
森本 将行 J-D-2
森元 眞理 K-D-3-04

や

矢尾 千比呂 P-A-11-02
八木 亜弥子 K-A-4-04
矢崎 桂一郎 K-B-6-01
矢島 弥生 K-B-8-02
安井 知香 J-F-6
安川 由貴子 P-D-10-01
保田 恵莉 J-E-4
安見 克夫 P-A-4-09
谷田貝 公昭 P-D-10-04
谷地 理沙 J-E-7
柳瀬 洋美 J-A-1
P-A-11-08
矢野 永吏子 P-A-7-10
矢野 潔子 J-B-6
矢野 景子 J-E-3
P-B-11-06
矢野 咲子 P-A-2-08
P-A-4-06
矢野 眞 P-C-1-04
矢野 眞理 P-D-10-09
八幡 眞由美 P-A-6-01
P-A-6-02
P-A-6-04
薮崎 伸一郎 K-B-3-05
P-C-10-11
P-D-6-05
薮田 朝美 J-A-8
山内 信子 P-C-10-12
山岡 千秋 J-A-9
山岸 多恵 K-C-4-05
山岸 日登美 J-E-3
P-D-5-05
山崎 敬太郎 実行委員会企画シンポジウムB
山崎 摂史 P-B-9-02
山崎 美鈴 P-C-6-02
山崎 優 P-B-2-03

山崎 玲奈 P-A-9-03
山路 千華 J-D-9
山下 晶子 P-B-8-02
山下 久美 K-D-1-01
P-A-7-08
P-C-1-03
山下 恵子 J-C-4
P-D-7-02
山下 なおみ P-D-3-03
山下 博 K-D-6-05
山下 愛実 J-C-4
山下 佳香 P-A-5-13
山城 いつき P-D-6-02
山田 知佳 P-D-10-12
山田 朋子 P-A-5-07
山田 七奈 K-A-2-01
山田 伸之 P-C-1-09
山田 悠莉 P-C-9-03
やまだ ようこ J-B-5
山中 健司 K-D-4-03
山梨 みほ K-A-4-05
山梨 有子 J-D-10
P-D-2-10
山並 道枝 J-F-7
山西 加織 P-A-7-13
山野 栄子 K-C-4-04
山本 一成 J-B-5
K-D-4-02
P-C-7-08
山本 聡子 P-B-1-01
山本 智子 K-B-8-01
山本 直樹 P-C-2-06
山本 華子 P-B-8-01
P-D-6-09
山本 房子 P-C-2-09
山本 学 P-A-3-13
山本 真実 K-D-1-01
山本 麻美 P-B-3-06
山本 弥栄子 J-F-3
山本 幸子 K-C-2-01
山本 理絵 P-D-11-13

ゆ

湯川 嘉津美 K-A-1-01
雪野 啓子 実行委員会企画シンポジウムA
弓削田 綾乃 P-A-9-09
遊佐 永一 P-A-6-08
湯地 宏樹 K-A-6-03
湯地 由美 K-A-6-03

よ

横井 一之 K-B-4-01
横井 志保 P-B-3-01
横井 紘子 P-D-4-06
横島 三和子 P-A-8-10
横田 典子 P-C-9-03
横山 草介 J-B-5
P-D-3-04
吉岡 眞知子 P-C-7-01
P-C-7-03
吉川 和幸 J-F-5
P-B-5-02
吉川 暢子 P-B-3-08
吉澤 一弥 P-B-7-13
吉澤 幸 P-B-2-09
吉島 紀江 P-C-10-02
葭田 昭子 J-C-8
由田 新 J-F-1
吉田 清夏 K-A-5-05
吉田 茂 P-A-2-06
吉田 直哉 K-A-9-02
K-C-6-03
K-C-6-04
吉田 紘子 P-D-3-10
吉田 昌弘 K-D-1-04
吉田 真弓 P-D-3-03
吉田 真理子 J-F-2
吉田 百加利 K-B-8-05
吉津 晶子 K-D-8-02
P-C-1-04
吉次 豊見 P-D-2-02
吉永 安里 J-C-3
吉永 早苗 P-A-11-08
吉村 美由紀 P-B-11-04
吉村 譲 P-B-11-04
善本 眞弓 J-A-9
米園 美里 K-A-5-05
寄 ゆかり P-A-9-11

り

李 睿 苗 K-B-5-02
劉 平 P-C-10-14
龍 崎 忠 K-A-7-02

ろ

呂 小 耘 K-B-3-06

わ

若月 麗美 P-B-4-03
P-B-5-07
若谷 啓子 P-D-5-09
脇 信 明 P-B-9-09
実行委員会企画シンポジウムD
和田 香誉 K-A-2-05
和田 晶子 J-C-1
和田 幸子 P-A-9-03
渡邊 詩子 K-A-3-05
渡邊 恵梨佳 P-A-10-03
P-C-5-05
渡邊 志津子 K-A-1-02
渡辺 俊太郎 P-A-8-05
渡邊 拓真 K-B-8-04
P-C-4-03
渡部 努 P-A-7-03
渡邊 哲也 J-E-6
渡邊 望 P-B-8-08
P-B-9-07
P-C-11-06
渡辺 英則 J-A-2
渡邊 裕 P-B-4-09
渡邊 真帆 J-C-2
K-B-7-05
渡辺 満美 J-E-7
渡辺 ユリナ P-A-1-05
渡辺 陽介 K-A-3-04
渡辺 令子 K-C-6-02
綿貫 文野 K-C-6-05

7. 大会実行委員会について

一般社団法人日本保育学会 大会実行委員会規程

(目的)

第1条 日本保育学会大会実行委員会（以下、委員会）は、学会年次大会開催のために業務に当たることを目的として、組織される。

(開催ブロックの決定)

第2条 大会開催地区は、大会開催細則によって開催2年前の理事会で決定し、評議員会、社員総会において承認される。

2 大会開催地区および開催順については、大会開催細則による。

(委員会の発足および終了)

第3条 委員会の発足については、各ブロックの理事および評議員が協議し、組織発足および終了の任を負う。

(委員会の構成)

第4条 委員会は、委員長、事務局長ならびに実行委員によって構成される。

2 委員長は、会長により委嘱される。

(委員長、事務局長および委員会の業務)

第5条 委員長が評議員でない場合には、会長の推薦により評議員に任命される。

2 委員長は、理事会ならびに評議員会に出席する。また大会検討委員会のメンバーとなる。

3 事務局長は、委員長の代理を務めることができる。また大会検討委員会のメンバーとなる。

4 委員会は、大会日、大会会場の決定および運営を委託する場合は委託業者を決定する。

5 委員会は、大会に関する会計管理を行う。会計管理は、学会の規準による。

6 委員会は、大会に関する通信の作成および発送を行う。発送のための会員名簿の管理は、学会事務局で行う。

7 委員会は、講演、実行委員会主催シンポジウム等の企画・実施を行う。

8 委員会は、会員からの申し込みによる口頭発表・ポスター発表、自主シンポジウム発表等の受理・決定、座長の決定および依頼を行う。

9 委員会は、学会企画諸シンポジウムの受託を行う。

10 委員会は、大会プログラムを編成する。

11 委員会は、大会発表論文集の作成および発送を行う。

12 委員会は、大会会場の設営および当日の運営を行う。

13 委員会は、大会終了後、大会に関する決算報告、『保育学研究』掲載の大会諸報告、大会参加者・発表者数（発表取り消し、取り下げの確認を含む）の報告を行う。また大会発表論文集の残部を学会事務局へ引渡す。さらに、次回大会実行委員会への申し渡しを行う。

14 委員会は、理事および評議員会開催会場の準備設営、研究奨励賞推薦委員会の会場の確保を行う。

15 委員会は、役員懇親会、会員交流パーティー開催の可否について決定し、運営を行う。

16 委員会は、名誉会員への案内および大会発表論文集の発送、賛助会員への案内の発送を行う。

17 委員会は、その他大会運営に関わる業務を行う。

(改廃)

第6条 本規程の改廃は理事会の改廃は理事会が行う。

附則 本規程本規程は平成20年9月14日（第63回大会）回大会より実施する。

一部 平成22年4月1日改正

一部 平成27年9月26日改正

一部 平成30年9月11日改正

一般社団法人日本保育学会 大会開催細則

(開催ブロックの決定)

- 第1条 大会開催の6ブロックは、〈北海道・東北〉、〈関東〉、〈中部〉、〈近畿〉、〈中国・四国〉、〈九州・沖縄〉の6ブロックとする。
- 2 大会開催は全国を6ブロックで、持ち回りで行う。その開催順序は以下に定める。
- ①関東 ②九州・沖縄 ③近畿 ④中部 ⑤関東 ⑥中国・四国 ⑦北海道・東北
⑧関東 ⑨近畿 ⑩中部 ①へ戻る
- 関東3、近畿2、中部2、その他1は、会員数に応じての回数である。
- 3 特別な事情がある場合、開催順序を変更することができる。その場合は、開催3年前までに会長に申し出て、理事会の承認を得なければならない。

(大会実行委員会の発足)

- 第2条 各ブロックの理事および評議員は、委員会発足の任を負う。
- 2 各ブロックの理事および評議員は、開催実績や利便性等を考慮して相談のうえ、2年前までに開催地を決め、大会実行委員会を組織する。
- 3 各ブロックの理事および評議員は、各ブロック内において大会開催に係る検討委員会等を設置し、大会開催地や開催方法を検討する。

(大会開催に向けた評議員の役割)

- 第2条 各ブロックの理事および評議員は、実行委員会とともに、大会開催に先立ち研究集会等を開催し、ブロック内の会員の学術・実践交流を活性化できるように努める。

附則 本細則は、第65回大会より施行する。

日本保育学会第 76 回大会 協賛企業・団体

〔広告掲載企業〕

(賛助会員)

株式会社Gakken
株式会社北大路書房
株式会社建帛社
株式会社光生館
株式会社チャイルド本社
中央法規出版株式会社

株式会社同文書院
ななみ書房
株式会社フレーベル館
株式会社萌文書林
株式会社ミネルヴァ書房
株式会社わかば社

(その他の協力企業・団体)

株式会社風間書房
株式会社学研ココファン・ナーサリー
株式会社晃洋書房
株式会社ジャクエツ
株式会社世界文化ワンダー販売

株式会社創成社
株式会社大学図書出版
田園調布学園大学大学院
ひかりのくに株式会社
株式会社保育のデザイン研究所

〔オンライン展示〕

(賛助会員)

株式会社一藝社
株式会社北大路書房
株式会社萌文書林

(その他の協力企業・団体)

株式会社晃洋書房
株式会社H&H
株式会社明石書店

〔後援〕

熊本県	熊本市教育委員会	熊本県私立幼稚園連合会
熊本市	熊本県保育協会	熊本市私立幼稚園・認定こども園協会
熊本県教育委員会	熊本市保育園連盟	熊本日日新聞

本大会を開催するにあたりまして、上記の諸団体の皆様よりご協力いただきました。
ここにそのご芳名を記して、心からの感謝の意を表します。

2023 年 4 月
一般社団法人日本保育学会第 76 回大会実行委員長 伊藤 良高

日本保育学会第 76 回大会 実行委員会

実行委員長 伊 藤 良 高 (熊本学園大学)
事務局長 吉 津 晶 子 (熊本学園大学)
事務局次長 上 原 真 幸 (熊本学園大学)

実行委員 (50 音順)

相 浦 雅 子 (佐賀女子短期大学)	諫 山 裕美子 (久留米大学)
井 上 浩 義 (宮崎学園短期大学)	今 津 尚 子 (九州女子大学)
今 林 俊 一 (鹿児島純心女子短期大学)	大 元 千 種 (別府大学短期大学部)
岡 花 祈一郎 (琉球大学)	片 桐 真 弓 (尚絅大学短期大学部)
門 田 理 世 (西南学院大学)	金 丸 智 美 (西九州大学短期大学部)
栗 原 武 志 (熊本学園大学)	香 崎 智郁代 (九州ルーテル学院大学)
清 水 陽 子 (九州産業大学)	菅 原 航 平 (福岡県立大学)
田 中 敏 明 (豊岡短期大学)	田 渕 久美子 (活水女子大学)
出 川 聖尚子 (熊本学園大学)	永 野 典 詞 (九州ルーテル学院大学)
永 渕 美香子 (中村学園大学短期大学部)	名渡山 よし乃 (沖縄女子短期大学)
久 松 尚 美 (宮崎学園短期大学)	広 瀬 健一郎 (鹿児島純心大学)
二子石 諒 太 (熊本学園大学)	三 井 真 紀 (九州ルーテル学院大学)
宮 崎 由紀子 (中九州短期大学)	矢ヶ部 陽 一 (西九州大学短期大学部)
脇 信 明 (長崎大学)	渡 邊 由 恵 (九州産業大学)

(2023 年 4 月 1 日現在)

一般社団法人日本保育学会 第76回大会 プログラム

発 行 日 令和5年4月12日

発 行 者 一般社団法人日本保育学会
第76回大会実行委員会

実行委員長 伊藤 良高

〒862-8680 熊本県熊本市中央区大江2丁目5番1号
熊本学園大学内

一般社団法人日本保育学会第76回大会実行委員会